



鶴岡市立荘内病院 医学雑誌

第29巻/2018

The Medical Journal of Tsuruoka Municipal Shonai Hospital

巻頭の言葉

院 長 三 科 武

特集 当院における地域連携・退院支援の取り組み 1

当院における地域医療連携室の軌跡と役割	地域医療連携室 室長	鈴木 聡
庄内南部地域の基幹病院としての地域医療支援病院の役割	地域医療連携室 社会福祉士	鈴木貞子
当地域の地域連携クリティカルパスの現状とこれから	地域医療連携室 社会福祉士	佐々木淑江
地域医療情報ネットワーク (ID-LinkとNet4U) の推進	地域医療連携室 専門員	前田寛枝
地域緩和ケアネットワークの実際とこれから	地域医療連携室 室長補佐	富樫 清
当院の相談窓口と退院調整の取り組みについて	地域医療連携室 室長補佐	富樫 清

原著・研究・症例

アジスロマイシンが奏功した小児ツツガムシ病の一例	21
小 児 科	幾瀬 樹	
くも膜下出血後の脳血管攣縮に対する体重管理を指標とした経腸栄養管理	27
脳神経外科	佐藤 和彦	
アミノ酸乳に対してアレルギー症状がみられた新生児・乳児消化管アレルギーの1例	33
小 児 科	山田 慧	
当院に緊急搬送された子宮内反症の5例	39
産 婦 人 科	五十嵐裕一	
当院排尿ケアチームの介入患者における薬物療法の概要と治療効果の調査	47
薬 局	吉田 諒	
小児卵巣腫瘍に対し単孔式腹腔鏡下卵巣腫瘍核出術及び臍形成術を施行した一例	51
産 婦 人 科	矢野 亮	
3270 gの巨大子宮筋腫核を腹腔鏡下手術にて摘出した一例	57
産 婦 人 科	高柳 健史	

2017年 学術活動業績 63

2017年 學術活動業績

I. 他誌掲載論文

著者名	所属科	掲載誌 巻(号):頁,年	論文名
染矢圭一郎、日向野行正、 後藤真一、浦川貴朗、 上村一成、穂苺 翔、 渋谷洋平、鈴木宣瑛	整形外科	東北整災誌 60(1):72-75, 2017	肩峰骨折に対し上腕骨遠位端用 ロッキングプレート VA-LCP Distal Humeral Plate (VA-LCP DH P)を用いて骨接合を行った 1例
後藤真一、上村一成	整形外科	日本マイクロ会誌 30(3):116- 119, 2017	高齢者の切断指再接着術の特徴
Makoto Endoh ¹⁾ 、 Hiroyuki Oizumi ¹⁾ 、 Hirohisa Kato ¹⁾ 、 Jun Suzuki ¹⁾ 、 Hikaru Watarai ¹⁾ 、 Toshiaki Masaoka ²⁾ 、 Mitsuaki Sadahiro ¹⁾	1) Department of Surgery II, Faculty of Medicine, Yama gata University 2) Thoracic Divisi on, Tsuruoka Mun icipal Shonai Hosp ital,	J Thorac Cardiovasc Surg 154(4):1432-1439, 2017	Posterior approach to thora scopic pulmonary segment ectomy of the dorsal basal segment: A single-institute retrospective review
城之前翼 ¹⁾ 、大滝雅博 ²⁾ 、 二瓶幸栄 ¹⁾ 、鈴木 聡 ¹⁾ 、 三科 武 ¹⁾	1) 外科 2) 小児外科	日本小児外科学会雑誌 53(6): 1186-1190, 2017	小児乳腺腫瘍に対する排膿散及 湯の使用経験例
鈴木 聡	外科、緩和ケアサポ ートセンター 鶴岡・三川 センター 長	めでいかすとする (297):8-9, 2017	第10回緩和ケア市民公開講座開 催される
太田依璃子 ¹⁾ 、白幡康弘 ²⁾ 、 渋谷俊介 ¹⁾ 、郷右近祐司 ³⁾ 、 鈴木 聡 ²⁾	1) 岩手県立胆沢病 院外科 2) 外科 3) 岩手県立遠野病 院外科	手術 71 (9):1353-1356, 2017	肝細胞癌との鑑別がきわめて困 難であった放線肉肉芽腫症の1 例
鈴木 聡	外科、鶴岡地区医師 会 勤務医委員会委員長	めでいかすとする (304):2, 2017	「病院勤務医と医師会会員との 懇談会2017」のご報告
白井賢司 ¹⁾²⁾ 、坂本 薫 ¹⁾ 、 赤羽根健太郎 ¹⁾ 、 早坂一希 ¹⁾ 、水木 亨 ¹⁾²⁾ 、 八木 寛 ¹⁾²⁾ 、白幡康弘 ¹⁾ 、 市川 寛 ²⁾ 、羽入隆晃 ²⁾ 、 石川 卓 ²⁾ 、亀山仁史 ²⁾ 、 鈴木 聡 ¹⁾ 、齊藤聖宏 ³⁾ 、 若井俊文 ²⁾	1) 外科 2) 新潟大学医歯学 総合研究科・消 化器・一般外科 学分野 3) 放射線科	癌と化学療法 Vol.44(12): 1497-1499, 2017	術中 I C G 蛍光法で血流評価を 行った脾動脈瘤併存胃癌の1例
鈴木 聡	外科、緩和ケアサポ ートセンター鶴岡・三 川センター長	地域におけるがん患者の緩和ケ アと療養支援情報普及と活用プ ロジェクト http://homecare.umin.jp/ action/20171031/suzuki.html 2017年12月12日 掲載	地域におけるがん患者の緩和ケ アと療養支援情報普及と活用プ ロジェクト がんの在宅療養 緩和ケアを学 ぼう会特別編 2017 鶴岡・三川 /がん患者の療養を地域で支える 開会あいさつ

Ⅱ. 学 会 発 表

氏 名	所 属 科	演 題	学 会 名	開催地	月 日
上村一成、後藤真一、日向野行正、浦川貴朗、穂苺 翔、渋谷洋平、荒引 剛、藤田 裕	整形外科	小児上肢骨折の受傷状況とその特徴	第228回新潟整形外科研究会	新潟市	2017.1.21
大滝雅博 ¹⁾ 、鈴木 聡 ²⁾	1) 小児外科 2) 外科	急性期虫垂炎の、腹腔鏡手術後遺残膿瘍発生予防に対する治療戦略	第53回日本腹部救急医学会総会	横浜市	2017.3.2 -3
早坂一希 ¹⁾ 、坂本 薫 ¹⁾ 、水木 亨 ¹⁾ 、白井賢司 ¹⁾ 、八木 寛 ¹⁾ 、白幡康弘 ¹⁾ 、鈴木 聡 ¹⁾ 、鈴木真彦 ²⁾	1) 外科 2) 北村山公立病院 乳腺外科	乳管内乳頭腫との鑑別が困難であった encapsulated papillary carcinomaの1例	第14回日本乳癌学会東北地方会	仙台市	2017.3.4
日向野行正、後藤真一、浦川貴朗、上村一成、穂苺 翔、渋谷洋平、荒引 剛、藤田 裕	整形外科	当院におけるSSIサーベイランスの現状とその効果	第229回新潟整形外科研究会	新潟市	2017.3.25
正岡俊明	呼吸器外科	胸腔鏡下肺区域切除術におけるICG静注法による肺区域間同定法の経験	第28回内視鏡外科フォーラム東北	山形市	2017.4.15
早坂一希、正岡俊明、石原 良	呼吸器外科	胸壁腫瘍と胸膜下肺内腫瘍との鑑別に動態CTが有用であった2例	第27回三地区合同肺癌・呼吸器疾患研究会	鶴岡市	2017.4.22
鈴木 聡 ¹⁾ 、坂本 薫 ¹⁾ 、白幡康弘 ¹⁾ 、八木 寛 ¹⁾ 、白井賢司 ¹⁾ 、水木 亨 ¹⁾ 、中橋健太 ¹⁾ 、早坂一希 ¹⁾ 、三科 武 ¹⁾ 、鈴木真彦 ²⁾	1) 外科 2) 北村山公立病院 乳腺外科	専門医による乳腺外来開設が乳がんの治療方針決定に及ぼす影響について	第117回日本外科学会	横浜市	2017.4.28
大滝雅博 ¹⁾ 、鈴木 聡 ²⁾ 、三科 武 ²⁾	1) 小児外科 2) 外科	Rectosigmoid型Hirschsprung病に対する腹腔鏡手術操作の有用性について	第54回日本小児外科学会学術集会	仙台市	2017.5.11 -13
川妻崇之	リハビリテーションセンター	扁平足のインソール装着による骨盤・肩甲骨への波及効果 ーデジタルカメラの臨床応用の検討ー	第52回日本理学療法学会学術大会	千葉市	2017.5.12
中林大器、幾瀬 樹、谷 知行、山田 慧、新井 啓、田中 岳、齋藤なか、吉田 宏	小児科	血漿交換が奏功したマイコプラズマ感染後遅発性脳炎の1例	第225回日本小児科学会新潟地方会	新潟市	2017.5.13

氏名	所属科	演題	学会名	開催地	月日
千葉春輝、正岡俊明、早坂一希	呼吸器外科	胸骨骨折に対して梯子形ロッキングプレートによる固定術を行った1例	第34回日本呼吸器外科学会総会	福岡市	2017.5.18
正岡俊明、早坂一希、千葉春輝	呼吸器外科	左上葉区域切除術の肺機能温存効果についての検討	第34回日本呼吸器外科学会総会	福岡市	2017.5.18
早坂一希、正岡俊明	呼吸器外科	CA19-9およびCEA産生肺大細胞癌の1切除例	第34回日本呼吸器外科学会総会	福岡市	2017.5.19
若松由紀子	看護部	清掃担当者として協同で取り組んだ針刺し・切創事故防止活動の効果	第6回日本感染管理ネットワーク学術集会	函館市	2017.5.19 -20
高橋圭史、眞嶋義彦、佐藤克之、落合一美	放射線画像センター	肺動静脈1相撮影法の検討	第53回山形県放射線技師学術大会	上市市	2017.5.20 -21
中林大器、古川絵美、谷知行、山田慧、新井啓、林雅子、斎藤なか、吉田宏	小児科	カテーテル関連血流感染により化膿性膝関節炎を発生した2歳男児例	第105回日本小児科学会山形地方会	山形市	2017.5.21
五十嵐康郎	薬局	当院の認知症ケアチームにおける薬剤師業務の現状	第56回山形県病院薬剤師研修会	山形市	2017.5.28
梅本貴子	看護部	医療・介護による地域連携を目指した排泄ケアの推進	第26回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会	千葉市	2017.6.2-3
加藤愛	看護部	排尿ケアチームの活動より見えた課題の検討	第26回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会	千葉市	2017.6.2-3
工藤俊之介 ¹⁾ 、白幡康弘 ²⁾ 、坂本薫 ²⁾ 、白井賢司 ²⁾ 、永井佑 ²⁾ 、太田依璃子 ²⁾ 、鈴木聡 ²⁾	1) 臨床研修医 2) 外科	直腸癌化学療法中に生じ、原発性膵癌と鑑別困難であった膵脂肪壊死の一例	第173回東北外科集談会	仙台市	2017.6.3
阿部和人	薬局	山形県鶴岡地区における緩和医療薬学教育の現状と課題	第11回日本緩和医療薬学会年会	札幌市	2017.6.3
荒引剛、浦川貴朗、藤田裕、渋谷洋平、穂苅翔、上村一成、日向野行正、後藤真一	整形外科	若手医師の大腿骨転子部骨折術中被曝に関する調査	第114回東北整形災害外科学会	新潟市	2017.6.9
穂苅翔、日向野行正、後藤真一	整形外科	ニコチンによる薬剤性足関節炎と考えられた1例	第114回東北整形災害外科学会	新潟市	2017.6.9

氏名	所属科	演題	学会名	開催地	月日
古川絵美、谷知行、山田慧、中林大器、新井啓、林雅子、齋藤なか、吉田宏	小児科	当院における新生児低体温療法開始後の治療成績	第34回山形県周産期・新生児医療研究会	山形市	2017.6.10
佐藤和彦、正岡俊明	呼吸器外科	呼吸動態CTによる左肺癌大動脈浸潤の評価例の検討	第49回山形肺癌懇話会	山形市	2017.6.17
和泉典子 ¹⁾ 、高橋直子 ²⁾ 、國分広志 ²⁾ 、上林沙希子 ³⁾ 、阿部美知子 ³⁾ 、鈴木聡 ⁴⁾	鶴岡市立荘内病院緩和ケアチーム 1) 内科 2) 薬局 3) 看護部 4) 外科	化学療法が奏功し、相対的オピオイド過量による悪心・嘔吐と除脈をきたした2例	第22回日本緩和医療学会学術大会	横浜市	2017.6.23
鈴木聡 ¹⁾ 、和泉典子 ²⁾ 、上林沙希子 ³⁾ 、阿部美知子 ³⁾ 、三科武 ¹⁾ 、高橋牧郎 ⁴⁾ 、高橋美香子 ⁴⁾ 、釘持朝子 ⁴⁾ 、土田兼史 ⁴⁾ 、三原一郎 ⁴⁾ 、中村秀幸 ⁴⁾	1) 外科 2) 内科 3) 看護部 4) 南庄内緩和ケア推進協議会	医師への緩和ケア教育法を考える～地域がん症例検討会「キャンサーボード鶴岡」の有用性について～	第22回日本緩和医療学会	横浜市	2017.6.23
臼井賢司 ¹⁾ 、赤羽根健太郎 ¹⁾ 、坂本薫 ¹⁾ 、早坂一希 ¹⁾ 、水木亨 ¹⁾ 、八木寛 ¹⁾ 、白幡康弘 ¹⁾ 、鈴木聡 ¹⁾ 、斉藤聖宏 ²⁾	1) 外科 2) 放射線科	術中ICG蛍光法で血流評価を行った脾動脈瘤併存胃癌の1例	第39回日本局所療法研究会	京都市	2017.6.23
荒引剛、後藤真一、日向野行正、浦川貴朗、上村一成、細野泰照、田中裕貴、藤田裕	整形外科	慢性再発性多発性骨髄炎と診断した1例	第43回庄内整形外科医会	鶴岡市	2017.6.24
鈴木聡	外科	医師に感染対策上の行動変容を促すための感染対策チーム（ICT）の役割	第19回日本医療マネジメント学会	仙台市	2017.7.7
上村一成、後藤真一、日向野行正、浦川貴朗、細野泰照、田中裕貴、荒引剛、藤田裕	整形外科	発症4年後と6年後に骨癒合を確認できた第1肋骨疲労骨折の2例	第43回日本骨折治療学会	郡山市	2017.7.8
竹内梨紗 ¹⁾ 、鈴木聡 ²⁾ 、坂本薫 ²⁾ 、水木亨 ²⁾ 、三科武 ²⁾ 、鈴木真彦 ³⁾	1) 看護部 2) 外科 3) 北村山公立病院乳腺外科	Nab-Paclitaxel治療後の高度な関節痛、筋肉痛のため治療を中止せざるを得なかった乳がん術後症例	第25回日本乳癌学会	福岡市	2017.7.15

氏名	所属科	演題	学会名	開催地	月日
水木 亨 ¹⁾ 、坂本 薫 ¹⁾ 、 鈴木真彦 ²⁾ 、鈴木 聡 ¹⁾ 、 三科 武 ¹⁾	1) 外科 2) 北村山公立病院 乳腺外科	検診異常で発見された乳 腺 oncocytic carcinoma の一例	第25回日本乳癌学会	福岡市	2017.7.15
梅本貴子	看護部	創傷管理における地域医 療連携－2年間の実践報 告－	第14回医療マネジメ ント学会山形支部学 術集会	鶴岡市	2017.7.15
栗田 香	看護部	タイミングの良い手指衛 生に向けた取り組み	第14回医療マネジメ ント学会山形支部学 術集会	鶴岡市	2017.7.15
齋藤由美	看護部	果物アレルギーのある患 者にラテックス製品を使 用した事例からの取り組 み	第14回医療マネジメ ント学会山形支部学 術集会	鶴岡市	2017.7.15
中野早苗	看護部	ヒルシユスブルグ病患 児における洗腸チューブ 固定の工夫	第14回医療マネジメ ント学会山形支部学 術集会	鶴岡市	2017.7.15
五十嵐康郎	薬局	当院の認知症ケアチーム における薬剤師の関わり	第14回日本医療マネ ジメント学会山形県 支部学術集会	鶴岡市	2017.7.15
正岡俊明 ¹⁾ 、濱田 顕 ²⁾	1) 呼吸器外科 2) 山形大学医学部 第2外科	ICG 静注法とSlip knot 法の併用で区域間同定を 行った右S6区域切除術 の1例	第56回日本肺癌学会 東北支部会 第43回呼吸器内視鏡 学会東北支部会	山形市	2017.7.29
齋藤まゆ	看護部	糖尿病を有する透析患者 の定期眼科受信の実態調 査	第5回日本糖尿病協 会療養指導学術集会	京都市	2017.7.29 －30
新井 啓、古川絵美、 谷 知行、山田 慧、 中林大器、林 雅子、 齋藤なか、吉田 宏	小児科	食物依存性運動誘発アナ フィラキシーが疑われた 気管支喘息例	庄内小児科医会学術 講演会	酒田市	2017.8.18
風間千沙子	看護部	泌尿器科におけるデスカ ンファレンスの取り組み	第12回庄内緩和医療 研究会	鶴岡市	2017.8.26
若松由紀子	看護部	当院における麻しん対応 の実際	第9回J感染制御ネッ トワークフォーラム	仙台市	2017.8.26
太田依璃子 ¹⁾ 、白幡康弘 ¹⁾ 、 永井 佑 ¹⁾ 、白井賢司 ¹⁾ 、 坂本 薫 ¹⁾ 、鈴木 聡 ¹⁾ 、 内ヶ崎新也 ²⁾ 、三科 武 ¹⁾	1) 外科 2) 病理科	2型糖尿病の悪化にて偶 発的に発見された膵鉤部 原発神経鞘腫の1例	第174回東北外科集 談会	盛岡市	2017.9.9
佐藤 南	看護部	医療用弾性ストッキング による医療関連機器圧迫 創傷の発生状況	第19回日本褥瘡学会 学術集会	盛岡市	2017.9.14 －15

氏名	所属科	演題	学会名	開催地	月日
鎌田敬志 ¹⁾⁴⁾ 、荒井真智子 ¹⁾ 、 鈴木悠太 ²⁾⁴⁾ 、成田康之 ³⁾⁴⁾ 、 宅井さやか ⁵⁾	1) 薬局 2) 庄内余目病院 薬局 3) 日本海総合病院 4) 庄内薬剤師 糖尿病研究会 5) 看護部	DPP4阻害薬・GLP1受 容体作業薬・SGLT2阻 害薬とSU薬・グリニド 薬・インスリン注射薬の 組み合わせ処方と課題	第6回日本くすりと 糖尿病学会学術集会	東京都	2017.9.17 -18
正岡俊明、石原 良	呼吸器外科	胸腔鏡下肺区域切除にお けるICG静注による区域 間同定法の検討	第70回日本胸部外科 学会定期学術集会	札幌市	2017.9.27
山口朱美	看護部	A病院における超急性期 脳梗塞に対するt-PA静 注療法の現状と課題	第19回日本救急看護 学会	金沢市	2017.10.6 -7
鈴木尚樹 ¹⁾ 、正岡俊明 ¹⁾ 、 佐藤 昂 ²⁾ 、河上英則 ²⁾	1) 呼吸器外科 2) 呼吸器科	von Recklinghausen病 に合併した悪性末梢神経 鞘腫の肺転移の1切除例 の考察	第12回山形呼吸器外 科研究会	山形市	2017.10.7
上林沙希子	看護部	家族と疎遠だった独居男 性の終末期の意思決定が 看取り間際に行われた1 事例	第41回日本死の臨床 研究会年次大会	秋田市	2017.10.7 -8
和田美枝	看護部	母子育児支援チームの立 ち上げと地域との連携	第44回山形県公衆衛 生学会	さいたま市	2017.10.13 -14
永井 佑 ¹⁾ 、大滝雅博 ²⁾	1) 外科 2) 小児外科	小児腹腔鏡下手術におけ る臍切開法の工夫(逆S字 切開法)	第37回日本小児内視 鏡外科・手術手技研 究会	川崎市	2017.10.26 -27
中林大器、古川絵美、 谷 知行、山田 慧、 新井 啓、林 雅子、 斎藤なか、吉田 宏	小児科	治療に難渋した新生児消 化管アレルギーの1例	第34回庄内周産期懇 話会	酒田市	2017.10.28
田中裕貴、浦川貴朗、 涌井純一、藤田 裕、 細野泰照、上村一成、 日向野行正、後藤真一	整形外科	脊椎に発生したランゲル ハンス細胞組織球症(L CH)の2例	第44回庄内整形外科 医会	酒田市	2017.10.28
高橋裕美	中央検査科	血液像にて多彩なリンパ 球を認めHTLV-I抗体 陽性が判明した2症例	第38回山形県医学検 査学会	長井市	2017.10.28 -29
正岡俊明	呼吸器外科	当院の胸腔鏡手術 いくつかの工夫	山形呼吸器外科手術 手技セミナー	山形市	2017.11.3

氏名	所属科	演題	学会名	開催地	月日
吉田 諒	薬局	当院排尿ケアチームの介入における薬物療法の概要と治療効果の調査を通して今後の取り組みを考える（ポスター発表）	第27回日本医療薬学会年会	千葉市	2017.11.3
鎌田敬志 ¹⁾ 、石川大介 ¹⁾ 、 荒井真智子 ¹⁾ 、阿部優子 ²⁾ 、 齋藤まゆ ²⁾ 、長濱恵美 ²⁾ 、 押井あけみ ²⁾ 、百瀬 幸 ²⁾	1) 薬局 2) 看護部	ライゾデグ®配合注フレックスタッチ®の評価と代替え説明パンフレット有用性の検討	日本糖尿病学会第55回東北地方会	仙台市	2017.11.11
齋藤大輔、本間克彦	歯科口腔外科	鶴岡市立荘内病院歯科口腔外科において開設から11.5年間に施行された顎矯正手術の臨床統計的検討	新潟歯学会第2回例会	新潟市	2017.11.11
大塚隼人	中央検査科	高濃度グルコース尿が検査に及ぼす影響の調査	日本糖尿病学会第55回東北地方会	仙台市	2017.11.11
Satoshi Suzuki, Kaoru Sakamoto, Yasuhiro Shirahata, Kenji Usui, Yu Nagai, Eriko Ohta	Dept. of Surgery	Evaluation of therapeutic efficacy of imatinib in patients with advanced or recurrent gastrointestinal stromal tumor	IASGO 2017	Lyon, France	2017.11.17
石井 佳	看護部	とろみを介助する看護師の意識調査	山形県看護研究学会	山形市	2017.11.19
井上 悠	看護部	麻痺患者への個別的な車椅子シーティングを取り入れた Barthel Index「食事動作」の変化	山形県看護研究学会	山形市	2017.11.19
加藤さくら	看護部	皮膚乾燥のある高齢者へのワセリン使用における皮膚水分量の変化	山形県看護研究学会	山形市	2017.11.19
上林沙希子	看護部	緩和ケアチームのこれまでの活動と今後の課題ー依頼内容の推移からー	山形県看護研究学会	山形市	2017.11.19
剣持有紀子	看護部	人工関節置換術を受けた患者の入院日数延長の原因分析ー負のバリエーションから見えた課題ー	山形県看護研究学会	山形市	2017.11.19
辻村りか	看護部	看護主任としての看護補助者育成に向けた目標管理	山形県看護研究学会	山形市	2017.11.19
渡部真希	看護部	異常分娩後の褥婦のバースレビューを実施して	山形県看護研究学会	山形市	2017.11.19

氏名	所属科	演題	学会名	開催地	月日
永井 佑、坂本 薫、 臼井賢司、鈴木 聡、 三科 武	外科	右尿管転移をきたした直腸癌の1例	第79回日本臨床外科学会総会	東京都	2017.11.23
白幡康弘 ¹⁾ 、太田依璃子 ¹⁾ 、 永井 佑 ¹⁾ 、臼井賢司 ¹⁾ 、 坂本 薫 ¹⁾ 、鈴木 聡 ¹⁾ 、 三科 武 ¹⁾ 、内ヶ崎新也 ²⁾	1) 外科 2) 病理科	2型糖尿病の悪化にて偶発的に発見された膵鉤部原発神経鞘腫の1例	第36回庄内医師集談会	鶴岡市	2017.11.26
新井 啓、古川絵美、 谷 知行、山田 慧、 中林大器、林 雅子、 齋藤なか、吉田 宏	小児科	髄膜炎を繰り返した髄膜脳腫の一例	第36回庄内医師集談会	鶴岡市	2017.11.26
鈴木 聡 ¹⁾ 、中林大器 ²⁾ 、 菊池 元 ³⁾	荘内病院感染対策チーム 1) 外科 2) 小児科 3) 麻酔科	医師に感染対策上の行動変容を促すための感染対策チーム（ICT）の役割	第36回庄内医師集談会	鶴岡市	2017.11.26
田中 庸	薬局	当院における小児薬物療法への取り組み	第37回山形県病院薬剤師会実務研修会	山形市	2017.11.29
渡部美穂	リハビリテーションセンター	脳卒中連携パスデータマニングからみた再発例の特徴と課題	第18回日本クリニカルパス学会学術集会	大阪市	2017.12.1 -2
工藤俊之介、坂本 薫、 白幡康弘、永井 佑、 太田依璃子、臼井賢司、 鈴木 聡、三科 武	外科	直腸癌化学療法中に生じ、原発性膵癌と鑑別困難であった膵脂肪壊死の1例	第282回新潟外科集談会	新潟市	2017.12.2
新井 啓、古川絵美、 谷 知行、山田 慧、 中林大器、林 雅子、 齋藤なか、吉田 宏	小児科	Tubulointerstitial nephritis and uveitis syndrome（TINU症候群）の一例	第107回日本小児科学会山形地方会	山形市	2017.12.3
正岡俊明	呼吸器外科	右後上葉区肺静脈（V2）の走行異常に関する検討～術前3DCT 225例の分析から～	第30回日本内視鏡外科学会総会	京都市	2017.12.9
古川絵美、谷 知行、 山田 慧、中林大器、 新井 啓、林 雅子、 齋藤なか、吉田 宏	小児科	BCG接種後に生じた腺病性苔癬の双胎児例	第227回日本小児科学会新潟地方会	新潟市	2017.12.16

Ⅲ. 院 外 講 演

氏 名	所 属 科	演 題	講 演 会 名	月 日
鈴木 聡	外科、緩和ケアチーム	M-1a 緩和ケア研修会にあたって	山形県がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 in 荘内病院	2017.1.8 -9
上林沙希子	看護部	最期まで潤いのある生活を-当院の緩和ケアの実際-	鶴岡地区歯科医師会他科学習会	2017.2.23
幾瀬 樹	小児科	小児救急とバイタルサイン	平成29年度鶴岡地区医師会小児救急講習会	2017.2.23
鈴木 聡	外科	地域で支えるがん緩和ケア『庄内プロジェクト』の挑戦	第一三共(株)AMP(area marketing promoter)研修会	2017.3.10
鈴木 聡	外科	地域で支えるがん緩和ケア『庄内プロジェクト』の挑戦	名古屋市立大学緩和ケア講演会	2017.4.21
富樫博子	栄養科	災害時におけるバッククッキング	山形県栄養士会 平成29年度鶴岡地域事業部研修会	2017.5.27
五十嵐康郎	薬局	インスリン製剤をバイオ後続品へ切り替えた際の患者満足度についてのアンケート調査	第8回庄内薬剤師糖尿病講演会	2017.6.17
吉田 宏	小児科	クラゲ刺傷についてーカギノテクラゲを中心にー	平成29年度クラゲマイスター養成講座	2017.7.1
吉田 宏	小児科	小児救急疾患への対応	平成29年度小児救急医療講習会 in いのこ保育園	2017.7.19
鈴木 聡	外科	医師への緩和ケア教育法を考える～「がんサポーター」の有用性～	病院勤務医と医師会会員との懇談会	2017.7.27
吉田 宏	小児科	子どもの発育と病気について(母乳育児,早寝早起き,メディアとのつきあい方含め)	平成29年度鶴岡市子育てサポーター基礎講習	2017.7.31
大場宏太	リハビリテーションセンター	転倒防止に向けた立ち上がり方と歩行	庄内足とキズを考える会 医療安全の視点で考える転倒予防とフットケア	2017.8.9
和泉典子	内科	緩和ケアについて	YBCラジオ ドクターアドバイスで今日も元気	2017.8.14 -18
吉田 宏	小児科	生活リズムとメディア接触	すこやかネット出前子育て懇談会 in 大東保育園	2017.9.14
吉田 宏	小児科	小児救急疾患への対応	平成29年度小児救急医療講習会 in 貴船保育園	2017.9.15
高橋裕美	中央検査科	くも膜下出血後の栄養投与と変更における比較検討	第15回山形NST研修会	2017.9.15
佐太木淳一	リハビリテーションセンター	誤嚥性肺炎により人工呼吸器管理となった症例への抜管までの関わり	山形県理学療法士会庄内支部 症例検討会	2017.9.23
富樫博子	栄養科	栄養管理総合演習	東北女子大学講義	2017.10.10

氏名	所属科	演題	講演会名	開催地
和泉典子	内科・緩和ケアチーム	「意思決定プロセス・ガイドライン」人生の最終段階の意思決定に関する総論	平成29年度厚生労働省委託事業 人生の最終段階における医療体制整備事業患者の意向を尊重した意思決定のための研修会 (E-FIELD)	2017.10.14
澤井寛子	栄養科	腎臓をまもる食事ー減塩についてー	第9回市民公開セミナー鶴岡天腎祭	2017.10.15
五十嵐健文	リハビリテーションセンター	体操でバラ色腎生をめざそう	天腎祭	2017.10.15
富樫博子	栄養科	ストーマのトラブルと食事について	ストーマ患者と家族の会 『ぶちたみ』	2017.10.21
斉藤聖宏	放射線科	荘内病院放射線科における画像診断・IVR	第42回庄内最上画像研究会	2017.10.21
吉田 宏	小児科	新生児疾患と救急対応	平成29年度山形県消防学校救急科	2017.10.30
瀬尾章央	リハビリテーションセンター	腰痛予防と適切な介助方法について	特別養護老人ホームしおん荘 職員研修会	2017.11.8
鈴木 聡	外科、緩和ケアサポートセンター鶴岡・三川センター長	がん緩和ケア『庄内プロジェクト』で地域はどのように変わったか	第109回いわき緩和医療研究会	2017.11.13
吉田 宏	小児科	子どもの生活リズムと睡眠	すこやかネット出前子育て懇談会 in 温海小学校	2017.11.17
和泉典子	内科・緩和ケアチーム	緩和ケアにたずさわって～病気と共に生きる患者さん家族と最期まで歩む	庄内プロジェクトつるおか健康塾	2017.11.18
吉田 宏	小児科	メディアと睡眠と子どもの健康	平成29年度鶴岡市立朝陽第5小学校PTA研修会	2017.11.19
吉田 宏	小児科	小児救急疾患への対応	平成29年度小児救急医療講習会 in 常念寺保育園	2017.11.22
鈴木 聡	外科、緩和ケアサポートセンター鶴岡・三川センター長	緩和ケア「庄内プロジェクト」について	第11回緩和ケア市民公開講座	2017.11.25
古川絵美	小児科	小児疾患と救急対応	平成29年度山形県消防学校救急科	2017.11.29
吉田 宏	小児科	子どもの健康とメディアとの関係	平成29年度鶴岡市立京田小学校PTA研修会	2017.12.2
和泉典子	内科・緩和ケアチーム	人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドラインとその周辺について	ELNEC-J ランチョンセミナー	2017.12.3
吉田 宏	小児科	生活リズム～なぜ大事？メディア接触～なぜ問題？	すこやかネット出前子育て懇談会 in おもちゃ箱	2017.12.19
和泉典子	内科・緩和ケアチーム	つながりと支え合いから生まれた鶴岡地域の緩和ケア～庄内プロジェクト	第一三共 庄内エリア担当者勉強会	2017.12.26

IV. 院内各種研修会

氏名	所属科	演題	研修会名	月日
田中 庸	薬局	Shortened Antimicrobial Treatment for Acute Otitis Media in Young Children (N Engl J Med 2016 ; 375 : 2446-2456)	薬局 抄読・勉強会	2017.1.10
難波公大	放射線画像センター	胸腔鏡下術前CTにおける肺動静脈分離撮影の現状	放射線画像センター学習会	2017.1.24
山田 慧	小児科	平成28年10月から12月までの紹介患者経過報告	第98回荘内病院小児科病診連携研究会	2017.1.26
新井 啓	小児科	TINU症候群の一例	第98回荘内病院小児科病診連携研究会	2017.1.26
中林大器	小児科	マイコプラズマ感染症後に遅発性脳症が疑われた一例	第98回荘内病院小児科病診連携研究会	2017.1.26
幾瀬 樹	小児科	GBS感染が疑われた乳児筋膜炎の一例	第98回荘内病院小児科病診連携研究会	2017.1.26
谷 知行	小児科	2016年のRSウイルス感染症、マイコプラズマ肺炎での入院症例の月別推移	第98回荘内病院小児科病診連携研究会	2017.1.26
田中 岳	小児科	最近の抄読会から	第98回荘内病院小児科病診連携研究会	2017.1.26
土屋宏美	薬局	Predominance of Lactobacillus spp. Among Patients Who Do Not Acquire Multidrug-Resistant Organisms (Clinical Infectious Diseases Volume 63, Issue 7 937-943)	薬局 抄読・勉強会	2017.2.8
高橋奈実	放射線画像センター	透析について	放射線画像センター学習会	2017.2.28
佐藤克之	放射線画像センター	造影剤について	放射線画像センター学習会	2017.3.29
和泉典子	内科・緩和ケアチーム	終末期がん患者における苦痛緩和のための鎮静 ～苦痛緩和のための鎮静に関するガイドラインに沿って～	緩和ケア入門講座	2017.3.30
斉藤聖宏	放射線科	放射線被曝対策について	研修医オリエンテーション	2017.4.3
庄司知摩、 鎌田敬志、 石川大介	薬局	注意すべき薬剤等について	平成29年度看護部新採用者研修会	2017.4.7

氏名	所属科	演題	研修会名	月日
高橋圭史	放射線画像センター	肺動脈 1 相撮影法の検討	放射線画像センター学習会	2017.4.24
五十嵐康郎	薬局	認知症に関する薬	認知症ケアチーム研修会	2017.4.25
森 浩和	リハビリテーションセンター	ポジショニングのチェックポイント	認知症ケアチーム研修会	2017.4.25
中林大器	小児科	平成29年 1 月から 3 月までの紹介患者経過報告	第99回荘内病院小児科病診連携研究会	2017.4.27
新井 啓	小児科	食物依存性運動誘発アナフィラキシーに対する運動誘発試験を始めました	第99回荘内病院小児科病診連携研究会	2017.4.27
谷 知行	小児科	昨年度に入院したマイコプラズマ感染症例の検討	第99回荘内病院小児科病診連携研究会	2017.4.27
山田 慧	小児科	過去 3 年間におけるヒトメタニューモウイルス感染症例の検討	第99回荘内病院小児科病診連携研究会	2017.4.27
吉田 宏	小児科	非紹介患者初診加算料算定開始後の小児患者の動向	第99回荘内病院小児科病診連携研究会	2017.4.27
林 雅子	小児科	最近の抄読会から	第99回荘内病院小児科病診連携研究会	2017.4.27
高橋直子	薬局	オピオイドについて	緩和ケアステップアップ講座	2017.5.18
石塚良二	放射線画像センター	現在の当院の放射線治療について	放射線画像センター学習会	2017.5.30
佐太木淳一	リハビリテーションセンター	雨の日でもできる！効果的な運動	糖尿病教室	2017.6.9
坂田奈緒美	薬局	Efficacy of Herpes Zoster Subunit Vaccine in Adults 70Years of Age or Older (N Engl J Med 2016 ; 375 No.11)	薬局 抄読・勉強会	2017.6.14
遠藤広志	放射線画像センター	放射線取扱主任者定期講習について	放射線画像センター学習会	2017.6.26
横田めい	中央検査科	腸管出血性大腸菌O-157感染により溶血性尿毒症症候群を発症した症例	科内勉強会	2017.7.13
山田 慧	小児科	平成29年 4 月から 6 月までの紹介患者経過報告	第100回記念荘内病院小児科病診連携研究会	2017.7.20
吉田 宏	小児科	病診連携研究会をふりかえる ～当科における診療体制の変遷に着目して～	第100回記念荘内病院小児科病診連携研究会	2017.7.20
佐々木孔美	看護部	化学療法のケアについて	緩和ケアステップアップ講座	2017.7.20

氏名	所属科	演題	研修会名	月日
石川大介	薬局	Capcitabine as adjuvant treatment for stage III colon cancer (N Engl J Med 2005 ; 352 : 2696-2704)	薬局 抄読・勉強会	2017.8.9
佐藤拓也	薬局	災害医療について	薬局 抄読・勉強会	2017.9.13
柿崎翔平	中央検査科	入院中患者における高浸透圧高血糖症候群の1症例	科内勉強会	2017.9.14
田中 庸	薬局	小児薬物療法について	薬局 抄読・勉強会	2017.9.28
五十嵐康郎	薬局	6 東病棟の抗血小板薬などについて	薬局 抄読・勉強会	2017.10.11
谷 知行	小児科	平成29年7月から9月までの紹介患者経過報告書	第101回荘内病院小児科病診連携研究会	2017.10.26
古川絵美	小児科	BCG接種後に生じた腺病性苔癬の双胎児例	第101回荘内病院小児科病診連携研究会	2017.10.26
中林大器	小児科	治療に難渋した新生児消化管アレルギーの1例	第101回荘内病院小児科病診連携研究会	2017.10.26
新井 啓	小児科	髄膜炎を繰り返した髄膜脳瘤の1例	第101回荘内病院小児科病診連携研究会	2017.10.26
林 雅子	小児科	最近の抄読会から	第101回荘内病院小児科病診連携研究会	2017.10.26
鈴木尚樹	臨床研修医	当地で流行したサルモネラ腸炎について	第101回荘内病院小児科病診連携研究会	2017.10.26
眞嶋義彦	放射線画像センター	救急の頭部画像について	放射線画像センター学習会	2017.10.31
吉田 諒	薬局	薬剤と排尿障害の関係性を知ろう！	排尿ケアチーム研修会	2017.11.7
高橋直子	薬局	Generic immunosuppression in solid organ transplantation: systematic review and metaanalysis (BMJ2015;350:3163)	薬局 抄読・勉強会	2017.11.8
小林 拓	リハビリテーションセンター	がんのリハビリテーション	緩和ケアステップアップ講座	2017.11.16

氏名	所属科	演題	研修会名	月日
富樫美峯子	放射線画像センター	血管内治療について	放射線画像センター学習会	2017.11.28
山口佐絵	中央検査科	超音波検査	科内勉強会	2017.11.30
阿部美和子	看護部	看取りのケアについて	緩和ケアステップアップ講座	2017.12.21
久保真菜子	放射線画像センター	放射線技師としての患者接遇	放射線画像センター学習会	2017.12.26

〔看護部〕

平成29年度看護部研修会

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
必 須 研 修	新採用者研修	4月3日(月)	・病院施設見学
		4月4日(火)	・看護部教育計画と新採用者教育について 講師：教育委員長 看護主査 船見美和子 看護係長 阿部仁美 ・看護部長講話：副院長兼看護部長 佐藤 さゆり ・講義：「勤務にあたってのオリエンテーション」 講師：看護副部長兼看護主幹 鈴木 郁 ・講義：「看護師としての倫理とは」 講師：看護部倫理委員長 看護主査 高橋 深雪
		4月6日(木)	・講義：医療事故予防対策について 講師：医療安全管理室 看護係長 牧 順 ・講義：「医療機器の安全な取り扱い方」 講師：医療安全管理室 看護係長 牧 順 集中治療センター 看護主任 三浦 良哉
		4月7日(金)	・講義：「当院の地域医療連携及び退院調整について」 講師：地域医療連携室 看護主査 富樫 清 ・講義：「安全に輸血を行うために -当院の輸血手順- 」 講師：輸血療法委員 統括看護主幹 佐藤 順 ・講義：「薬剤の安全な取り扱いについて」 講師：薬局長 庄司知摩 薬剤主査 鎌田敬志 薬剤師 石川大介
		4月10日(月)	・講義：「医療従事者に必要な感染対策の基本」 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子
		4月11日(火)	・S-HIS 看護システムについて ・講義：「外来から入院までの流れ」 講師：統括看護主幹 丸山 邦 ・講義：「看護システム（記録）について」 講師：看護記録委員長 看護主査 奥井 麻里 ・講義：「看護診断・記録の実際について」 講師：看護記録委員会 看護主任 加藤 咲子 ・講義：「看護必要度について」 講師：看護記録委員会 看護主任 中野 要 村田克子 ・演習：「入院棟での電子カルテ操作練習」 フロア担当：入院棟記録委員
		4月14日(金)	・採血・注射技術研修 講師：看護業務委員(手順) 教育委員 ・講義：「注射の安全について」 講師：看護主任 佐藤 めぐみ ・講義：「注射の業務マニュアル」 講師：看護主任 佐藤 めぐみ ・講義：「血糖測定について」 講師：新採指導者 野口 由梨 榎本 滯
		4月14日(金)	・講義：「皮下注射・筋肉注射について」 講師：新採指導者 加藤 愛 馬戸場 亜希菜
		4月14日(金)	・講義：「採血・静脈注射について」 講師：新採指導者 菅原 恵美 真田 亜未 菅原美奈子 加藤 仁美 ・採血・皮下・筋肉・静脈注射の実技演習

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
専 門 研 修		4月17日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「安全な移動と体位」 講師：PT 瀬尾 章央
		5月16日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「退院調整について」 講師：地域医療連携室 渡部 文子 ・講義：「医療従事者に必要な安全対策の基本」 講師：医療安全管理室 看護係長 牧 順
		6月21日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「メンタルヘルスケアについて」 講師：臨床心理士 柏倉 貢 ・演習：「今の自分を振り返り、表現してみませんか」 講師：教育委員 ・講義：「ワークライフバランスについて」 講師：kaeru委員会 委員長 看護主査 渡部 まゆみ
		6月23日(火)	出張 新人研修Ⅰ 看護職として働く - 社会人基礎力を学ぼう -
		8月22日(火)	出張 新人研修Ⅱ 人間は誰でも間違える！ - 必要な危険の知識と技術の習得 -
		10月25日(水)	出張 新人研修Ⅲ 倫理を踏まえた看護実践 - 2年目に向けてステップアップ -
		6月28日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義・演習：「胃瘻・腸瘻について」「胃管カテーテル挿入の実際」 講師：摂食・嚥下ケア認定看護師 看護主任 石井 佳 ・講義・演習：「食事介助・口腔ケアについて」 講師：摂食・嚥下ケア認定看護師 看護主任 石井 佳 歯科口腔衛生士 石垣 佑美
		7月14日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義・演習：「排尿に対する看護援助・導尿技術研修」 講師：皮膚排泄ケア認定看護師 看護係長 梅本 貴子 排尿ケアチーム 加藤 愛 鈴木 未果 五十嵐 かずみ ・講義・演習：「体位変換・スキンケア」 講師：皮膚・排泄認定看護師 看護係長 梅本 貴子 佐藤 南
		9月8日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「フィジカルアセスメント」 講師：集中ケア認定看護師 看護主任 三浦 良哉 ・講義：「救急看護」 講師：救急看護認定看護師 看護主任 宮崎 隆寛
		9月22日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・2年目ナースからのメッセージ：本間 名津美 中西 千明 ・グループワーク 『明日からの看護実践にどう活かしていくか』
		10月10日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「緩和ケアの基礎」 講師：緩和ケア認定看護師 看護主任 阿部 美知子 ・講義：「認知症ケアにおけるコミュニケーションの基本」 講師：認知症ケア認定看護師 看護主任 富樫 千代美
		10月26日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「ケアに活かすための感染対策」 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子
		平成30年 2月6日(火)	1年の振り返り研修 <ul style="list-style-type: none"> ・レポート発表 新卒新人『担当患者との関わりからの学んだこと、今後の課題』 既卒新人『1年を通して学んだこと』 ・先輩ナースからのメッセージ 3年目ナース：伊藤 貴晃 中堅ナース：菅原 晶絵 リーダーナースⅠ：大川 陽 リーダーナースⅡ：佐藤 南

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
必 須 研 修	新採指導者研修		<ul style="list-style-type: none"> ・新卒新人：グループワーク 『2年目ナースとしての取り組み』 ・既卒新人：次年度の飛び級制度について
		4月10日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション 新採用者・2年目研修内容・チェックリストの説明 既卒者の研修についてオリエンテーション 講師：前教育委員長 看護主査 船見 美和子 ・講義：「成人の学習に対する基礎知識」 講師：臨床指導委員会 看護主任 佐藤 早苗 ・新採用者との企画について
		5月31日(水)	出張 プリセプター研修Ⅰ 一学ぼう！プリセプターに必要な基礎知識ー
		6月14日(水)	出張 プリセプター研修Ⅱ「教える人」としての私を育てる。ー共育を学ぼうー
		6月2日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義・演習 「新採用者が起こしやすいヒヤリハットについて」 講師：医療安全管理室 看護係長 牧 順
		6月12日(月)	・グループワーク・研修計画立案 1G
		7月11日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育担当者企画の研修1G 講義：「新入社員意識調査・特徴とタイプ」 伝達講習・演習：「気質に合わせたコミュニケーション」 ・3ヶ月の振り返り
		9月13日(水)	・グループワーク・研修計画立案 2G
		11月2日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育担当者企画の研修2G ・グループワーク『新採指導者として成長したところ』 「自分の目標を発表」
		平成30年 2月9日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・1年の振り返り研修 成果発表会 『1年間の指導を振り返って』 ・グループワーク 『1年間を振り返り、部署における新人看護師の教育について考える』
		4月6日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「職場における教育担当者としての役割」 講師：教育委員長 看護主査 船見美和子 看護係長 阿部仁美 ・講義：「教育担当者の役割の実際について」 昨年度の活動報告 講師：教育委員 看護係長 阿部 仁美
		6月12日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク 『指導者を支援するための具体的企画について』1G
		7月11日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育担当者企画の研修1G 講義「新入社員意識調査・特徴とタイプ」 伝達講習・演習「気質に合わせたコミュニケーション」 ・3ヶ月の振り返り
		7月19日(月) 7月20日(火)	出張 研修責任者・教育担当者研修 ー新人育成は継続教育の出発点ー
		9月13日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク 『指導者を支援するための具体的企画について』2G
	11月2日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育担当者企画の研修2G ・グループワーク『新採指導者として成長したところ』 「自分の目標を発表」 	
平成30年 2月9日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク 『教育担当者としての1年を振り返ってー企画研修を実践してー』 		
平成30年 3月27日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画(新採用者・2年目ナース・指導者)の説明 担当：教育委員長 看護係長 阿部 仁美 		

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
必 須 研 修			<p>教育委員 看護係長 山口 朱美</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究委員より研究計画の説明 担当：研究委員長：押井 あけみ
	2年目ナース研修	4月13日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 2年目ナース研修年間計画についての説明 講師：教育委員 成澤 知美 講義：「2年目ナースの役割と心得・メンバーシップとは」 講師：教育委員 看護主任 伊藤 智子 グループワーク 『2年目ナースとして求められること』
		5月29日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「褥瘡ケア・予防対策・演習」 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護係長 梅本 貴子 講義：「痛みの定義・疼痛治療の5原則・WHO3段階除痛ラダー・オピオイドの種類の副作用とその対策」 講師：緩和ケア認定看護師 看護主任 上林 沙希子 看護係長 阿部 美知子
		7月13日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「2年目の医療安全について」 講師：4階東入院棟 看護係長 大瀧 志保 講義：「フィジカルアセスメント」 講師：集中ケア認定看護師 看護主任 三浦 良哉
		10月10日(水) 10月20日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研修(集中治療センター、手術センター) 1) 手術中の全身管理と看護 2) 基本的な看護技術・フィジカルアセスメント等を習得する 3) 術後の全身管理、輸液、輸血管理、輸液ポンプ管理・ドレーン管理 4) 急性期における疾患患者の基本的看護技術の習得
		11月1日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「アサーティブコミュニケーション」 講師：NICU・GCU 看護主査 高橋 深雪 講義：「フィッシュ!哲学」 講師：小児科外来 看護係長 齋藤 美子 ナラティブ 「心に残った看護体験を書いてみよう」
		12月7日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「災害看護を学ぶ」 講師：DMAT 山口 慎太郎
		平成30年 2月1日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 実践レポート発表「後輩育成に活かす自分の役割」 3年目へ向けての決意表明・発表
	3年目ナース研修	4月13日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 3年目ナース研修オリエンテーション 研究計画書の記載方法や研究集録の記載方法 講師：教育委員会 看護主任 伊藤 智子
		7月18日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「メンバーシップ、リーダーシップとは」 講師：教育委員会 看護主任 伊藤 智子 講義：「問題解決能力について」 講師：教育委員会 看護主任 板垣 朋子 実践：カテゴリー化 グループワーク「チーム活動で悩んでいることを解決していくためには」
		9月7日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「3年目の医療安全について」 講師：ICU看護係長 小野寺 紀子 ファシリテーター：医療安全管理室 看護係長 牧 順 事例研究について 担当：教育委員会 看護主任 伊藤 智子
		12月15日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「認知症の理解」 講師：認知症看護認定看護師 看護主任 富樫 千代美 講義：「これからの過ごし方と家族のケア・看取りの看護」

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容	
必 須 研 修			講師：緩和ケア認定看護師 看護主任 上林 沙希子	
		平成30年 1月12日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 事例研究発表 グループワーク「事例研究を通し、より良い看護実践にむけた今後の課題」 	
役 割 研 修	中堅ナース研修	4月17日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 中堅ナース研修オリエンテーション 講師：教育委員会 看護係長 三浦 栄子 	
		6月5日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「荘内病院のチーム医療体制」 講師：看護副部長 原田 あけみ 講義：「退院支援について」 講師：地域医療連携室 看護係長 梶谷 まゆみ 	
		7月21日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「医療安全対策について」 講師：GCU 看護係長 金子 弘美 ファシリテーター：医療安全管理室 看護係長 牧 順 	
		9月5日(火)	出張 救急看護 -急変時の判断力を鍛えリーダーシップを発揮しよう！-	
		10月30日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「成人学習に対する基礎知識」 講師：臨床指導委員会 看護主任 難波裕子 講義：「看護経験の概念化について」 講師：教育委員会 看護係長 三浦 栄子 	
		平成30年 1月29日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 1年の振り返り 実践レポート発表「医療チームの一員としての力を発揮したこと」 グループワーク 「今後の自己の役割と目標について」 	
		リーダーナース研修Ⅰ	4月17日(月)	<ul style="list-style-type: none"> リーダーナースⅠ研修オリエンテーション 講師：教育委員会 看護係長 三浦 栄子 看護研究オリエンテーション 看護研究要項より 講師：看護研究委員長 看護主査 押井 あけみ 看護研究 研究の倫理的配慮について 講師：看護研究委員 看護研究 研究計画書の書き方 講師：看護研究委員 看護研究 文献検索について 講師：看護研究委員
		5月19日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「看護管理とリーダーシップ」 講師：佐藤 さゆり 副院長兼看護部長 	
		7月4日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「コーチングについて」 講師：三浦 良哉 看護主任 	
		7月14日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「荘内病院の現状と今後の展望」 講師：事務部長 土屋 清光 	
		8月5日(土)	出張「ほぼ在宅、ときどき入院」山形バージョン -多職種でつないで支える在宅生活-	
		12月22日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 看護研究発表 グループワーク『研修を通して学んだこと、今後の自己の役割』 	
		リーダーナース研修Ⅱ	4月17日(月)	<ul style="list-style-type: none"> リーダーナースⅡ研修オリエンテーション 講師：教育委員会 看護係長 三浦 栄子
			5月15日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「職場で活かす業務管理のポイント」 講師：看護副部長 鈴木 郁 講義：「働く職業人としての役割モデル」 講師：4階西入院棟 看護係長 加藤 恭子
			6月2日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「分析(SWOT)方法について」 講師：統括看護主幹 丸山 邦
			6月22日(木)	出張 看護者の倫理綱領 -事例を通して考える-

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
役 割 研 修		9月4日(月)	・講義：「看護倫理とクレーム対応について」 講師：統括看護主幹 城井 慶子
		10月6日(金)	・講義：「医療安全対策について -事例を分析してみよう-」 講師：医療安全管理室 看護係長 金子 弘美 ファシリテーター：医療安全管理室 看護係長 牧 順
		12月18日(月)	・1年の成果発表(パワーポイントでプレゼンテーション) 「各自の成果と課題」 ・発表『研修を通して学んだこと』
全 体 研 修	看護研究	11月17日(金)	部署の看護研究発表 1回目
		11月22日(水)	部署の看護研究発表 2回目
	看護学会報告	11月30日(木)	院外投稿看護学会発表 研究発表会
専 門 研 修	専門分野研修	5月1日(月)	・がん化学療法看護研修会 第1回目 「抗がん剤の安全な取り扱い方法と投与管理」 講師：がん化学療法看護認定看護師 看護主任 佐々木 孔美
		5月2日(火)	・フィジカルアセスメント研修会 第1回目 「フィジカルアセスメント①呼吸」 講師：集中ケア認定看護師 看護主任 三浦 良哉
		5月8日(月)	・緩和ケア研修会 第1回 「概論・気持ちのつらさ」 講師：緩和ケア認定看護師 看護主任 阿部 美知子
		5月12日(金)	・高齢者看護研修会 第1回 「高齢者看護を理解する為の基礎」 講師：認知症看護認定 看護主任 富樫 千代美
		5月24日(水)	・摂食嚥下・栄養研修会 第1回 「摂食嚥下の観察と評価」 講師：摂食嚥下障害看護認定看護師 看護主任 石井 佳
		5月30日(火)	・感染管理研修会 第1回 「標準予防策」 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子
		5月31日(水)	・皮膚・排泄ケア研修会 第1回 「即実践！科学で考えるスキンケア」 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護係長 梅本 貴子
		6月1日(木)	・高齢者看護研修会 第2回 「4大認知症についての基礎」 講師：認知症看護認定 看護主任 富樫 千代美
		6月7日(水)	・救急看護研修会 第1回 「急変の初期評価・対応」 講師：救急看護認定看護師 看護主任 宮崎 隆寛
		6月13日(火)	・緩和ケア研修会 第2回 「がんの痛みも怖くない」 講師：緩和ケア認定看護師 看護主任 上林 沙希子
		6月19日(月)	・フィジカルアセスメント研修会 第2回目 「フィジカルアセスメント②循環」 講師：集中ケア認定看護師 看護主任 三浦 良哉
		6月20日(月)	・感染管理研修会 第2回 「感染経路別予防策」 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子
		6月26日(火)	・摂食嚥下・栄養研修会 第2回 「食事介助」 講師：摂食嚥下障害看護認定看護師 看護主任 石井 佳

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
専 門 研 修	専門分野研修	7月3日(月)	・災害看護研修会 第1回 「災害看護概論」 講師：DMAT隊員 石川陽一 三浦良哉 宮崎隆寛 山口慎太郎
		7月6日(木)	・感染管理研修会 第2回 「感染経路別予防策」 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子
		7月10日(月)	・がん化学療法看護研修会 第2回目 「血管外漏出のリスクアセスメントと対応方法」 講師：がん化学療法看護認定看護師 看護主任 佐々木 孔美
		7月13日(木)	・皮膚・排泄ケア研修会 第2回 「失禁ケア」 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護係長 梅本 貴子
		7月27日(月)	・摂食嚥下・栄養研修会 第3回 「誤嚥について」 講師：摂食嚥下障害看護認定看護師 看護主任 石井 佳
		7月31日(月)	・緩和ケア研修会 第3回 「せん妄の治療とケア」 講師：緩和ケア認定看護師 看護主任 上林 沙希子
		8月2日(水)	・フィジカルアセスメント研修会 第3回目 「フィジカルアセスメント③中枢神経系・腹部」 講師：集中ケア認定看護師 看護主任 三浦 良哉
		8月3日(木)	・感染管理研修会 第3回 「医療関連感染予防策」 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子 看護係長 栗田 香
		8月7日(月)	・高齢者看護研修会 第3回 「認知症高齢者への対応」 講師：認知症看護認定 看護主任 富樫 千代美
		8月10日(木)	・救急看護研修会 第2回 「高齢者・小児救急」 講師：救急看護認定看護師 看護主任 宮崎 隆寛
		8月21日(月)	・災害看護研修会 第2回 「災害トリアージ」 講師：DMAT隊員 山口 慎太郎
		9月14日(木)	・災害看護研修会 第3回 「初動体制シミュレーション」 講師：DMAT隊員 山口 慎太郎
		9月15日(金)	・救急看護研修会 第3回 「急変事例の展開」 講師：救急看護認定看護師 看護主任 宮崎 隆寛
		9月12日(火)	・がん看護研修会 第1回目 「がん患者の症状マネジメント」 講師：がん化学療法看護認定看護師 看護主任 佐々木 孔美
		9月25日(月)	・クリティカルケア研修会 第1回目 「ABCDEアプローチに沿った急変対応」 講師：救急看護認定看護師 看護主任 宮崎 隆寛
		9月26日(火)	・創傷ケア研修会 第1回目 「手術部位感染対策」 講師：感染管理認定看護師 看護係長 栗田 香

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
専 門 研 修		10月2日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・がん看護研修会 第2回目 「疼痛アセスメント」 講師：緩和ケア認定看護師 看護係長 阿部 美知子
		10月10日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・創傷ケア研修会 第2回 「事例検討」 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子 講師：感染管理認定看護師 看護係長 栗田 香
		10月30日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・クリティカルケア研修会 第2回目 「患者の問題を明らかにして問題解決するための患者のプロセス」 講師：集中ケア認定看護師 看護主任 三浦 良哉
		11月6日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・がん看護研修会 第3回目 「再発・転移時の心理的支援」 講師：乳がん看護認定看護師 看護主任 竹内梨紗
		11月14日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・創傷ケア研修会 第3回 「フットケアに必要な基礎知識」 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護係長 梅本 貴子
		11月27日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・クリティカルケア研修会 第3回目 「感染予防ケアと感染症診療サポートについて考えてみよう」 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子
		12月11日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・創傷ケア研修会 第4回 「ドレーンの管理」「胃瘻の管理」 講師：感染管理認定看護師 看護係長 栗田 香 講師：摂食嚥下障害看護認定看護師 看護主任 石井 佳
		12月12日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・がん看護研修会 第4回目 「事例検討」 講師：乳がん認定看護師 竹内 梨紗
		12月15日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・クリティカルケア研修会 第4回目 「総まとめ・テスト」 講師：集中ケア認定看護師 看護主任 三浦 良哉
看 護 補 助 者 研 修	看護補助者研修	4月21日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画の周知、病院の理念、基本方針 講師：看護主幹 齊藤百美 ・接遇、倫理面、守秘義務 講師：看護部倫理委員長 看護主査 高橋 深雪 ・医療安全について 講師：医療安全管理室 看護係長 牧 順 看護主任 齋藤 由美 ・感染対策の基本 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松由紀子 感染管理認定看護師 看護係長 栗田 香
		7月7日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・食事介助 講師：摂食嚥下障害看護認定看護師 看護主任 石井 佳 ・器材・診療材料の取り扱い 講師：物流管理センター 看護主査 伊藤 淑子
		10月13日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・接遇について 講師：看護部倫理委員会
		12月8日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・集団発生から学ぶ感染対策2017 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子 ・医療安全について 事例を通して 講師：医療安全管理室 看護係長 牧 順

□ 3年目ナース研修 看護研究発表

研 究 テ ー マ	氏 名
幼児期の小児へ鎮静MRI検査前にプレパレーションを施行して －検査や入院に対する不安の軽減を目指した関わり－	4階東入院棟 進 藤 ちさと
当院へ母体搬送となった切迫早産妊婦の看護ケア －心理過程に沿った援助を通して－	4階西入院棟 梅 津 和 佳
THA施行患者の術前から退院までの不安に対する援助 －プロセスレコードから看護の関わりを考える－	5階東入院棟 阿 部 雅 子
尿管皮膚瘻造設患者のストーマ管理への看護介入	5階西入院棟 菅 原 愛 美
人工骨頭全置換術（THA）を受けた患者への脱臼予防指導 －患者の生活背景を汲み取った個別的な関わり－	5階西入院棟 齋 藤 望 美
高次脳機能障害患者の障害の受容に向けた関わり	6階東入院棟 五十嵐 初 美
初めて化学療法を受ける血液疾患患者の不安に対する看護	6階西入院棟 加 藤 さくら
肺癌初回化学療法患者への副作用の予防指導 －不安軽減とセルフケア向上を目的とした関わり－	7階東入院棟 齋 藤 絵 莉 子
終末期にある患者の家族に対してのケアについて振り返る	7階東入院棟 伊 藤 貴 晃
慢性閉塞性肺疾患終末期せん妄患者への呼吸困難軽減に向けた看護	7階東入院棟 山 口 優
心不全患者の内服自己管理と確実な内服へ向けた関わり	7階西入院棟 立 里 千 咲
乳癌患者の自壊創処置のセルフケア獲得に向けた援助	8階東入院棟 高 橋 怜
臍頭十二指腸切除術後、臍液漏を発症した患者の心理過程に適した関わり	8階東入院棟 叶 野 聖 凪
希死念慮をもつ終末期患者への精神的ケアの一考察 －看護介入前後を比較して－	8階西入院棟 熊 田 成 美
疼痛の程度を把握しづらい癌患者の疼痛緩和に向けた関わり	8階西入院棟 佐 藤 朋 香
クモ膜下出血術後患者に対する基本的欲求への援助を通して学んだこと	集中治療センター 佐 藤 凪

□リーダーナース研修Ⅰ 看護研究発表

研 究 テ ー マ	氏 名
産褥早期における背部マッサージがもたらす疲労改善効果 －マッサージ前後での自覚症状を比較して－	4階西入院棟 大 川 陽
NICU看護師によるハイリスク妊婦への産前訪問の取り組み	NICU 榎 本 朋
化学療法患者の感染予防行動の確立に向けた視覚的アプローチ －手洗いチェッカー使用前後の変化－	6階西入院棟 安 野 光 穂
部署異動を経験した看護師の心理分析 －精神的支援検討のために－	7階東入院棟 對 馬 麻美子
化学療法を受ける患者の副作用の対処に関する意識の現状調査 －アンケート調査より見えてきた課題－	7階東入院棟 佐 藤 恵 美
抗がん剤曝露対策における看護師による患者・家族指導の実態調査	8階東入院棟 伊 藤 千 加
入院棟全体で学生を受け入れる意識を持つための介入 －学習会開催前後のスタッフの行動変化	8階西入院棟 安 永 一 江
手指衛生遵守率向上に向けた取り組み －手指衛生タイミングを個別にフィードバックする効果－	集中治療センター 水 上 由美子
適切な除痛に向けた鎮痛剤投与に関する救急センター看護師の意識調査	救急センター 佐 藤 喜 恵
周手術期における手指衛生遵守率向上への取り組み －シミュレーション動画を活用した学習会を開催して－	手術センター 白 幡 沙 織
外来化学療法室の問診票記入だけでは表れない患者の思い	外来化学療法室 蛸 井 宏 美

□リーダーナース研修Ⅱ 業務改善報告発表

研 究 テ ー マ	氏 名
プリセプティを職場全体で育成する教育体制の構築に向けて	4階東入院棟 伊 藤 琴
がん終末期患者の褥瘡発生予防 －スモールシフトの導入－	8階東入院棟 佐 藤 南
継続した看護実践へ向けて －ケア表活用への取り組み－	集中治療センター 諏 訪 朋
勤務交代時の申し送り用紙の検討	救急センター 五十嵐 恵
超急性期脳卒中患者の早期治療に向けた新採・異動者へのシミュレーション 指導の見直し	救急センター 熊 田 瑞 香

□看護研究院外発表

研 究 テ ー マ		氏 名	
1	<出張報告> 日本医療マネジメント学会	手術センター	看護係長 今野 志津子
2	在宅看護学会	5階西入院棟	渋谷 由美
3	<口演> 救急学会 演題名：「A病院における超急性期脳梗塞に対するrt-PA静注療法 の現状と課題」	救急センター	看護係長 山口 朱美
4	医療マネジメント学術集会 演題名：「ヒルシュプルング病患儿における洗腸チューブ固 定の工夫」	N I C U	中野 早苗
5	医療マネジメント学術集会 演題名：「タイミングの良い手指衛生に向けた取り組み」	感染管理認定看護師	看護係長 栗田 香
6	日本乳癌学会 演題名：「nab-Paclitaxel治療後の高度な関節痛、筋肉痛のため 治療を中止せざるを得なかった乳がん術後症例」	乳がん看護認定 看護師	看護主任 竹内 梨紗
7	山形県看護研究学会 演題名：「異常分娩後の褥婦にバースレビューを実施して」	4階西入院棟	渡部 真希
8	山形県看護研究学会 演題名：「とろみを介助する看護師の意識調査」	摂食・嚥下障害 看護認定看護師	看護主任 石井 佳

V 各診療科別および 各部門別の臨床統計

1. 循環器科

2017年1月1日から12月31日までの検査、治療成績を報告する。

表1 カテーテル検査・治療

	2017年	2016年	2015年	2014年
診断カテーテル検査	106	108	104	158
冠動脈形成術 PCI	58(34)	71(43)	65(41)	74(44)
血管内超音波検査	58	73	66	72
末梢血管形成術 PTA	0	0	1	6
ペースメーカー植え込み、交換	54	57	55	65
カテーテル焼灼術	0	0	0	1
下大静脈フィルター	1	2	0	8
IABP	6	8	2	3
PCPS	0	0	0	0
合 計	283	319	293	387

() 緊急PCI

表2. 非侵襲的検査

	2017年	2016年	2015年	2014年
心エコー検査	2,783	2,750	2,611	2,207
ホルター心電図	281	267	236	276
トレッドミル運動負荷試験	120	116	125	98
PWV	78	101	68	142
心筋シンチグラフィ	36	36	41	16
冠動脈CT	165	164	152	125
心臓MRI	4	4	7	1

表3. 入院治療

	2017年	2016年	2015年	2014年
退院患者数	976	1,029	983	1,058

2. 呼 吸 器 科

	2017年外来患者数		入院患者数	気管支鏡検査数
	新 患	再 来		
1月	13	496	46	6
2月	21	469	52	10
3月	19	571	48	5
4月	15	489	41	9
5月	21	464	39	6
6月	26	570	39	8
7月	23	506	39	10
8月	13	499	38	6
9月	10	485	35	6
10月	28	504	34	9
11月	18	495	48	5
12月	12	464	42	5
計	219	6,012	501	85

3. 一般外科手術症例

(2017年1月1日～12月31日)

1 手術総数	458	(83.3%)
食道癌	89	(16.7%)
	<hr/>	
	547	

2 麻酔法別手術	全身麻酔	449	(82.1%)
	腰椎麻酔	43	(7.8%)
	局所麻酔	55	(10.1%)
	計	547	

3 手術547症例の内訳 (主たる病名) 主な手術術式 (重複あり)

1) 頸部疾患

		甲状腺悪性腫瘍手術 (単純切除)	2
甲状腺癌	8	甲状腺悪性腫瘍手術 (広汎切除)	3
甲状腺良性腫瘍	10	甲状腺部分切除 (片葉)	11
副甲状腺腫	1	甲状腺バセドウ手術 (全摘)	1
バセドウ病	1	副甲状腺摘出術	1
	<hr/>		
	計	計	18

2) 乳腺疾患

乳癌	27	乳腺悪性腫瘍手術 (部分切除、郭清を伴わないもの)	13
乳腺腫・良性腫瘤	10	乳腺悪性腫瘍手術 (部分切除、郭清を伴うもの)	0
腋窩リンパ節再発	1	乳腺悪性腫瘍手術 (乳房切除、郭清を伴わないもの)	12
	<hr/>	乳腺悪性腫瘍手術 (乳房切除、郭清を伴うもの)	2
	計	乳腺腫瘍摘出術 (5cm 未満)	8
	38	乳腺腫瘍摘出術 (5cm 以上)	0
		乳房切除術 (良性)	2
		腋窩リンパ節郭清	1
		計	38

3) 食道疾患

		食道悪性腫瘍手術 (頸、胸、腹部)	1
食道癌	3	食道悪性腫瘍手術 (胸、腹部)	1
	<hr/>	食道悪性腫瘍手術 (胸、腹部) (胸腔鏡下)	1
	計	計	3

4) 胃・十二指腸疾患		胃悪性腫瘍手術（広汎切除）	17	
		胃悪性腫瘍手術（単純切除）	1	
	胃癌	39	胃悪性腫瘍手術（広汎全摘）	11
	残胃癌	1	胃悪性腫瘍手術（単純全摘）	2
	GIST	2	胃悪性腫瘍手術（腹腔鏡下）	8
	幽門・十二指腸狭窄	3	噴門胃切除（悪性）	1
	胃・十二指腸潰瘍穿孔	8	残胃全摘	1
	十二指腸癌、膵頭部癌	2	胃空腸吻合術	3
	計	55	大網充填術	5
			胃局所切除術（開腹）	2
			胃切除術（悪性以外）	3
	(胃癌・胃悪性腫瘍)	40)	試験開腹	1
			計	55
5) 小腸疾患(イレウスは除く)				
	小腸癌	2	バイパス手術	2
	腸間膜腫瘍	1	小腸切除術（悪性腫瘍）（広汎切除）	1
	小腸穿孔	1	小腸瘻造設術	1
	癌性腹膜炎	2	腸重積整復術	1
	その他	1	小腸切除術（開腹）	1
	計	7	小腸瘻閉鎖術（腸管切除を伴う）	1
			計	7
6) 結腸・直腸・肛門疾患				
①結腸				
	盲腸癌	4	結腸切除術（悪性腫瘍）（単純切除）	7
	虫垂癌	1	結腸切除術（悪性腫瘍）（広汎切除）	27
	上行結腸癌	14	結腸切除術（小範囲切除）（開腹）	5
	右結腸曲癌（肝彎曲）	1	結腸切除術（悪性腫瘍）（腹腔鏡下）	13
	横行結腸癌	6	直腸悪性腫瘍手術（広汎切除）（高位）	6
	左結腸曲癌（脾彎曲）	2	腹腔鏡下高位前方切除術	2
	下行結腸癌	2	直腸悪性腫瘍手術（広汎切除）（低位）	8
	S状結腸癌	22	腹腔鏡下低位前方切除術	2
	計	52	直腸悪性腫瘍手術（広汎切断）	5
			Hartmann 手術	7
②直腸			直腸部分切除術	1
	直腸S状部癌	10	人工肛門造設術	7
	直腸癌	20	痔核根治術	1
	計	30	痔瘻根治術（単純）	1
			肛門良性腫瘍切除術	0
	憩室穿孔	3	肛門悪性腫瘍手術	0
	直腸癌術後吻合部狭窄	1	人工肛門閉鎖術	2
	計	4	直腸脱手術（経肛門）	1
			肛門周囲膿瘍切開術	1
	(大腸癌・悪性腫瘍)	83)	壊死性筋膜炎手術（デブリードマンなど）	4
			計	100

③肛門 痔瘻	1
肛門癌	1
良性腫瘍	0
肛門周囲膿瘍	1
直腸脱	1
壊死性筋膜炎	1
内痔核	1
計	6

7) 肝臓疾患

肝細胞癌	4		
転移性肝腫瘍	3	肝亜区域切除	1
肝門部胆管癌	3	肝外側区域切除	1
肝内胆管癌	1	肝切除術（部分切除）	2
肝外傷	0	肝切除術（1区域切除）	4
計	11	肝切除術（2区域切除）	1
		肝切除術（3区域切除）	0
		肝悪性腫瘍ラジオ波凝固術（開腹）	1
		肝悪性腫瘍ラジオ波凝固術（経皮的）	0
		肝周囲パッキング除去術	0
		肝損傷止血術	0

8) 胆道・膵・脾疾患

①胆道

胆管癌（下部）	8	胆管悪性腫瘍手術	1
総胆管結石	1	胆管悪性腫瘍手術（リンパ節郭清を伴う）	1
胆嚢ポリープ	4	肝門部胆管癌切除術（血行再建なし）	2
胆嚢癌	4	胆管切開結石摘出術（開腹）	1
胆石症	80		
計	97		

膵頭十二指腸切除術（リンパ節郭清を伴う）	16
膵全摘（血行再建なし）	2
膵体尾部切除（脾摘を伴う）	1
膵体尾部腫瘍切除術（リンパ節郭清を伴う）	9
膵管空腸吻合	0

腹腔鏡下胆嚢摘出術	66
胆嚢摘出術	18
胆嚢悪性腫瘍手術（肝症切除を伴う）	2
胆嚢悪性腫瘍手術（亜区域以上の肝切除を伴う）	1
胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢に限局）	1
計	131

②膵臓 膵頭部癌	10
膵体尾部癌	9
十二指腸乳頭部癌	1
膵粘液性嚢胞腺癌	1
膵管内乳頭粘液性腫瘍	0
膵損傷	0
計	21

③脾臓	0
-----	---

9) イレウス

内ヘルニア	9	内ヘルニア手術	7
癌性イレウス	1	腸管癒着症手術	4
癒着性イレウス	6	バイパス手術	1
絞扼性イレウス	3	小腸切除（腹腔鏡下）	1
計	19	小腸部分切除術	6
		計	19

10) 腹膜・後腹膜

外傷性腹腔内出血	1		
腹部脂肪腫	1	脂肪腫摘出術	1
後腹膜悪性腫瘍	1	後腹膜悪性腫瘍手術	1
腹腔内膿瘍	2	腸間膜損傷手術（腸管切除を伴う）（複雑）	1
計	5	腹腔内ドレナージ	2
		計	5

11) 虫垂疾患

急性虫垂炎	17	腹腔鏡下虫垂切除術（簡単）	9
慢性虫垂炎	9	腹腔鏡下虫垂切除術（複雑）	3
計	26	虫垂切除術（開腹）	14
		計	26

12) ヘルニア

鼠径ヘルニア	78	鼠径ヘルニア手術	78
大腿ヘルニア	5	大腿ヘルニア手術	5
閉鎖孔ヘルニア	5	閉鎖孔ヘルニア手術	5
腹壁癒着ヘルニア	1	腹壁癒着ヘルニア手術	1
臍ヘルニア	2	臍ヘルニア手術	2
計	91	計	91

13) CVポート/カテーテル関連 24

CAPDチューブ抜去	2
CVポート挿入	19
CVポート抜去	3
計	24

14) 泌尿生殖器

尿膜管遺残	0	腹腔鏡下尿膜管摘出術	0
計	0	計	0

15) 体表

リンパ節腫脹/再発	15	リンパ節生検/摘出術	15
その他	3	気管切開	3
計	18	計	18

16) その他 22

4. 小児外科手術症例

(2017年1月1日～12月31日)

I) 手術総数		82例	
予定手術		62 (75.6%)	
緊急手術		20 (24.4%)	
腹腔鏡手術		40 (48.8%)	
II) 小児外科手術例の内訳			
病名		術式	
A) 新生児症例	2		2
1. 肥厚性幽門狭窄	1	Ramstedt手術	1
2. 先天性十二指腸閉鎖	1	ダイヤモンド吻合術	1
B) 代表的疾患			
病名		術式	
1. ヘルニア	31		31
1) 鼠径ヘルニア	25		
	男	Potts' 法	15
	女	LPEC法	10
2) 臍ヘルニア	4	臍ヘルニア手術	4
3) 白線ヘルニア	1	白線ヘルニア手術	1
4) 腹壁瘢痕ヘルニア	1	ヘルニア修復術 (直接閉鎖)	1
2. 虫垂炎	21	腹腔鏡下虫垂切除術 (待期的)	21(8)
C) 部位別疾患			
病名		術式	
1. 体表疾患	2		2
1) リンパ管腫 (右上腕)	1	ピシバニール注入	1
2) 臀部疣贅	1	切除術	1
2. 胃・十二指腸疾患	4		4
1) 胃食道逆流症	3	腹腔鏡下噴門形成術+胃瘻造設	3
2) 胃内遺物	1	内視鏡下摘除	1

3. 小腸疾患	1		1
メッケル憩室	1	腹腔鏡下メッケル憩室切除術	1
4. 結腸疾患	2		4
1) Hirschsprung病	2	経肛門的直腸粘膜生検	2
Recto-sigmoid型	2	腹腔鏡補助下直腸pull-through術	2
5. 直腸・肛門疾患	5		5
1) 低位鎖肛（前庭部瘻）	1	Potts'手術	1
2) 中間位鎖肛（根治術後）	1	人工肛門閉鎖術	1
3) 外痔核	2	輪ゴム結紮術	2
4) 直腸脱	1	Gantz-三輪手術	1
6. 肝・胆道疾患	1		2
1) 胆嚢結石症	1	ERCP	1
		腹腔鏡下胆嚢摘出術	1
7. 泌尿・生殖器疾患	10		10
1) 精巣			
停留精巣	9	停留精巣固定術	9
2) 外陰部			
外陰部裂傷	1	裂傷部縫合	1

5. 呼吸器外科

(2017年1月1日～12月31日)

手術総数：90例

全麻手術：89例

完全胸腔鏡下手術：73例 (81%)

<肺悪性> 例数 (括弧内は完全
胸腔鏡下手術)

●原発性肺癌 47 (44)

- ・全摘術 1 (0)
- ・肺葉切除術 23 (21)
- ・肺区域切除術 16 (16)
- ・肺部分切除術 7 (7)

●転移性肺腫瘍 8 (8)

(大腸肛門 8、乳癌・軟部・胃・悪性神経鞘腫 1)

- ・肺葉切除術 1 (1)
- ・肺区域切除術 3 (3)
- ・肺部分切除術 4 (4)

<肺良性>

●炎症性 (炎症性偽腫瘍1、肉芽腫1) 2 (1)

- ・肺葉切除術+区域切 1 (0)
- ・区域切除術 1 (1)

●嚢胞性肺疾患 14 (14)

(自然気胸 11、巨大ブラ 3)

- ・ブラ切除術 13 (13)
- ・ブラ結紮、胸膜焼灼 1 (1)

<縦隔>

●縦隔腫瘍 (胸腺腫 2) 2 (2)

- ・胸腺切除術 1 (1)
- ・胸膜播種結節切除 1 (1)

<胸壁・胸膜>

●胸壁腫瘍 1 (1)

- ・腫瘍切除術 1 (1)

●急性膿胸 1 (1)

- ・膿胸腔搔爬術 1 (1)

<その他>

●気管切開 11

- ・外科的 7
- ・経皮的 4

●リンパ節生検 2

- ・頸部リンパ節切除生検 1
- ・鼠径リンパ節切除生検 1

●術後合併症 (肺静脈共通幹) 2 (2)

- ・止血+血腫除去術 1 (1)
- ・肺瘻閉鎖術 1

6. 整 形 外 科

(2017年1月1日～12月31日)

臨床統計

2017年 整形外科手術件数	1,107件
大腿骨近位部骨折手術	224件
橈骨遠位端骨折	56件
脊椎手術	123件
人工関節手術	67件
など	

7. 産婦人科

産婦人科手術 総数 283

(平成29年1月～12月)

子宮手術	94	産科手術	129
子宮摘出	49	帝王切開	89
子宮悪性腫瘍	4	緊急帝王切開	44
子宮筋腫	28 (腹腔鏡下 11)	選択的帝王切開	45
子宮内膜症	7 (腹腔鏡下 3)	頸管縫縮術	8
子宮頸部異形成上皮	2 (腹腔鏡下 1)	流産手術	18
子宮脱	7	人工中絶	1
その他	1 (腹腔鏡下 0)	子宮外妊娠手術	6 (腹腔鏡下 2)
子宮筋腫核出	11 (腹腔鏡下 0)	その他	7
子宮頸部円錐切除	27	その他	7
その他	7		

付属器（卵巣・卵管）手術 53 分娩件数 235

悪性腫瘍	10
良性腫瘍	37 (腹腔鏡下 13)
子宮内膜症	3 (腹腔鏡下 2)
卵巣出血	0
その他	3

産婦人科月別外来患者数

(平成29年1月～12月) 単位：人

月	新患者数	再来患者数	計
1月	58	744	802
2月	42	686	728
3月	57	827	884
4月	48	790	838
5月	56	809	865
6月	66	863	929
7月	44	821	865
8月	43	794	837
9月	64	789	853
10月	46	929	975
11月	54	770	824
12月	55	819	874
計	633	9,641	10,274

産婦人科月別入院患者数

(平成29年1月～12月) 単位：人

月	入院患者数	退院患者数	延べ入院患者数
1月	60	60	686
2月	48	48	592
3月	46	46	574
4月	47	47	594
5月	48	48	594
6月	59	59	608
7月	50	50	608
8月	64	64	591
9月	50	50	545
10月	62	59	623
11月	48	46	694
12月	56	45	690
計	638	622	7,399

8. 小児科 (NICU)

平成29年の小児科NICU入院数は156例で、前年並みの入院数を維持していた。出生体重別入院数は、～499gが0例、500～999gが7例、1000～1499gが7例、1500～1999gが15例、2000～2499gが34例、2500g以上が93例で、超低出生体重児の入院が例年に比し倍増していた。ただし1500g未満の極低出生体重児という括りでは14例で、その数はほぼ例年通りだった。なお幸いなことに、昨年度は死亡退院がいなかった。

出生場所については院内出生が139/156 (89.1%)、院外出生が17/156 (10.9%)で、例年通り圧倒的に院内出生が多かった。院内出生のうち37/139 (26.6%)が母体搬送症例で、昨年に比し10%増であるが例年通りに戻った形になった。北庄内からの母体搬送は17例で昨年の2倍弱に増加し、新生児搬送も4例と多かった。また新庄地区から

の母体搬送も1例あった。ハイリスク妊娠が多いため89例に帝王切開術が実施されていて、入院児に対する帝王切開術の割合は64.0% (89/139)で、例年通り高率だった。また人工換気症例は14/156 (9.0%)で前年並みであったが、最近のNCPAPの活用により人工換気症例は以前より減っている印象がある。新生児外科症例は胆道閉鎖症の1例で、当院小児外科にて手術を行った。新生児搬送は、山形大学病院に搬送した開放性脊髄髄膜瘤と新潟大学病院に搬送したファロー四徴症+低位鎖肛の2例で、いずれも救急車で搬送した。

平成27年11月より新生児低酸素性虚血性脳症に対する低体温療法が当院でも実施可能になり、初年度は4例に低体温療法を実施したが、昨年は幸いなことに該当症例はいなかった。

出生体重	入院数	死亡退院数
～ 499g	0	0
500 ～ 999g	7	0
1000 ～ 1499g	7	0
1500 ～ 1999g	15	0
2000 ～ 2499g	34	0
2500g ～	93	0
計	156	0

9. 小 児 科

小児科（2017年度統計）

2017年度に4階東病棟（4東病棟）に入院した患者数は1,105名（男児606名、女児499名）であった。

表1に各疾患群別の入院患者数の年次推移を示す。小児の入院患者の多数は感染症患者が占めるが、近年ワクチン接種の拡充や保育園などでの感染対策の効果もあり、特定のウイルスの大流行はあまり認めなくなっている。昨年度も、大規模な特定のウイルスの流行はなく、呼吸器感染症、消

化器疾患（胃腸炎を含む）などの患者数は例年と同程度であった。また、2015年度より外来での検査から入院検査へ変更した低身長の子に対する成長ホルモン分泌負荷試験やMRIの鎮静入院、新たに始めたスキンケア入院、食物アレルギー児に対する経口食物負荷試験などの検査入院は年々増加傾向が続いている。尚、「事故」に含まれる児は主に薬物誤飲、過量投与、乳児の頭部外傷後の観察などの児である。

表1. 小児科入院患者の疾患別内訳

疾患群	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
呼吸器感染症	388	496	397	319	377	378	418
消化器疾患	94	215	110	101	168	142	136
気管支喘息	175	196	126	66	217	169	122
神経疾患	113	122	147	139	163	182	165
その他の感染症	46	50	46	51	58	43	38
腎・泌尿器疾患	22	27	27	40	21	39	11
川崎病	22	12	23	14	11	18	14
内分泌・代謝疾患	11	12	13	8	6	4	5
アレルギー・免疫疾患	10	10	18	19	48	30	17
血液・腫瘍性疾患	6	9	6	6	4	7	7
事故	11	8	7	8	19	11	9
循環器疾患	4	4	2	5	10	4	8
心身症	7	0	2	3	1	4	4
その他	10	13	13	39	42	37	23
検査入院	0	0	0	0	46	77	115
レスパイト入院						10	13
合 計 (人)	919	1,174	937	818	1,191	1,155	1,105

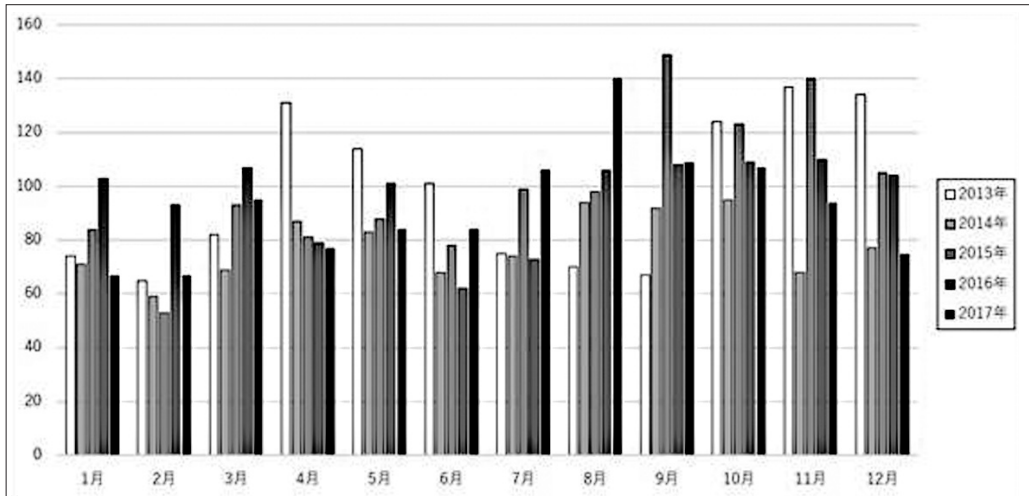


図1 月別の入院患者数の年次推移

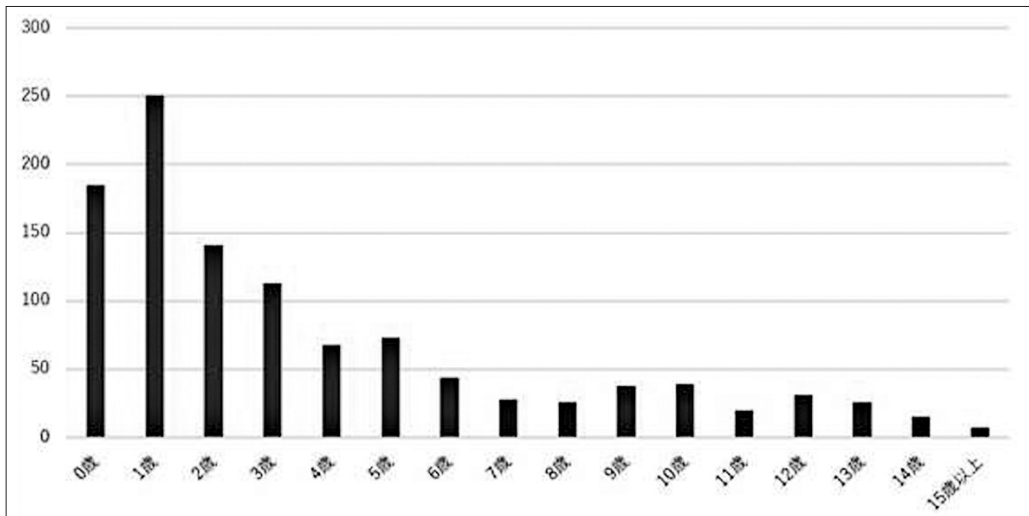


図2 年齢別の入院患者数

図1に月別の入院患者数の推移を示す。例年、小児科では夏期に患者数の減少がみられるが、2017年度は夏休みを利用した学童の検査入院が増加し、8月の入院数が最多となる過去にはない傾向であった（図の縦軸の単位は人）。また、近年は冬期に流行しやすいインフルエンザや感染性胃腸炎の大流行がないため冬期の入院数は少ない傾向にある。

図2は年齢別の入院患者数である。2歳未満の入院が多く、これは例年と同様の傾向であった。

また、2017年度からは小児病棟において小児慢性特定疾患の認定を受けている20歳未満の児が入院できるようになったため、15歳以上の患者が7名入院した。

図3に入院時間帯別の入院患者数を示す。2015年以降、検査入院などの予定入院患者増加のため午前中10時、11時台の入院患者数が増加傾向にあるが、2017年度も同様であった。21時以降の夜間入院は比較的少ない傾向にあった。

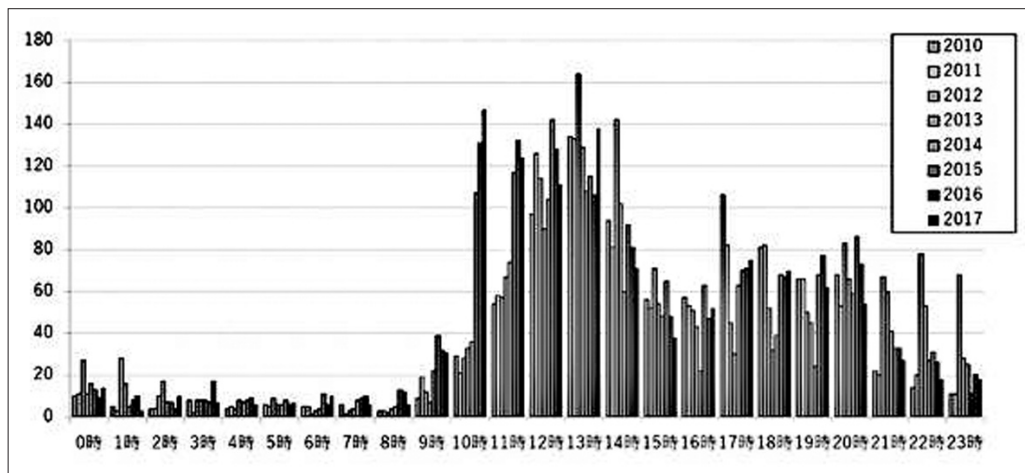


図3 入院時間別患者数の年次推移

2015年7月に4階東病棟（以下4東病棟）は小児専門病棟としての運営を開始した。3年を経過し、より小児に対して専門的な医療、看護が提供できるようになっている一方で、15歳以上の小児科患者の入院先を決めることに苦慮する場合が少なくない。15歳、または高校性以上をもって主科を成人科とするかどうかは病院ごとに判断が異なるが、

当院全体の業務バランスを見た場合、出来るだけ小児科管理で入院治療を行う事が患者、医療者の双方にとってもメリットが大きいように今は思われる。今後の小児科病棟の在り方については流動的ではあるが、小児科患者について最良の医療を提供できるよう今後も努めて行くつもりである。

10. 耳鼻咽喉科

2017年耳鼻咽喉科入院内訳

(耳)	
浸出性中耳炎	3
突発性難聴	4
耳介異物	1
顔面神経麻痺	3
眩暈症	25
(鼻)	
鼻出血	3
術後性頬部嚢腫	1
頬部蜂窩織炎	2
(咽喉頭)	
扁桃肥大 (op)	1
習慣性扁桃炎 (op)	2
アフタ性口内炎	1
急性咽喉頭炎 (急性扁桃炎を含む)	7
IgA腎症 (扁桃摘)	1
扁桃周囲炎+膿瘍	5
睡眠時無呼吸症候群 (op)	5
扁桃摘残糸 (抜糸手術)	1
顔面外傷	1
(頸部)	
頸部ガス壊疽	1
気管腕頭動脈瘤	1
計	68

2017年手術内訳

鼓室内チューブ留置術	4
耳介異物摘出術	1
上顎洞根本術	1
口唇嚢腫切除術	2
喉頭腫瘍切除術	1
IgA腎症 扁桃摘出術	1
口蓋扁桃摘出術 (SASを含む)	16
アデノイド切除術	4
咽頭口蓋形成術	1
扁桃摘残糸抜糸	1
頸部切開排膿	1
頸部リンパ節摘出術	5
計	38

11. 皮 膚 科

2017年 皮膚科外来患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
新患	26	24	25	31	36	32	55	77	48	27	18	17	416
再来	141	120	142	123	170	138	200	144	168	175	160	134	1,815
計	167	144	167	154	206	170	255	221	216	202	178	151	2,231

12. 泌 尿 器 科

平成29年 泌尿器科手術件数

手 術 名	件数
根治的腎摘除術	1
腎部分切除術	1
腎尿管全摘術	4
膀胱全摘術	2
膀胱部分切除術	1
前立腺全摘術	1
経尿道的尿管結石碎石術	3
体外衝撃波結石破碎術	19
経尿道的膀胱癌手術	54
経尿道的膀胱結石碎石術	10
前立腺生検	65
陰のう水腫根治術	3
その他	3
計	167

13. 放射線科・放射線画像センター

〔臨床統計〕

・原疾患別放射線治療新患者数

1. 脳・脊髄腫瘍	0	8. 婦人科腫瘍	2
2. 頭頸部腫瘍	5	9. 泌尿器系腫瘍	29
3. 食道癌	9	10. 造血リンパ系腫瘍	7
4. 肺癌・気管・縦隔腫瘍	20	11. 皮膚・骨・軟部腫瘍	0
5. 乳癌	15	12. その他(悪性腫瘍)	4
6. 肝・胆・膵癌	4	13. 良性疾患皮膚ケロイド	4
7. 胃・小・結・直腸癌	10	14. (15歳以下の小児)	0

・過去3ヶ年の撮影患者数の動向

	2015年1～12月	2016年1～12月	2017年1～12月
勤務時間内	60,743	62,785	63,476
勤務時間外	17,171	16,975	18,120
合計	77,905	79,765	81,596
前年比		102.39%	102.30%
対前々年比			104.74%

・Interventional Radiology (IVR、画像下治療)

放射線科	血管撮影 31	TACE	20
		その他TAE	8
		PTA	3
	非血管系 8	CTガイド下膿瘍ドレナージ	6
CTガイド肺生検		2	
脳神経外科	血管撮影 89	コイル塞栓術	14
		コイル塞栓術+ステント留置術	5
		CAS	1
		血栓回収術	6
		その他IVR (NBCA)	1
		検査アンギオ	62

〔読影統計〕

	CT		MRI		マンモ		人間ドック(胸部)		人間ドック(CT)	
検査数	18,993		6,657		756		1,810		419	
読影数	13,055	69%	3,165	48%	756	100%	1,810	100%	419	100%
(院内)	6,704	35%	1,393	21%	0	0%	0	0%	0%	0%
(院外)	6,351	33%	1,772	27%	756	100%	1810	100%	100%	100%

AiCT	
院内	警察
98	33

※ %は検査数に対する読影数の割合

〔業務統計〕

・撮影種別患者数

撮影項目	2016年1月～12月			2017年1月～12月		
	勤務時間内	勤務時間外	合計	勤務時間内	勤務時間外	合計
一般撮影	30,206	7,746	37,952	29,986	7,703	37,689
ポータブル撮影	4,700	2,915	7,615	4,552	4,055	8,607
乳房撮影	1,672	1	1,673	1,545	0	1,545
パントモ撮影	687	7	694	800	5	805
骨塩定量	1,275	0	1,275	1,125	0	1,125
結石破砕	24	1	25	18	0	18
X線TV	1,774	146	1,920	1,883	139	2,022
一般アンギオ	115	11	126	103	19	122
循環器アンギオ	249	57	306	239	56	295
C T	14,314	4,926	19,240	14,578	5,062	19,640
M R I	5,743	1,170	6,913	5,735	1,081	6,816
R I	338	0	338	391	0	391
放射線治療	1,688	0	1,688	2,521	0	2,521
合計	62,785	16,980	79,765	63,476	18,120	81,596

14. 麻 酔 科

2017年麻酔科管理症例

麻酔科管理症例数	1218 (うち手術室内 1207、手術室外 11)
----------	----------------------------

【ASA PS】

予定 1	2	3	4	5	6 (臓器摘出を受ける 脳死患者が対象)	合 計
229	638	110	1	0	0	978
緊急1E	2E	3E	4E	5E	6E (臓器摘出を受け る脳死患者が対象)	合 計
30	139	65	6	0	0	240
合 計						1218

【手術部位】

a.脳神経・脳血管	42	h.頭頸部・咽喉部	126
b.胸腔・縦隔	72	k.胸壁・腹壁・会陰	99
c.心臓・血管	0	m.脊椎	111
d.胸腔+腹部	7	n.股関節・四肢(含：末梢神経)	229
e.上腹部内臓	230	p.検査	1
f.下腹部内臓	295	x.その他	2
g.帝王切開	4	合計	1218

【麻酔法】

	a：全身麻酔 (吸入)	b：全身麻酔 (TIVA)	c：鎮静	z：なし
1.硬膜外麻酔	143	149	0	0
1.硬膜外麻酔+2.脊髄くも膜下麻酔	0	0	1	0
1.硬膜外麻酔+2.脊髄くも膜下麻酔+3.伝達麻酔	0	0	0	0
1.硬膜外麻酔+2.脊髄くも膜下麻酔+3.伝達麻酔 +8.その他局麻	0	0	0	0
1.硬膜外麻酔+2.脊髄くも膜下麻酔+8.その他局麻	0	0	0	0
1.硬膜外麻酔+3.伝達麻酔	1	0	0	0
1.硬膜外麻酔+3.伝達麻酔+8.その他麻酔	0	0	0	0
1.硬膜外麻酔+8.その他麻酔	1	0	0	0
2.脊髄くも膜下麻酔	1	1	0	2
2.脊髄くも膜下麻酔+3.伝達麻酔	0	0	0	0
2.脊髄くも膜下麻酔+3.伝達麻酔+8.その他局麻	0	0	0	0
2.脊髄くも膜下麻酔+8.その他局麻	0	0	0	0
3.伝達麻酔	64	24	0	0
3.伝達麻酔+8.その他局麻	1	0	0	0
8.その他局麻	95	47	0	1
9.麻酔なし	218	103	0	0
合 計	524	324	1	3

旧分類【麻醉法】

A.全身麻酔(吸入)	464	F.硬膜外麻酔	0
B.全身麻酔(TIVA)	256	G.脊髄くも膜下麻酔	2
C.全身麻酔(吸入)+硬・脊、伝麻	266	H.伝達麻酔	0
D.全身麻酔(TIVA)+硬・脊、伝麻	227	X.その他	2
E.脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔(CSEA)	1	合 計	1218

【年齢構成】

	男 性	女 性	合 計
AA.～4週未満	0	1	1
AB.～1歳未満	9	3	12
AC.～6歳未満	40	19	59
AD.～10歳未満	24	11	35
AE.～15歳未満	18	16	34
AF.～20歳未満	20	17	37
AG.～30歳未満	20	26	46
AH.～40歳未満	28	39	67
AI.～50歳未満	30	73	103
AJ.～60歳未満	61	59	120
AK.～65歳未満	55	36	91
AL.～70歳未満	84	62	146
AM.～80歳未満	131	121	252
AN.～85歳未満	52	66	118
AO.～90歳未満	31	36	67
AP.～100歳未満	7	23	30
AQ.100歳以上～	0	0	0
合 計	610	608	1218

旧分類【年齢構成】

	男 性	女 性	合 計
A.～1ヶ月	0	2	2
B.～12ヶ月	9	2	11
C.～5歳	40	19	59
D.～18歳	58	42	100
E.～65歳	211	252	463
F.～85歳	262	240	502
G.86歳～	30	51	81
合 計	610	608	1218

【体位】

1.仰臥位	892	4.切石位	59
2.腹臥位	130	5.坐位	13
3.側臥位	124	6.その他	0
		合 計	1218

15. 病 理 科

臨床統計

病理検査はほぼ昨年並みであった。

検体種類別に見てみると、組織診一臓器・三臓器が増加した。特に三臓器での増減率は66.7%であった。細胞診はドック細胞診で11%減少した。また、病理解剖も減少した。

外部委託は増加した。診療科別の件数を見ると、整形外科と人間ドックが減少したが、小児外科と循環器科は増加した。

表 1 2017年 病理検査件数

検査種類	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年計	増減数	増減率
組織診一臓器	166	158	146	159	134	172	182	190	161	172	160	162	1962	1780	182	10.2
組織診二臓器	32	25	28	21	29	20	22	30	27	27	32	21	314	312	2	0.6
組織診三臓器	11	9	12	9	10	10	10	11	13	12	9	14	130	78	52	66.7
術中迅速組織診	14	11	10	14	7	8	8	10	16	11	9	14	132	131	1	0.8
細胞診検査	253	257	336	299	260	314	269	249	302	310	248	265	3362	3464	-102	-2.9
術中迅速細胞診	4	0	1	1	4	0	1	3	1	5	2	5	27	22	5	22.7
検診細胞検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
ドック細胞検査	59	51	57	65	52	63	79	74	74	65	55	53	747	840	-93	-11.0
外部委託検査	15	29	25	18	14	44	37	33	28	37	15	45	340	215	125	58.1
病理検査小計	554	540	615	586	510	631	608	600	622	639	530	579	7014	6842	172	2.5
病理解剖	0	0	1	0	2	0	0	0	1	0	0	0	4	8	-4	-50
免疫染色	51	38	48	47	28	47	32	48	38	40	46	32	495	470	25	5.3
医師会組織診	200	198	224	187	227	315	299	278	267	313	333	287	3128	2890	238	8.2
医師会細胞診	60	64	48	31	32	39	51	28	35	37	38	31	494	870	-376	-43.0
病理検査総計	865	840	936	851	799	1032	990	954	963	1029	947	929	11135	11080	55	0.5

表 2 2017年 診療科別統計

() 内は2016年件数

診療科	受付件数組織診	作成組織ブロック数	作成標本枚数組織診	受付件数細胞診	作成標本枚数細胞診	剖検数
内 科	7 (16)	9 (28)	108 (145)	24 (23)	79 (94)	1 (4)
消化器科	891 (802)	1478 (1329)	2111 (1919)	80 (80)	350 (350)	1 (0)
呼吸器科	33 (19)	46 (21)	434 (272)	185 (220)	1159 (1208)	0 (0)
外 科	497 (428)	5111 (4994)	7614 (7440)	368 (407)	1713 (1745)	1 (0)
呼吸器外科	119 (120)	1078 (1240)	2931 (2719)	20 (25)	137 (143)	0 (0)
小児外科	32 (27)	89 (143)	106 (249)	4 (0)	23 (0)	0 (0)
泌尿器科	193 (160)	1021 (839)	1263 (1070)	1229 (1202)	2503 (2422)	0 (0)
婦人科	343 (316)	2615 (2461)	3109 (3096)	1307 (1321)	1899 (1918)	0 (0)
形成外科	142 (124)	262 (211)	377 (315)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
整形外科	59 (74)	119 (150)	258 (259)	121 (172)	310 (426)	0 (0)
耳鼻咽喉科	18 (18)	38 (27)	105 (46)	14 (8)	45 (36)	0 (0)
歯科口腔外科	101 (86)	155 (151)	370 (361)	1 (0)	4 (0)	0 (0)
皮膚科	42 (57)	57 (68)	174 (230)	2 (0)	7 (0)	0 (0)
脳神経外科	8 (4)	31 (6)	63 (39)	2 (0)	4 (0)	0 (0)
神経内科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	11 (7)	22 (17)	0 (0)
小児科	4 (1)	4 (8)	17 (8)	7 (12)	17 (36)	0 (0)
眼 科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
人間ドック	39 (49)	39 (50)	44 (71)	746 (840)	1768 (2111)	0 (0)
循環器科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (0)	35 (0)	0 (1)
その他	0 (0)	0 (0)	70 (7)	9 (9)	10 (9)	0 (5)
合 計	2534 (2302)	12152(11728)	19154(18244)	4136 (4326)	10085(10515)	3 (10)

16. 歯科口腔外科

2017.1.1～12.31臨床統計. 口腔外科台帳からのデータ.

表1 2017年新患

年間新患数	877例	
(内訳)院外紹介	630例	71.8%
院内紹介	132例	15.1%
救急センター	105例	12.0%
その他	10例	1.1%

表2 口腔外科外来受診症例

日本口腔外科学会受診症例調査票に基づいた統計

(例)

先天異常・ 発育異常	唇(顎)裂	唇裂口蓋裂	1	口腔粘膜 疾患	口腔乾燥症	2	唾液腺疾患	唾液腺炎	1	
		口蓋裂	1		白板症	9		唾石症	4	
		唇顎口蓋裂	2		扁平苔癬	10		唾液腺腫瘍	良性唾液腺腫瘍	0
		その他の唇顎口蓋裂	0		ウイルス性疾患	1			悪性唾液腺腫瘍	0
	顎変形症	下顎前突症	5	その他の口腔粘膜疾患	31	悪性腫瘍	癌腫	口唇	0	
		その他の顎変形症	3	嚢 胞	歯原性嚢胞			23	頬粘膜	0
	その他の先天異常・発育異常	2	非歯原性嚢胞		11			歯肉	5	口蓋
骨折		歯槽骨骨折	2		軟組織嚢胞			12	舌	2
		上顎骨骨折	3	良性腫瘍及 び腫瘍類似 疾患	歯原性腫瘍		0	口底	0	
下顎骨骨折	6	エナメル上皮腫	0		肉腫		悪性黒色腫	0		
頬骨・頬骨弓骨折	12	その他の歯原性腫瘍	2				悪性リンパ腫	0		
歯の外傷	13	非歯原性腫瘍	12	その他の悪性腫瘍		0				
軟組織創傷	93	腫瘍類似疾患	16	歯科心身症	7	歯	P, Perなど	161		
炎 症	膿瘍	19	顎関節疾患	顎関節症	36		Perico、埋伏歯、位置異常	304		
		顎骨炎		BRONJ	0			顎関節脱臼	4	該当項目なし
	その他の顎骨炎	9		顎関節強直症	0		咀嚼筋腱・腱膜過形成症	0		
	上顎洞炎	3		神経性疾患	神経痛	5				
	特異性炎	0	神経麻痺		3					
インプラント周囲炎	1	非定型顔面痛	5							
睡眠時無呼吸症候群	0	その他の神経性疾患	1							
インプラント症例	0									

表3 入院統計

疾患分類	(例)	(%)
顎変形症	14	10.9
骨内プレート	9	7.0
悪性腫瘍	14	10.9
良性腫瘍・嚢胞	22	17.2
炎症	5	3.9
外傷	7	5.5
抗凝固剤投与状態	11	8.6
埋伏歯・埋伏智歯	39	30.5
その他	7	5.5

総症例数 128
 複数回入院 3
 前年からの越年入院 1
 Sterben 3

表4 手術統計

日本口腔外科学会専門医制度の手術難易度区分表（2016.11改訂）の分類に基づいた統計

表4A 外来小手術統計

分野記号	レベルI 基本	レベルII 中難度	レベルIII 高難度	レベルIV 超高難度	合計	
A-1	270	12	0		282	77.0%
A-2	4	0	0		4	1.1%
A-3	0	0	0		0	0%
B-1	9	3	0	0	12	3.3%
B-2	29	0	0	0	29	7.9%
B-3	8	0	0	0	8	2.2%
B-4	0	0			0	0%
C-1	6	0	0	0	6	1.6%
C-2	1	0	0	0	1	0.3%
C-3	0	0	0	0	0	0%
D-1	0	0	0	0	0	0%
D-2	0	0	0	0	0	0%
D-3	0	0	0	0	0	0%
その他	その他、上記に含まれない生検などの小手術（ただし、普通抜歯は含まず）				24	6.6%

総数366術式（複数分野施行は7術式）

表4B 手術センター手術統計

分野記号	レベルI 基本	レベルII 中難度	レベルIII 高難度	レベルIV 超高難度	合計	
A-1	4	56	0		60	40.3%
A-2	1	0	0		1	0.7%
A-3	0	0	0		0	0%
B-1	1	2	0	0	3	2.0%
B-2	22	4	0	0	26	17.4%
B-3	1	0	0	0	1	0.7%
B-4	0	0			0	0%
C-1	1	3	0	0	4	2.7%
C-2	14	3	15	3	35	23.5%
C-3	0	0	0	0	0	0%
D-1	2	6	0	0	8	5.4%
D-2	0	0	0	0	0	0%
D-3	0	4	3	0	7	4.7%
その他	その他、上記に含まれない手術				4	2.7%

110症例に対して、149術式（複数分野施行39術式）施行した。
全麻：94例、IV-S：11例、局麻：5例。

<分野記号：分野名>

A-1：歯・歯槽外科手術，A-2：補綴前外科手術/顎堤形成手術/骨移植手術，A-3：口腔インプラント関連手術

B-1：消炎手術，B-2：良性腫瘍・嚢胞・腫瘤形成疾患等の手術，B-3：唾液腺関連手術，B-4：上顎洞関連手術

C-1：顎顔面外傷手術/異物除去手術，C-2：顎変形症関連手術/顎顔面骨延長術，C-3：顎関節手術および関連処置

D-1：癌/前癌病変関連手術および処置（唾液腺悪性腫瘍は別掲），D-2：再建外科手術，D-3：口唇裂・口蓋裂関連手術

17. 中央検査科

2017年は検体検査は微増、生理検査は1.73%の減となった。2015年から2016年にかけて細菌検査と生理検査の数が大きく増加していた反動と考える。細菌検査は、ICT活動の他に新たにASTも立ち上がり、日常業務以外での活動も増加しているため更なる体制強化を図りたい。生理検査も引き続き超音波検査の医師施行分の技師実施並びに即日実施検査の拡充を進めたい。検体検査はプレアルブミン、HBe、HBe抗体などの外注化を実施し採算性を高めた。今後も検査項目を見直し効率化を図りたい。

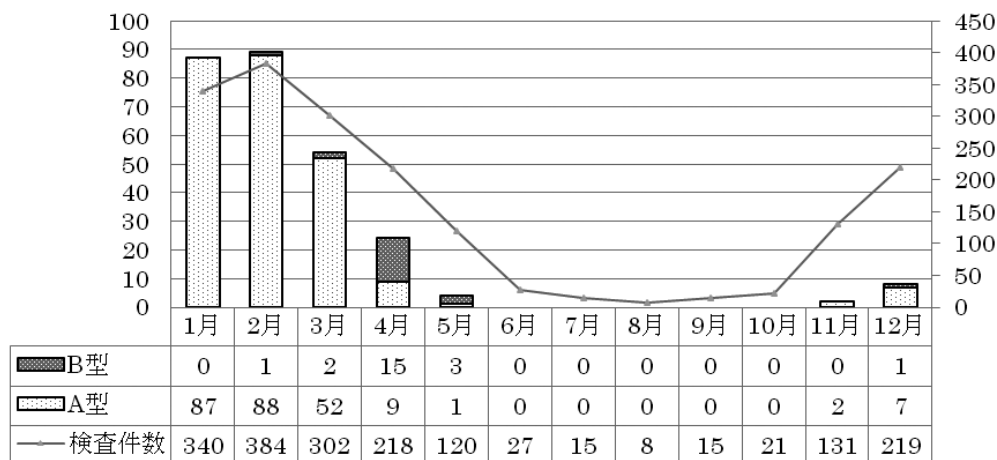
【検体検査】

	2016年	2017年	増減率%
化学	1,300,504	1,338,181	2.90
血液	159,599	161,714	1.33
血清	70,324	73,977	5.19
一般	46,776	46,870	0.20
細菌	36,637	37,134	1.36
(迅速)	5,230	5,025	-3.92
(一般菌)	31,407	32,109	2.24
輸血	10,459	10,165	-2.81
委託	19,953	17,741	-11.09
合計	1,644,252	1,685,782	2.53

【生理検査】

	2016年	2017年	増減率%
心電図	8778	7962	-9.30
ホルター心電図	289	310	7.27
自律神経	6	4	-33.33
呼吸機能検査	2407	2539	5.48
薬剤負荷心電図	28	39	39.29
トレッドミル	144	137	-4.86
心カテ	371	345	-7.01
PSG睡眠時無呼吸	10	4	-60.00
脳波	581	478	-17.73
針筋電図	3	1	-66.67
神経伝導速度	283	243	-14.13
聴力検査	1093	1029	-5.86
尿素呼気試験	160	215	34.38
心エコー(技師)	662	886	33.84
腹部エコー(技師)	1396	1393	-0.21
甲状腺エコー(技師)	163	191	17.18
乳腺エコー(技師)	773	705	-8.80
頸動脈エコー(技師)	31	24	-22.58
形成用表在エコー	54	53	-1.85
下肢静脈超音波検査	59	53	-10.17
皮膚灌流圧虚血検査	4	1	-75.00
四肢動脈圧検査	125	95	-24.00
トリフロー(説明)	173	196	13.29
生理室検査 合計	16107	15828	-1.73

2017年インフルエンザ検査状況



18. 薬 局

調剤業務では薬剤管理指導件数は、退院時指導を除き減少した。錠剤鑑別、再調剤の件数も増えてきたことや薬剤師の欠員等もあり病棟薬剤業務実施加算の算定と並行して病棟での薬剤師業務を充実させることができなかった。H30年は現状維持またはそれ以上できるようにしていきたい。

処方箋枚数

	H29	H28	前年比
入院処方箋	83,202	72,142	115.3%
外来(院内) (検査紙等含む)	14,807	15,836	93.5%
院外処方箋	68,192	65,984	103.3%
院外発行率	82.16%	80.65%	101.9%

注射処方箋枚数

	H29	H28	前年比
注射処方箋(入院)	160,141	154,808	103.4%
注射処方箋(外来)	21,270	21,963	96.8%

薬剤管理指導業務

	H29	H28	前年比
指導人数	8,257	7,871	104.9%
指導回数	13,817	13,669	101.1%
通常薬請求件数	5,377	5,757	93.4%
ハイリスク薬 請求件数	2,500	2,931	85.3%
麻薬管理 指導加算件数	44	100	44.0%
退院時薬剤情報管理 指導料算定件数	2,932	2,883	101.7%

抗悪性腫瘍剤調製

	H29		H28		前年比	
	(人数)	(件数)	(人数)	(件数)	(人数)	(件数)
(入院)	1,601	2,689	1,496	3,144	107.0%	85.5%
(外来)	1,227	1,449	1,323	1,600	92.7%	90.6%

I V H 調製

	H29	H28	前年比
調製本数(成人)	364	636	57.2%
調製本数(小児)	3,120	2,976	104.8%

院外処方せん発行率は昨年に比べてわずかではあるが上昇している。

後発品置き換え率については、着実に切り替えを行ってきた成果がでている。現在の90%以上を維持するために今後も継続して切り替えを行っていくとともに採用品目の削減も実施していく。

製 剤

	H29	H28	前年比
一般製剤品目数	65	65	100.0%
無菌製剤品目数	28	28	100.0%
調製件数	4,112	2,158	190.5%

臨床試験・製造販売後調査

	H29	H28	前年比
臨床試験	0	0	-
製造販売後調査	41	41	100%

持 参 薬 鑑 別 (H29は外来も含む)

	H29	H28	前年比
鑑別人数	8,648(7,853)	7,903	109.4%
鑑別件数	13,559(12,695)	11,322	119.8%

外来指導

	H29	H28	前年比
指導人数	172	104	165.4%

入院時面談

	H29	H28	前年比
面談人数	2,511	2,016	124.6%

後発医薬品

	H29	H28	前年比
置き換え率(数量ベース)	91.68%	91.59%	100.1%

再 調 剤

	H29	H28	前年比
再調剤件数	1,419	統計なし	-

19. リハビリテーションセンター

2017年 リハビリテーションセンター 実施のべ人数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
理学療法	外来	脳血管	19	17	13	8	11	13	14	11	15	15	16	16	168
		運動器	194	181	254	205	214	223	198	223	200	161	134	118	2,305
		呼吸器	0	0	9	13	2	1	3	2	1	0	1	0	32
		心大血管	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		廃用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	脳血管	737	781	733	714	746	678	647	732	514	796	731	645	8,454
		運動器	1,140	1,208	1,125	1,142	1,203	1,104	728	927	766	756	833	995	11,927
		呼吸器	115	122	121	235	192	185	227	210	206	152	170	216	2,151
		心大血管	126	140	184	116	163	184	121	126	120	129	197	226	1,832
		がん	145	101	97	204	214	220	225	253	228	206	215	264	2,372
		廃用	308	361	419	323	398	496	464	404	409	391	450	544	4,967
作業療法	外来	脳血管	2	1	0	0	2	4	8	10	8	6	2	1	44
		運動器	216	196	195	152	199	187	164	151	145	177	192	203	2,177
		呼吸器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		心大血管	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		廃用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	脳血管	398	362	319	328	362	375	411	498	435	643	558	544	5,233
		運動器	131	122	134	114	132	164	98	95	136	212	206	136	1,680
		呼吸器	0	2	6	0	2	1	0	1	14	10	7	13	56
		心大血管	10	5	14	0	0	2	0	1	9	0	16	19	76
		がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	21	35
		廃用	8	18	3	0	9	35	23	19	38	23	33	37	246
言語療法	外来	脳血管	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		運動器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		呼吸器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		心大血管	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		廃用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	脳血管	217	191	153	191	199	232	228	247	211	315	206	203	2,593
		運動器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		呼吸器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		心大血管	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		廃用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	4	18
摂食療法	外来	脳血管	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
	入院	脳血管	269	268	258	220	245	219	204	280	240	225	264	274	2,966

20. 栄 養 科

給 食 の 状 況

1. 栄養指導回数及び延人員

区分 年度	胃腸病			肝臓病			高血圧			心臓病			糖尿病		
	件数	患者 家族	合計	件数	患者 家族	合計	件数	患者 家族	合計	件数	患者 家族	合計	件数	患者 家族	合計
27	579	579 313	892	32	32 20	52	62	62 35	97	83	83 64	147	196	196 115	311
28	461	461 342	803	6	6 2	8	11	11 7	18	141	141 78	219	383	383 130	513
29	603	603 309	912	8	8 3	11	26	26 24	50	171	171 95	266	398	398 107	505
区分	腎臓病 肥満 その他 がん 総計														
年度	件数	患者 家族	合計	件数	患者 家族	合計	件数	患者 家族	合計	件数	患者 家族	合計	件数	患者 家族	合計
	27	68	68 37	105	50	50 60	110	108	108 84	192				1,178	1,178 728
28	224	224 88	312	96	96 80	176	333	333 74	407	289	289 113	402	1,944	1,944 914	2,858
29	223	223 83	306	103	103 101	204	323	323 182	505	334	334 137	471	2,189	2,189 1,041	3,230

※「がん」は、28年度の診療報酬改定により算定対象

2. 給食数

区分 年度	一般食	特別食	給食総数	一日平均給食人員	給食総数に対する特別食加算の割合
27	181,626	169,774 (内特別食加算 91,207)	351,400	962.7	26.0%
28	163,042	191,156 (内特別食加算 101,631)	354,198	968.0	28.7%
29	175,520	179,003 (内特別食加算 88,329)	354,523	972.0	24.9%

3. 主要特別食数内訳

区分 年度	塩分制限食	塩分透析食	塩分制限食	エネルギー指定食	エネルギー蛋白制限食	脂制限食	脂肪制限食	潰瘍食	胃切除食	腸切除食	学童幼児食	児童食	やわらかご飯食	高蛋白食	経流動食	その他	計
27	16,969	5,855	4,171	24,729	5,635	2,076	1,015	2,659	3,025	10,584	11,519	51	15,546	65,940	169,774		
28	23,931	6,351	7,837	31,165	6,750	5,025	2,309	2,438	3,204	8,423	8,784	41	14,142	70,756	191,156		
29	25,090	5,364	7,569	37,350	4,056	5,249	1,572	2,827	4,176	7,939	11,985	28	12,872	52,926	179,003		

21. 平成29年度糖尿病委員会活動報告

メンバー紹介

医師：須田克幸 竹田文洋

臨床検査技師：大塚隼人

薬剤師：鎌田敬志 管理栄養士：澤井寛子 助産師：土谷碧

理学療法士：佐太木淳一 五十嵐健文

看護師：佐藤恵美 菊池 彩 菅原咲菜 立里千咲 佐藤美香

1、定例委員会 毎月1回 開催 (第1火曜日)

2、糖尿病教室 毎月第2金曜日 14:00~15:00

期 日	3月10日	講 師	参加者
4月11日	糖尿病ってどんな病気？ 他の病気と深い関係 健康診断 見方と受診のタイミング	内科医師 検査技師	7名
5月2日	測ってみよう 血糖値！ 数値をどう読む？	検査技師	4名
6月6日	雨の日でもできる！効果的な運動 熱中症予防—夏場の水分補給のしかた—	理学療法士 看護師	3名
7月4日	無理なく継続 食事療法	管理栄養士	4名
8月1日	糖尿病のあれこれ（災害、高齢者の糖尿病）	薬剤師	4名
9月5日	糖尿病と腎不全 家庭で血圧を測ろう	内科医師 看護師	7名
10月3日	～特別企画～健康まつりから	看護師	4名
11月7日	糖尿病と眼の病気 シックデイ 低血糖について	眼科医師 看護師	4名
12月5日	プラークコントロールで歯周病予防 年末年始の食事、外食の心得について	歯科衛生士 管理栄養士	2名
1月9日	糖尿病とストレス 災害時の備え	臨床心理士 看護師	3名
2月6日	糖尿病神経障害ってどんな病気 フットケア実践	看護師	3名
3月6日	糖尿病と妊娠	助看護師	3名

3、糖尿病だより（患者向け広報）発行：月1回

平成30年3月までで、第255号となった。

4、院内研修会

期 日	内 容
平成29年6月6日(火) 17:30~18:30 講堂 委員会主催	講演「インスリン注射のリスクマネジメント」 グループディスカッション「事例について話し合いグループ毎に発表」
平成29年12月5日(火) 17:30~18:30 講堂 委員会主催	講義「最近の血糖測定器、日内変動を知る血糖測定器(iPro2)」 報告「院内の血糖測定器貸与と手続き」 グループディスカッション「日頃の疑問や事例について話し合い」

5、院外発表

- ◎第8回庄内薬剤師糖尿病講演 2017年6月17日 荘内病院講堂
「インスリン製剤をバイオ後続品へ切り替えた際の患者満足度についてのアンケート調査」
鶴岡市立荘内病院診療部薬局 五十嵐 康郎
- ◎第5回日本糖尿病協会療養指導学術集会 2017年7月29日~30日 京都
「糖尿病を有する透析患者の定期眼科受診の実態調査」
鶴岡市立荘内病院看護部血液浄化療法センター 齋藤まゆ
- ◎第6回日本くすりと糖尿病学会学術集会 2017年9月17日・18日 東京
「DPP4阻害薬・GLP1受容体作動薬・SGLT2阻害薬とSU薬・グリニド薬・インスリン注射の組み合わせ処方調査と課題」
鶴岡市立荘内病院診療部薬局 鎌田 敬志、荒井 真智子 同看護部 宅井さやか
独立行政法人山形県・酒田市病院機構日本海総合病院 成田 康之
医療法人社団山形愛心会庄内余目病院 鈴木 悠太
- ◎第6回日本くすりと糖尿病学会学術集会 2017年9月17日・18日 東京
「がん薬物療法認定薬剤師と糖尿病療養指導士による免疫チェックポイント阻害薬投与患者に対する糖尿病発症チェックの試み」
独立行政法人山形県・酒田市病院機構日本海総合病院 成田 康之 茂木 佳子
医療法人社団山形愛心会庄内余目病院 鈴木 悠太
鶴岡市立荘内病院診療部薬局 鎌田 敬志
- ◎日本糖尿病学会第55回東北地方会 2017年11月11日仙台
「ノボラピッド®30ミックス注フレックスペン®からライゾデグ®配合注フレックスタッチ®へ切り替え説明直後の患者アンケート調査」 仙台
鶴岡市立荘内病院診療部薬局 鎌田 敬志、石川大介、荒井 真智子
同看護部 阿部 優子、齋藤 まゆ、長濱 恵美、押井 あけみ、百瀬 幸
- ◎日本糖尿病学会第55回東北地方会 2017年11月11日仙台
「高濃度グルコース尿が検査に及ぼす影響の調査」 仙台
鶴岡市立荘内病院診療部中央検査科 大塚 隼人 同診療部薬局 鎌田 敬志

6、その他の活動

- フットケア外来を内科外来及び血液浄化センターにて実施し、内科外来延べ87件／年、血液浄化療法センター述べ357件／年でセルフケア、足病変悪化の予防が図られている。
- 内科外来において透析予防指導管理を開始し67件／年で、透析予防のための療養支援を行っている。
- 在宅妊娠糖尿病患者の指導を開始し10件／年で、療養支援を行っている。
- 糖尿病教室を1回／月、外来第1相談室で、糖尿病患者もしくはご家族、興味がある方を対象にし、月ごとにテーマを決め実施している。参加者は、49人／年である。
- 鶴岡市健康まつり 平成29年10月8日（日） 小真木原総合体育館 多目的ホール
糖尿病ケアチームとして参加
- 大山健康まつり 平成29年10月21日（土） 大山コミセン
糖尿病ケアチームとして参加

〈学会・研修会への参加〉

- 第60回日本糖尿病学会年次学術集会 2017年5月18日～20日 名古屋
中央検査科 大塚 隼人
- 第5回日本糖尿病協会療養指導学術集会 2017年7月29日～30日 京都
血液浄化療法センター 齋藤まゆ
- 日本腎臓学会第3回腎臓病療養指導士講習会 2017年8月20日 東京
薬局 鎌田 敬志
- 糖尿病学会第54回東北地方会 2016年11月12日 仙台
中央検査科 大塚隼人、看護部6階西入院棟 菊池 彩、薬局 鎌田 敬志
- 第32回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会2017年12月2日～3日 宮崎
4階西入院棟 廣井 碧
- 第51回糖尿病学の進歩 2017年3月2日～3日 福岡 7階西入院棟 立里 千咲

22. NST（栄養サポートチーム：Nutrition Support Team）委員会活動報告

1. NST委員会 委員

大滝雅博（医師） 安宅 謙（医師） 坂本 薫（医師） 井上裕子（看護師） 秋野博子（看護師）
 石井 佳（看護師） 富樫悠奈（看護師） 佐藤拓也（薬剤師） 富樫博子（管理栄養士）
 工藤優子（管理栄養士） 鈴木貴志（臨床検査技師） 高橋裕美（臨床検査技師）
 五十嵐知依（言語聴覚士） 石垣佑美（歯科衛生士）

2. 活動内容

NST委員会は、主に栄養に関わる管理、提言、啓蒙などの活動を行っている。平成17年より本格的な活動を開始し、引き続き回診・レクチャーなどを中心に活動を行った。

● スクリーニング（入院時初期評価）

入院患者に対し、スクリーニングと栄養管理計画書

2017.1～2017.12までのスクリーニング実施数10588名、NST介入依頼数は151名であった。

● 回診（毎週水曜日）

定例回診数 49回

新規紹介患者 151名（男性89名、女性62名）

回診延べ患者 522名

平均年齢 75.9歳（0-101）

うち褥瘡保有患者 21名（13.9%）

● 介入患者の分析

- 介入時の栄養状態が低下しているほど死亡の転帰をたどる症例が多く、在院日数が長かった。

介入時栄養状態 と 最終転帰・在院日数について					
栄養不良なし	24	自宅・施設退院	7	転 院	15
		死 亡	2	平均在院日数	35.5日
軽度栄養不良	25	自宅・施設退院	11	転 院	13
		死 亡	2	平均在院日数	45.1日
中等度栄養不良	66	自宅・施設退院	30	転 院	27
		死 亡	9	平均在院日数	53.0日
高度栄養不良	34	自宅・施設退院	12	転 院	12
		死 亡	10	平均在院日数	63.5日

● ワーキンググループ活動

- ガイドライン : 経管栄養・嚥下・口腔ケア・静脈栄養について運用中

- 広報活動
 - ・NST通信、荘内病院ホームページ

- 教育活動（セミナー・学習会など）

院内学習会

- 2月6日 脳出血の栄養管理
- 5月25日 症例報告
- 6月29日 クロウン病について
- 7月20日 口腔ケア、補助食品について
- 9月22日 認知症者の食事介助
- 11月20日 静脈栄養について
- 12月14日 サルコペニアとフレイルについて

3. 入院棟栄養カンファレンス

入院患者に対する「NST管理システム」を電子カルテ上で入力し、入院棟における定期的な評価（栄養カンファレンス）を多職種で実施し適切な栄養管理に取り組んでいる。

4. 今後の課題

- 1) N S T 基準の栄養不良判定の作成と提示、抽出、フィードバック
- 2) 各部門・各職種の活動内容の評価・発表
- 3) コンサルテーション システムの確立
- 4) 口腔ケアの充実
- 5) リハビリテーション栄養への取り組み
- 6) 他チームとの連携と情報共有
- 7) 退院後の栄養管理継続のための地域連携
- 8) N S T スタッフ、職員の啓蒙とスタッフのレベルアップ

23. 緩和医療委員会の活動報告

1. メンバー紹介（14名）

医師 2 名、薬剤師 1 名、理学療法士 1 名、管理栄養士 1 名（がん病態栄養専門管理栄養士 1 名）

看護師 9 名（緩和ケア認定看護師 2 名、がん化学療法看護認定看護師 1 名、乳がん看護認定看護師 1 名）

2. 緩和医療委員会の活動内容

1) 患者・家族会：季節を感じ、気分転換を図ることで、闘病生活のなかでのモチベーションアップや前向きな気持ちにつながる機会をつくるために開催

4月15日 お花見会

8月19日 花火鑑賞会

12月15日 クリスマス会

2) グリーフカード：大切な方を亡くしたご家族のグリーフケアとして作成。7月、12月、3月に54名に発送。5名のご家族から手紙や電話で連絡があり、看護師の関わりに対する感謝の言葉などを頂いた。

3) 院内教育活動：緩和ケアステップアップ講座開催

昨年度までの入門講座からよりステップアップした内容を学んでいくために名称を変更し5回開催

- 平成29年5月18日 「オピオイドについて」 高橋直子
- 平成29年7月20日 「化学療法のケアについて」 佐々木孔美
- 平成29年11月16日 「がんのリハビリテーションについて」 小林 拓
- 平成29年12月21日 「看取りのケアについて」 阿部美知子
- 平成30年2月15日 「厚生労働省『人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン』をしていますか？」 和泉典子

4) その他

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会（PEACEプロジェクト）開催（1月8日、9日）



患者・家族会の様子



PEACE研修会の様子

3. 緩和ケア依頼件数

平成29年度の緩和ケア依頼人数は119件（図1）であった。診療科別依頼は外科36件、消化器内科21件、呼吸器内科19件の順に多く昨年と同様であった。神経内科、循環器科、ペインクリニックなど、非がん患者の依頼も増えており、特に循環器科は6件と、昨年の3倍に増えている。

依頼内容は総数383件だった。患者の精神的支援65件、家族ケア61件、痛み・しびれ50件、在宅療養調整・退院支援40件、精神症状37件の順に多く、患者・家族への精神的支援が幅広く望まれていることが分かった。今後、スタッフが精神的支援に関われるような教育体制を整えていく必要がある。

厚生労働省委託、人生の最終段階における医療体制整備事業「患者の意向を尊重した意思決定のための研修会（E-FILED）」に参加しており、今後アドバンス・ケア・プランニングにも積極的に取り組んでいきたい。

＜グラフ＞

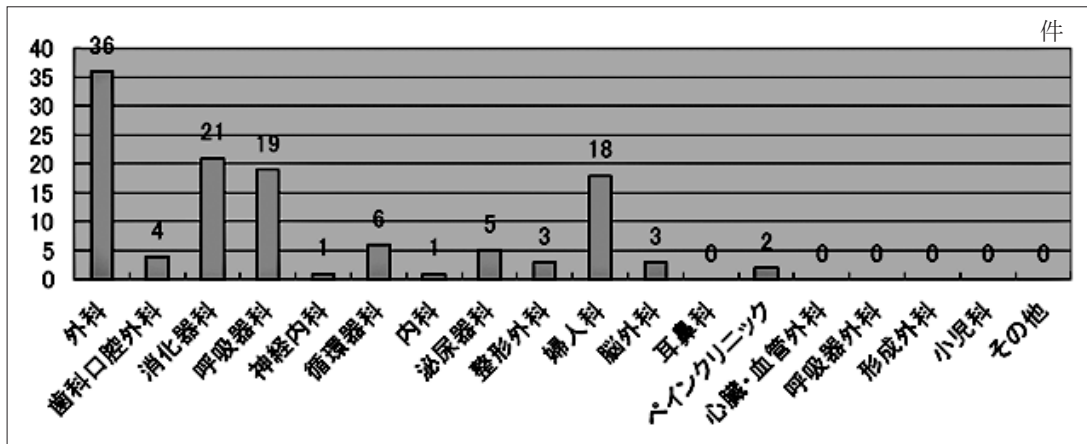


図1 診療科別依頼件数

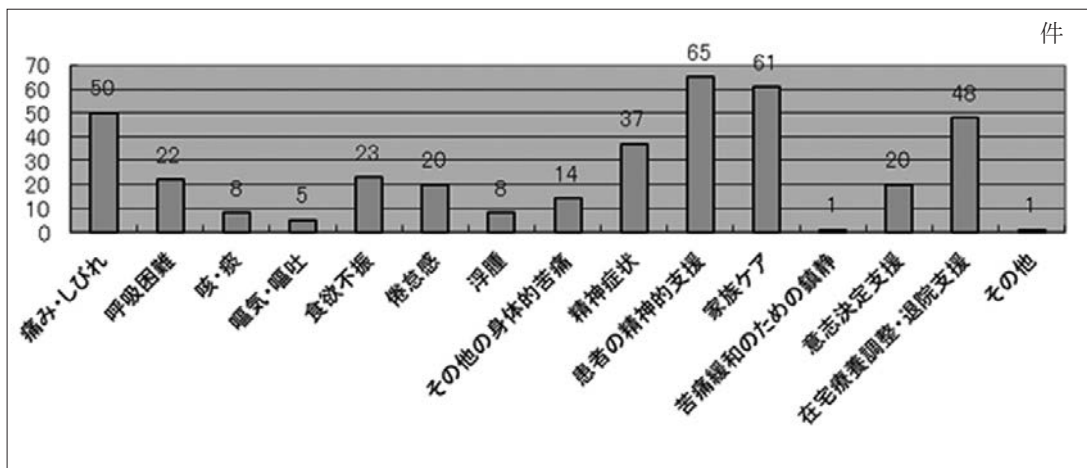


図2 PCT依頼内容（重複含む）

4. 講演会・研究会—発表、論文

- 鶴岡地区歯科医師会他科学習会 (平成29年2月23日 グランドエルサン)
「最期まで潤いのある生活をー当院の緩和ケアの実際ー」 上林沙希子
- 第一三共(株)AMP(area marketing promoter)研修会 (平成29年3月10日 東京)
「地域で支えるがん緩和ケア『庄内プロジェクト』の挑戦」 鈴木 聡
- 名古屋市立大学緩和ケア講演会 (平成29年4月21日 名古屋)
「地域で支えるがん緩和ケア『庄内プロジェクト』の挑戦」 鈴木 聡
- 南東北乳がん看護ネットワーク第8回看護セミナー 実践報告(平成29年5月27日 仙台)
「専門医不在でできる乳がん看護」 竹内梨沙
- 第22回 日本緩和医療学会学術大会 (平成29年6月23日 横浜)
「医師への緩和ケア教育法を考える～地域がん症例検討会『がんセンター鶴岡』の有用性について～」 鈴木 聡
「化学療法が奏功し、相対的オピオイド過量による悪心・嘔吐と徐脈をきたした2例」 和泉典子
- 病院勤務医と医師会会員との懇談会 話題提供 (平成29年7月27日 鶴岡)
「医師への緩和ケア教育法を考える～『がんセンター鶴岡』の有用性～」 鈴木 聡
- YBCラジオ ドクターアドバイスで今日も元気 (平成29年8月14日～18日)
「緩和ケアについて」 和泉典子
- 第41回 死の臨床研究会年次大会 (平成29年10月7日 秋田)
「家族と疎遠だった独居男性の終末期の意思決定が看取り間際に行われた1事例」 上林沙希子
- 平成29年度厚生労働省委託事業 人生の最終段階における医療体制整備事業(平成29年10月14日 福島)
「患者の意向を尊重した意思決定のための研修会(E-FIELD)
『意思決定プロセス・ガイドライン』人生の最終段階の意思決定に関する総論」 和泉典子
- 山形県看護研究学会 (平成29年11月9日 山形)
「緩和ケアチームのこれまでの活動と今後の課題～依頼内容の推移から～」 上林沙希子
- 第109回 いわき緩和医療研究会 (平成29年11月13日 いわき)
「がん緩和ケア『庄内プロジェクト』で地域はどのように変わったか」 鈴木 聡
- 第11回 緩和ケア市民公開講座 (平成29年11月25日 三川)
「緩和ケア『庄内プロジェクト』について」 鈴木 聡
- ELNEC-J ランチョンセミナー (平成29年12月3日 講堂)
「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドラインとその周辺について」
和泉典子
- 第一三共(株)庄内エリア担当者勉強会 (平成29年12月26日)
「つながりと支え合いから生まれた鶴岡地域の緩和ケア～庄内プロジェクト～」 和泉典子

5. 今後の課題

- 1) パンフレット・マニュアルの見直し
- 2) がん患者スクリーニングの実施

24. 褥瘡予防対策委員会の活動報告

1. メンバー紹介（平成29年4月現在）

褥瘡対策委員会

石原 良（委員長：医師） 梅本貴子（副委員長：皮膚・排泄ケア認定看護師） 佐藤和彦（医師）
 小池千里（医師） 菅原 稔（医事） 百瀬 幸（看護師） 成澤恵美（看護師） 佐藤 南（看護師）
 阿部由香（看護師） 五十嵐可奈子（看護師） 三浦 嘉（看護師） 五十嵐昌美（薬剤師）
 荒井真智子（薬剤師） 佐藤田鶴（管理栄養士） 大場宏太（理学療法士） 五十嵐雅也（総務）
 事務局：佐藤美津子

褥瘡予防対策リンクナース

遠藤由紀 阿部暁子 松本美香 石川沙織 豊田みゆき 林 理絵 伊藤和香 菅原由佳
 川村奈美子 小野寺杏奈 今野優喜 菅原美奈子 佐藤伸子

2. 褥瘡予防対策委員会の組織

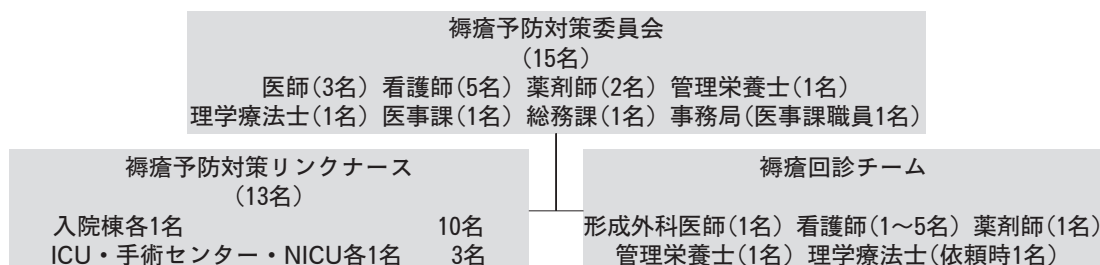


図1 組織図

本委員会は、迅速な褥瘡予防対策・強化を図ると共に、適切な褥瘡ケアを提供し早期改善・早期治癒・在宅を視野においた連携強化を目標に活動している。リンクナースを委員会の下部組織として、褥瘡リスクアセスメントをはじめとし、体圧分散寝具の選択、ケアマニュアルの評価、現場スタッフ教育を行い、褥瘡回診チームはベッドサイドでの総合的なケアを実践し活動している。

3. 褥瘡委員会の活動

- 褥瘡予防対策委員会
 - ・年6回 委員会開催
 - ・年2回 褥瘡研修会
 - ・年1回 褥瘡市民公開講座開催
 - ・年5回 「WCT Times」の発行
 - ・月1回 褥瘡予防・スキンケアアラウンド
- 褥瘡回診チーム
 - ・週1回 褥瘡回診・カンファレンス

- 褥瘡予防対策リンクナース
 - ・ 月1回 会議
 - ・ 月1回 褥瘡予防・スキンケアラウンド
 - ・ 褥瘡回診同行
 - ・ 各入院棟専任褥瘡管理者
- その他
 - ・ 体圧分散寝具、ポジショニングクッション検討・導入

市民公開講座の開催で予防対策を市民へ広く情報提供、および、知識の普及を図っている。院内では、褥瘡管理システムが運用され定期的な評価を行うことでスタッフのアセスメント力が向上し、スタッフの褥瘡予防に対する意識を高めることにつながっている。同時にエアマットが適正使用できるよう電子カルテ上で管理・運用を開始しタイムリーな導入および適正使用を図っている。月1回の定期的なラウンドでは、効果的なポジショニングの検討・予防的スキンケア徹底に向けての指導を強化している。

4. 褥瘡研修会の開催

期 日	内 容	参 加
平成29年6月27日（火） 18：00～19：00	「予防的スキンケアの実践」 鶴岡市立荘内病院 褥瘡予防対策チーム メンバー	院内 61名 院外 20名 計 81名 参加
平成30年2月27日（火） 18：00～19：00	MDRPU 医療機器関連圧迫創の予防と実践	院内 81名 院外 5名 計 86名 参加

5. 院外発表

- ・ 「医療用弾性ストッキングによるMDRPUの発生状況」 佐藤南
第19回日本褥瘡学会学術集会 平成29年9月14日～15日（盛岡）

6. 平成29年度褥瘡に関するデータ報告と分析

- ・ 褥瘡有病率：4.14%（前年度4.56%）
（日本褥瘡学会2010年調査：2.94%）
 - ・ 褥瘡推定発生率：1.24%（前年度1.27%）
（日本褥瘡学会2010年調査：1.40%）
 - ・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定件数：918件（前年度784件）
- ※有病率（%）＝褥瘡保有者/調査日の入院患者数（24時時点+退院患者）×100
発生率（%）＝入院後褥瘡発生患者数/調査日の入院患者数（24時時点+退院患者）×100

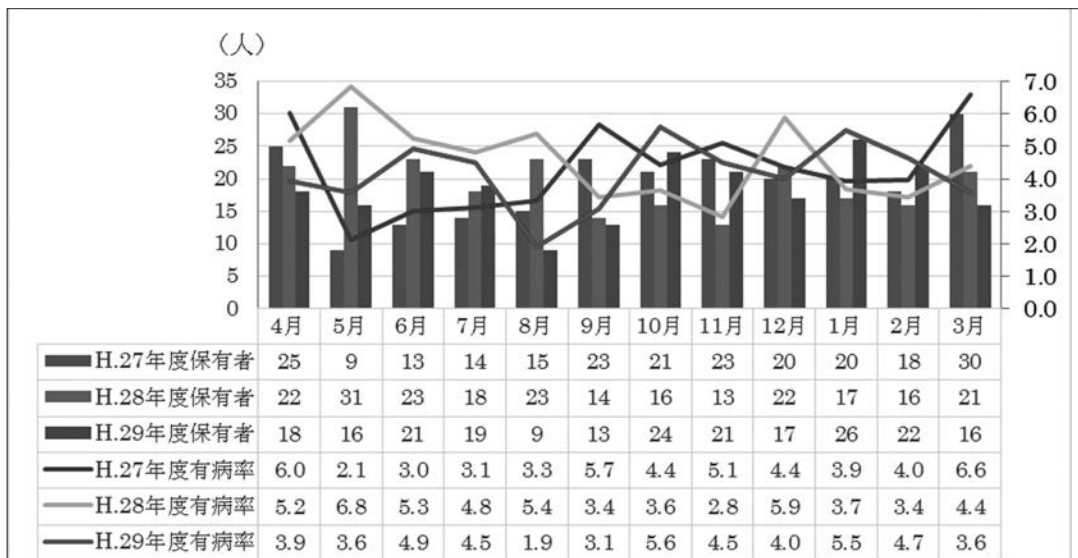


図2 褥瘡保有者数と褥瘡有病率

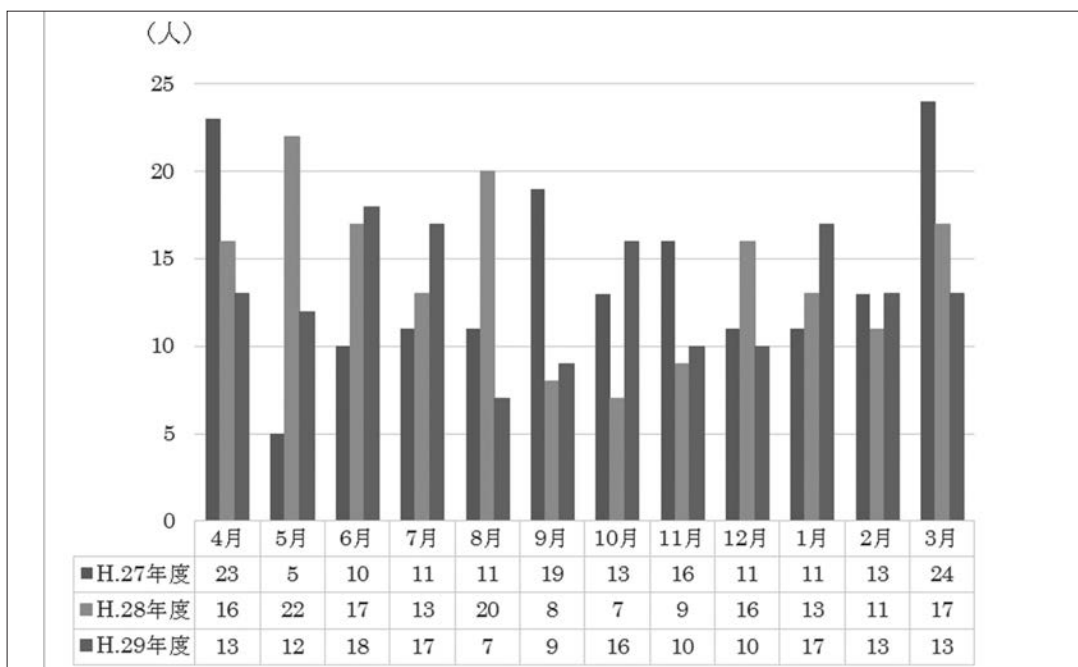


図3 入院後褥瘡既存患者数

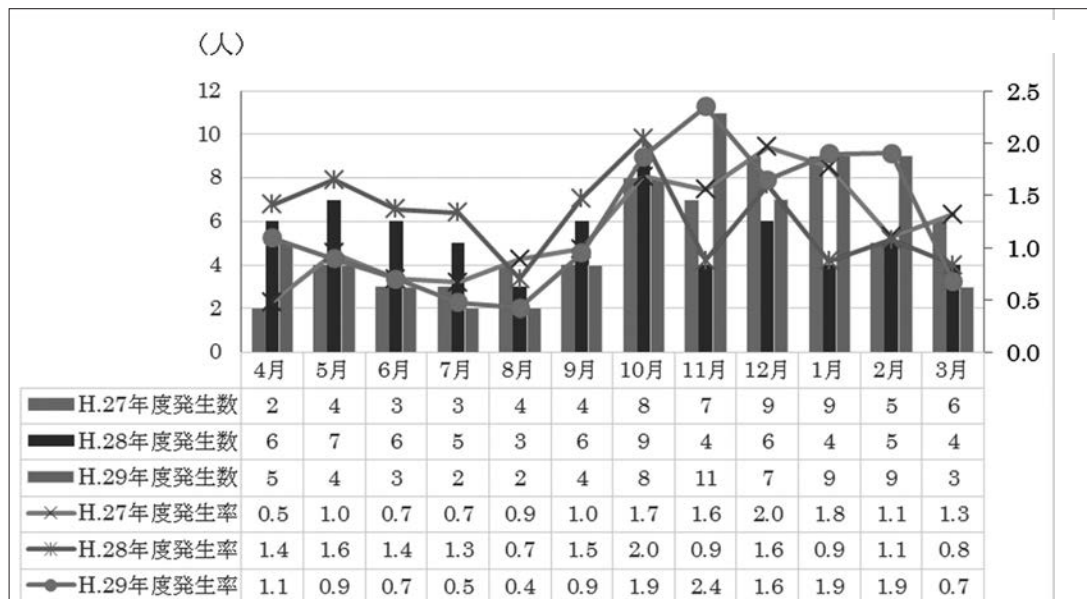


図4 入院後褥瘡発生患者数と褥瘡発生率グラフ

前年度比で、有病率は、4.56%から4.14%へ減少し、入院後発生率は、1.24%（前年度1.27%）と当院の指標である1.77%を上回る状況であった。背景には、入院患者の高齢化や疾病構造の変化など考えられる。患者の変化に対応するべくポジショニングに関する物品や体圧分散寝具の増台を図り、入院時からの早期の予防対策の強化に努めている。

在宅においては、情報提供、知識の普及の機会を通し、市民の褥瘡予防に対する意識の向上に努めている。今後も多職種との連携を深め褥瘡予防対策の構築を目指していきたい。

7. 今後の課題

1. 体圧分散寝具・高機能エアマットの効果的な運用と適正配置
2. ポジショニングクッションの充実と適正使用
3. 地域連携強化に向けた退院前カンファレンスの定着
4. 在宅につながる情報の共有化
5. スキンケアの標準化

25. ICT（感染対策チーム：Infection Control Team）活動報告

1. メンバー紹介

● ICT

鈴木 聡（感染制御ドクター） 菊池 元（感染制御ドクター） 中林大器（小児科医師）
若松由紀子・栗田 香（感染管理認定看護師）大島幸子・庄司敦子・本間春圭・上林春佳・（看護師）
田中大輔・草島宏平（薬剤師） 中嶋知子・秋葉彩楓（検査技師） 佐藤諒平（作業療法士）

● リンクナース

清水里美、佐藤佳織、金内し乃、井上悠、渋谷由美、田中亚美、若生千尋、難波佳那、千葉知恵美、
井上京子、川口奈々、水上由美子、栗本こすも、吉田里枝、五十嵐芽美、齋藤千夏

2. 院内活動

● 定例会議

- ・ICT会議：毎月1回開催（第2木曜日）
- ・リンクナース会議：毎月1回（第4水曜日）

● ICTラウンド

- ・血液培養陽性患者カンファレンス・ラウンド（毎水曜日）
- ・環境ラウンド：入院棟・集中ケア部門・中央部門・外来・委託業者・コメディカル部門（毎水曜日）
- ・SSIラウンド：整形人工関節手術（毎火曜日）整形脊椎手術（毎水曜日）外科（毎金曜日）
- ・経路別対策遵守状況確認ラウンド（週1回・随時）

● 研修会の開催

- 1) テーマ：「麻しん（はしか）について」 684名（6/16、6/27）
講師：吉田宏（医師）五十嵐芽美・齋藤智（看護師）若松由紀子（感染管理認定看護師）
- 2) テーマ：「感染性胃腸炎からみんなを守ろう」 687名（1/26、2/5）
講師：中林大器（医師） 佐藤田鶴（管理栄養士） 上林春佳（看護師）

● 感染症対策の見直し・導入

- 1) アミノ酸輸液製剤「ビーフリード」の取り扱い変更（4月）
- 2) カテーテル関連尿路感染サーベイランス開始（5月：6西・7西）
- 3) インフルエンザ持込み防止強化（入院時感染症チェック、各階へウェルフォーム設置）
- 4) ウェルフォーム携帯180ml導入（2月）

● 広報活動

- ・ICTニュース（No.37～40）
- ・インフルエンザ情報誌（No.41～46）

● 施設間連携

- ・相互ラウンド：年2回（日本海総合病院、新庄病院）
- ・合同カンファレンス：年4回（こころの医療センター、庄内余目病院、協立病院、その他）
ミニレクチャー「手指衛生と個人防護具着脱のタイミング」
ミニレクチャー「インフルエンザと感染性胃腸炎への対応」

3. 院外活動

1) 学会・研究会等発表

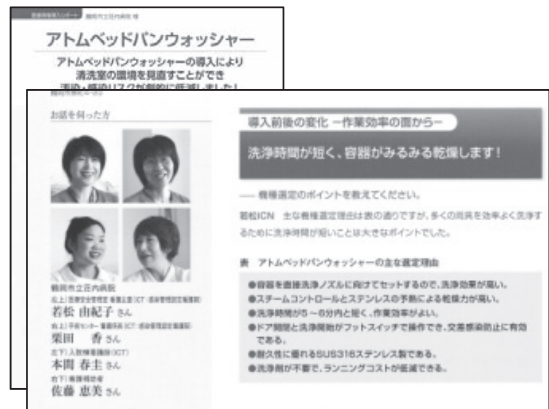
- ・第6回 日本感染管理ネットワーク学術集会 (2017.5.20)
一般口演 「清掃担当者と協働で取り組んだ針刺し・切創事故防止活動の効果」 若松由紀子
- ・第14回 日本医療マネジメント学会山形県支部学術集会 (2017.7.15)
一般口演 「タイミングのよい手指衛生に向けた取り組み」 栗田香
- ・第9回 J感染制御ネットワークフォーラム (2017.8.26)
シンポジスト「当院における麻しん対応の実際 ―工夫したこと、難しかったこと―」若松由紀子

2) 講演

- ・かみじ荘 感染対策研修会 (2017.07.05)
「手洗いの必要性について」 若松・栗田
- ・永寿荘 感染対策研修会 (2017.10.3、24)
「標準予防策」 栗田

3) その他

- ・アトムベットパンウォッシャーの広報誌へ
当院の紹介記事が掲載



4. 活動のトピックス

●地域感染対策ネットワーク設立について

麻しんなどの集団感染、毎年流行するインフルエンザや胃腸炎、MRSAなどの薬剤耐性菌発生時の対応など、病原微生物への感染管理は、地域全体で情報の共有化を図りつつ、連携して対応していくことが重要である。そこで、感染症や感染対策に関する情報共有および相互連携を円滑かつ確実にを行うことで、地域の感染対策を有効なものにすることを目的として、鶴岡市・庄内町・三川町（以下、地域）の医療機関および社会福祉施設等における「地域感染対策ネットワーク」を設立した。当院は、「地域全体での情報共有と教育」「感染対策の連携・協力・実践」「相談および支援」等の活動の中心的役割を担っていく必要がある。

●NICU・GCUにおけるMRSAアウトブレイク

これまで、NICU・GCUにおけるMRSA新規発生数は、年間0～1例の発生であった。しかし、5月、8月、10月に1件ずつ、11月には3件発生したためアウトブレイクと判断して介入した。環境培養結果はすべて陰性で感染経路の特定には至らなかったが、ICTラウンドや部署とのカンファレンスを繰り返し、感染対策上の課題を抽出した。特に医療ゾーンと患者ゾーンの意識には個人差があったため、手指衛生・个人防护具着脱のタイミングに加え、記録用紙や母乳などの物品管理に対する共通認識を図った。また、スタッフのユニフォーム交換の頻度やタイミング、他科医師や他職種への指導についても強化した。改善活動により3月になってようやく終息することができた。NICU・GCUに入院している患児は、皮膚が脆弱であり、免疫機構が未熟であるため、易感染状態にある。今回の事例を教訓とし今後も嚴重な感染管理を継続していかなければならない。

26. 呼吸サポートチーム（RST）活動報告

1. メンバー紹介

- RST

正岡俊明（呼吸器外科） 岸 正人（麻酔科） 渡部直人（麻酔科） 菊池 元（麻酔科）
 長谷川幸人（臨床工学技士） 齋藤加恵（理学療法士） 佐太木淳一（理学療法士）
 田中大輔（薬剤師） 三浦良哉（集中治療センター看護師） 佐藤慎吾（集中治療センター看護師）
 薄葉由里子（集中治療センター看護師）

- RSTリンクスタッフ

齋藤さち（GCU） 岩浪英里（4階西） 神尾季代子（4階東） 齋藤多恵（5階西）
 進藤ちさと（5階東） 菊池 彩（6階西） 伊藤妃菜（6階東） 千葉千恵美（7階西）
 富樫 京（7階東） 佐藤佳奈（8階西） 大滝まり子（8階東）

2. RST介入依頼件数および人工呼吸器患者の動向

当院における、2017年1月から12月までの人工呼吸器装着患者は175名で、人工呼吸器使用期間は1日から装着中の患者を含め最長348日で平均は9.7日、中央値3日でした。人工呼吸器患者の入院期間は死亡退院を含める1日から現在入院中の患者を含め最長365日で平均45日、中央値31日でした。2016年との比較では、人工呼吸器装着患者数は145名であり増加傾向にあります。人工呼吸器装着平均日数は9.8日から9.7日とほぼ同数、入院日数平均値は42.1から45日と増加、入院日数中央値は30日から31日であり、平均値としてはほぼ変化はありませんでした。（図1）。

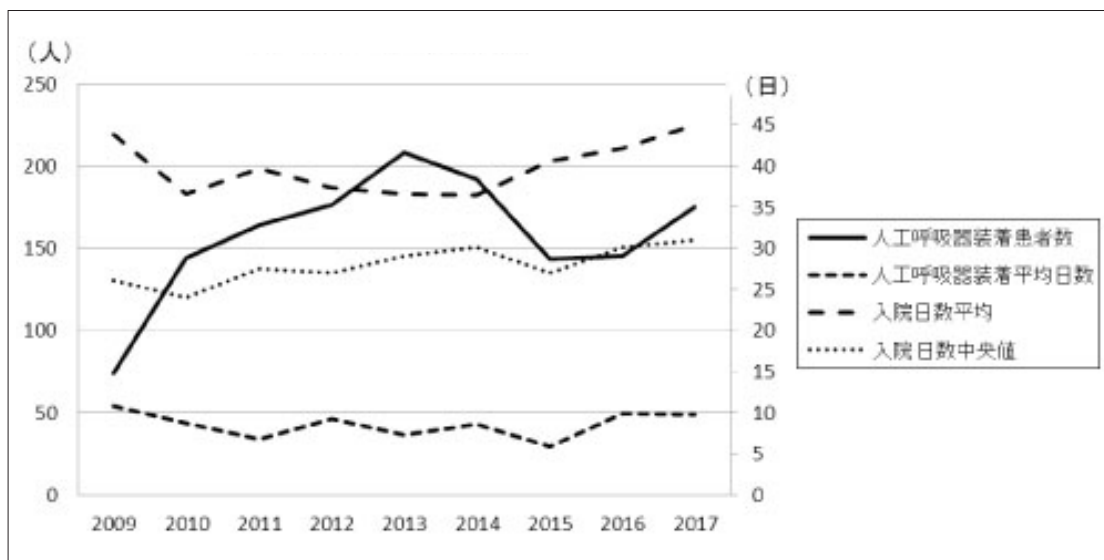


図1 人工呼吸器患者の動向

人工呼吸器使用状況は、循環不全が37%で、緊急術後症例が25%、次いで呼吸不全が15%でした（図2）。2017年度は循環不全が緊急術後症例を上回っていますが、概ね過去5年間と変わらず、緊急術後症例と循環不全（心停止含む）の人工呼吸器使用が多い傾向となっています。

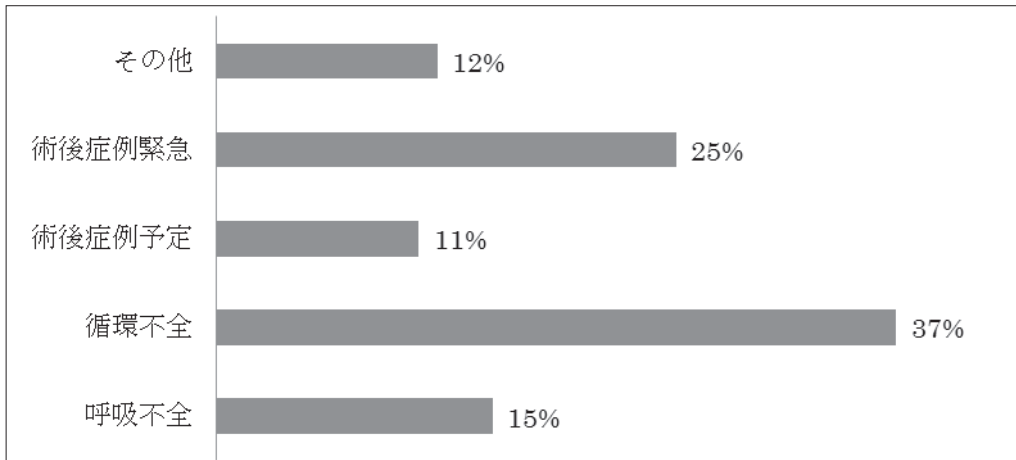


図2 人工呼吸器使用状況

科別人工呼吸器使用状況では例年通り循環器科・脳外科の使用が多く、ついで外科の使用が多い傾向でした（図3）。

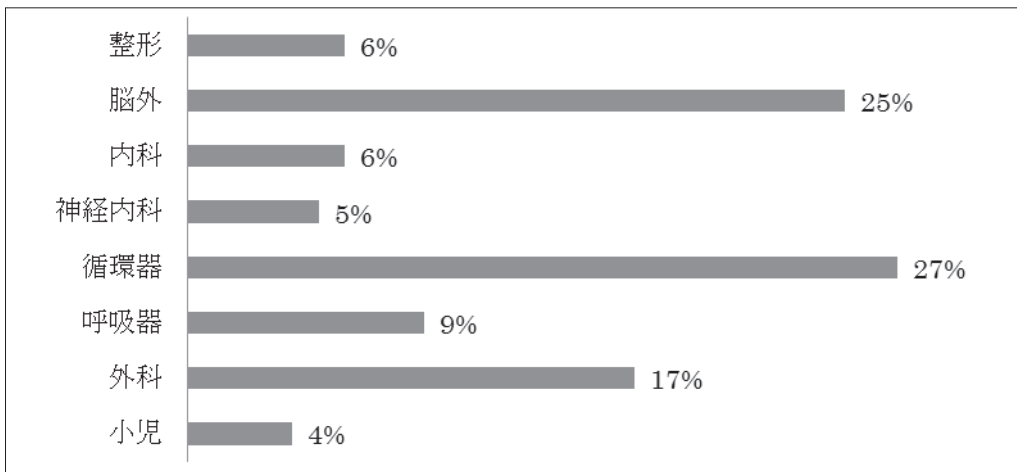


図3 科別人工呼吸器使用状況

脳神経外科ではICD・SDH・SAHによる開頭術（coil含む）の緊急症例が76%、外科では消化管腫瘍開腹術が25%、消化管穿孔・閉塞の疾患が22%、呼吸器科では呼吸不全における症例が75%でした。循環器科ではうっ血性心不全が59%、心停止後が8%でした。内科においては、心停止後の割合が71%と多く。整形外科は術後症例が50%でした。また、2017年の人工呼吸器装着患者の死亡者数は35名で昨年より3名減少しており、循環不全が原因の多くを占めていました（図4）。死亡率に占める割合の38%が蘇生に成功した心停止でした。残りの死因として呼吸器系疾患が17%、脳外科系疾患が5%、その他（敗血症やショックなど）が11%でした。

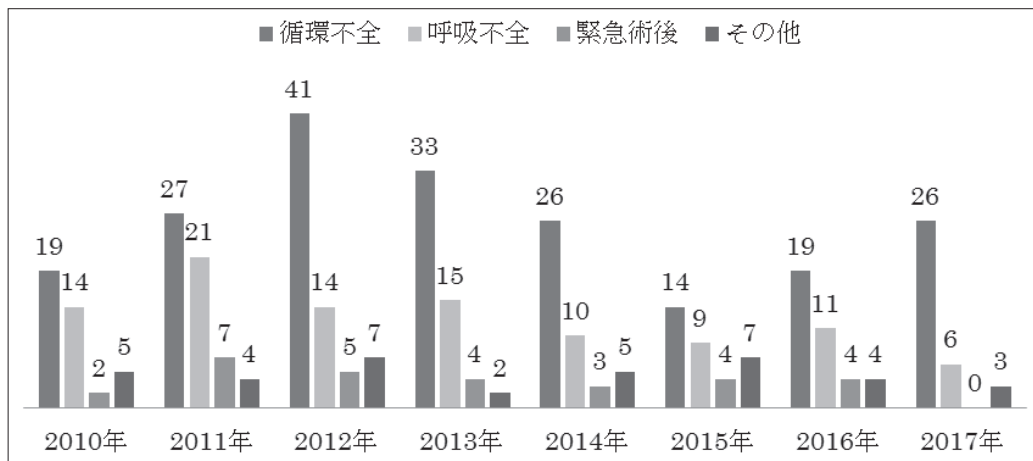


図4 年別死亡原因

RST介入率（図5）は、全体の呼吸器使用患者の66%と昨年と同等でした。非介入例の内訳として、介入前や土日の早期抜管が多かったこと、早期の死亡退院が大半をしめており、非介入としては例年通りの結果と考えます。また、介入期間は1日から最大91日間と長く介入していた患者もいますが平均で6.9日、中央値で2日でした。人工呼吸器離脱率（図6）は2009年からの9年間のデータでは6割から7割後半程度で推移しており、大きな変化はありません。離脱できなかった患者の大半は死亡退院しており、その内訳の40%は蘇生に成功した心停止による死亡退院でした。

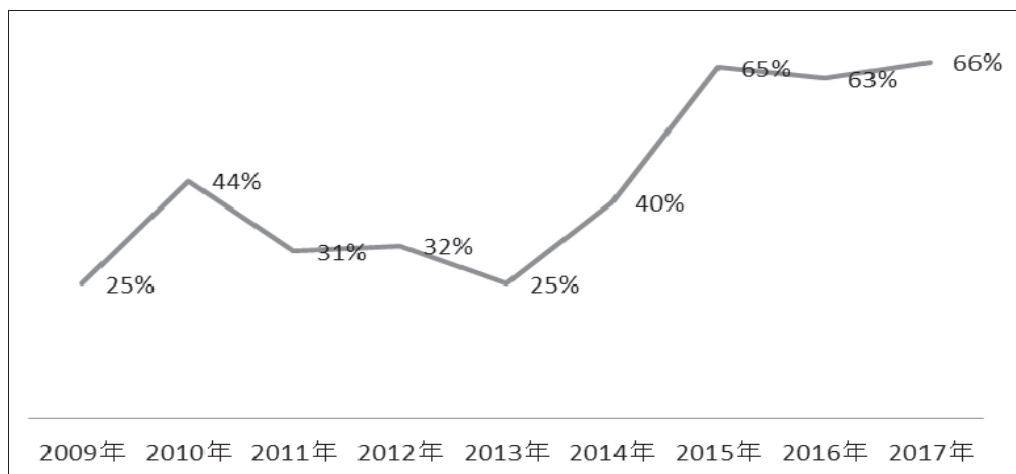


図5 RST介入率

3. RST委員会活動内容

①人工呼吸器装着患者ラウンド

主に集中治療センターにおいて、人工呼吸器装着患者のうち介入依頼のあった症例に対し介入し、人工呼吸器管理から離脱までを主治医とともに管理している。症例により気管切開が必要な場合は、集中治療センターもしくは手術室での気管切開術も施行し、合わせて管理している。

②緊急換気困難症例への対応手順の改訂

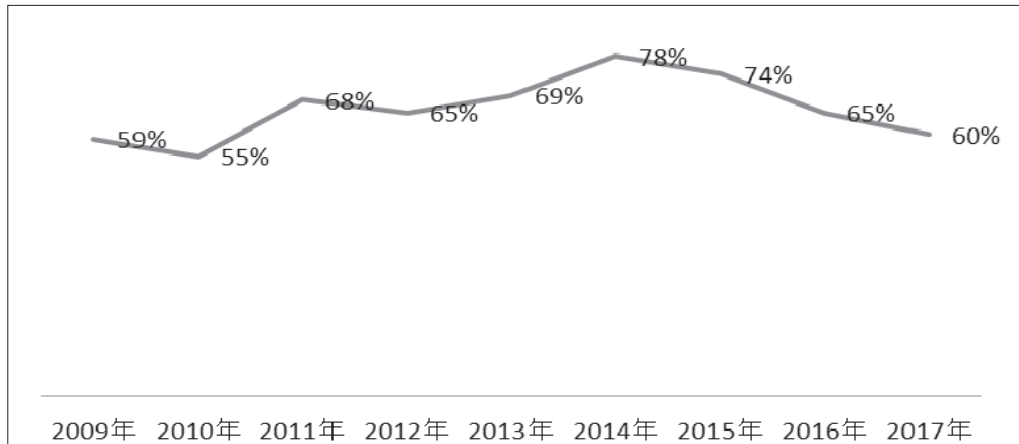


図6 人工呼吸器介入率

③腹臥位療法マニュアル作成

腹臥位マニュアルを作成し運用した。マニュアルを使用し腹臥位を実施したのは1例であった。重症例であったが明らかに酸素化の改善がみられ、呼吸器合併症なく早期抜管につながった。

今後も呼吸器合併症の予防や予後の改善に向け、腹臥位マニュアルの運用を継続しサポートしていく。

4. RSTリンクスタッフ活動報告

① RSTリンクナースによる入院棟ラウンド

リンクナース会議の一環として、人工呼吸器装着中患者および、酸素療法や呼吸療法が必要な患者のラウンドを実施し、管理方法やケアについて共有することで、リンクナースの自部署における役割の明確化と知識の確立を図った。

② 自部署における呼吸ケアに関する問題解決に向けた取り組み

呼吸療法関連の問題点を抽出（現状把握）し各部署で問題解決・改善に向けての活動を実践した。また、それらの内容を共有することで、呼吸ケアにおける意識の向上につなげた。

5. 講演会

テーマ：「酸素療法について」

講師：山形大学医学部附属病院 集中治療センター助教 小野寺 悠先生

講演日：2018年2月16日（金）18：00～19：30

参加人数：77名（看護部63名、診療部14名）

学習会

テーマ：「人工呼吸器～体験型～」

2017年6月14日（水）17：30～18：30

テーマ：「人工呼吸器の管理と操作（NPPVについて）」

2017年11月24日（金）17：30～18：30

参加人数：45名

6. 3学会合同呼吸療法認定士

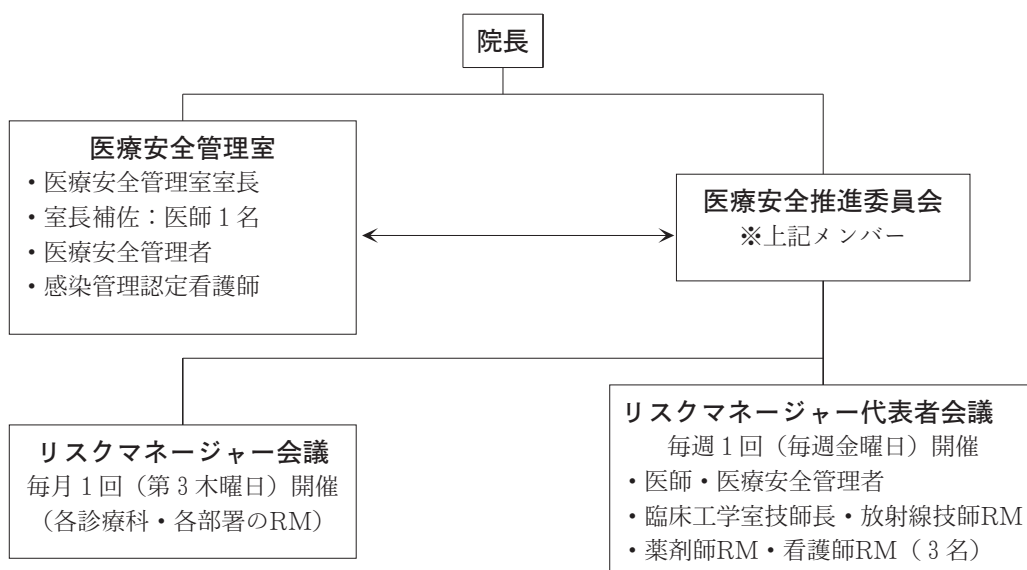
平成29年 第21回呼吸療法認定士取得 佐太木淳一（理学療法士）

27. 医療安全推進委員会活動報告

1. 医療安全推進委員会 委員紹介

小島研司（医師・医療安全管理室室長） 大滝雅博（医師・医療安全管理室室長補佐）
 牧 順（看護師・医療安全管理者） 岸 正人（医師） 武石越郎（歯科医師） 庄司知摩（薬剤師）
 和嶋 淳（検査技師） 諏訪晋一（病理技師） 富樫博子（栄養専門員） 落合一美（放射線技師）
 本間 司（リハビリテーション技師） 石川陽一（臨床工学技師）
 佐藤喜恵・富樫恭子・小野寺紀子・金子弘美（看護師） 今野一夫（総務） 菅原 稔（医事課）
 齋藤良徳（事務局）

○医療安全管理組織図



〈本委員会設置目的〉

当院における医療安全管理対策を総合的に企画、実施

2. 活動内容

- ・定例委員会 毎月 1 回 開催（第 2 火曜日）

○研修会の開催

【全職員必須研修】

- ・「訴訟対策としての診療録の作成～医療紛争における証拠の重要性～」692名（2017.06.23）
講師：岡田隆志（当院顧問弁護士）
- ・「やってみよう！KYT」 講師：武石越郎（当院歯科医師）157名（2017.09.16）
- ・「心電図の基礎と心電図モニタ」 講師：相馬健（日本光電・安全管理部）135名（2017.11.16）

- ・「事例から学ぶ最近の医薬品医療過誤（医薬品安全管理研修）」
- ・「医療安全の基礎と法律」

595名（2017.2.22）

○院内パトロール（7月・11月）

○看護部RMによる活動

- ・安全ラウンド（毎月第3水曜日、8回/年）
- ・ワーキンググループ活動（誤薬防止WG・転倒転落防止WG・患者誤認防止WG）

○広報活動

- ・月報
- ・医療安全管理室情報（7回/年発行）
- ・医療安全管理室ニュース（2回/年発行）

○医療安全マニュアル新規作成・改訂

- ・指示だし・指示受け・実施マニュアル（新規作成）
- ・食物アレルギー情報の共有と対応フロー（新規作成）
- ・医療安全要項・組織図（改訂）
- ・与薬カートの管理（改訂）

○院外発表

- ・医療マネジメント学会 山形県支部学術集会（2017.7.15 鶴岡）
「果物アレルギーのある患者にラテックス製品を使用した事例からの取り組み」
齋藤由美・山口朱美・牧順
- ・庄内足とキズを考える会（2017.8.9 鶴岡）
「転倒事例から考えるフットケアの意義」 牧 順

3. 活動の評価

- ・医師の医療安全報告に関する意識を高める取り組みとして、手術センター協力のもと、今年度より「タイムアウト・オカレンス報告（全身麻酔予定手術患者対象）」を開始した。これにより全職種における医師の報告割合が26.7%と増加した。
- ・医療安全報告数が前年度より減少傾向にあり、特に事象レベル0報告が昨年度より減少した。またレベル3b（アクシデントレベル）以上の発生割合は1.1%（指標0.8%以下）であり、昨年度と比較しやや減少した。内容分類別においては、与薬に関する患者誤認発生が多く、前年度の2倍の報告であり、患者確認の基本について強化し、取り組んだ。
- ・今年度より発生事例の多い「薬剤」「転倒転落」「患者誤認」という3テーマについて、看護部リスクマネージャー中心に定期ラウンドを開始した。看護業務のリスクに特化した視点で実施することができた。これに加え安全管理者による定期的なラウンドも開始した。
- ・3b事例においては、医療安全管理者が介入し、現場安全管理者と共にカンファレンスを実施し、改善策に繋げることができた。

4. 課題

- ・ 事象レベル0 報告を中心とした医療安全活動への意識向上
- ・ 医師報告を含めた、看護部以外の職種からの報告数増に向けた取り組み
- ・ 対策評価の仕組み構築

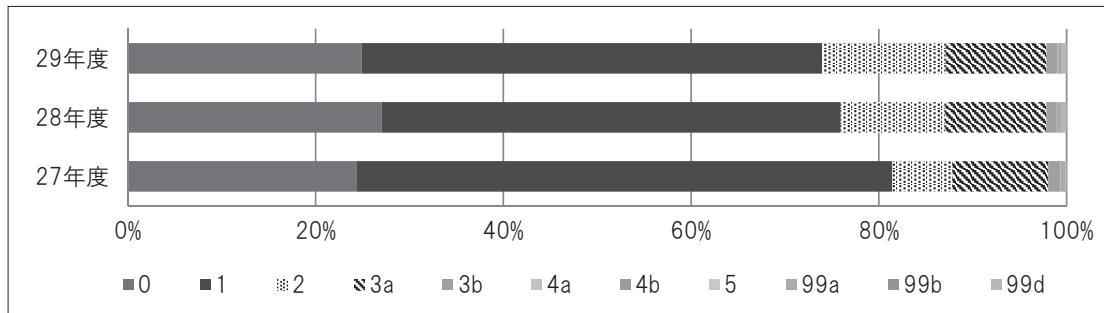


図1 事象レベル別報告数年度毎の比較

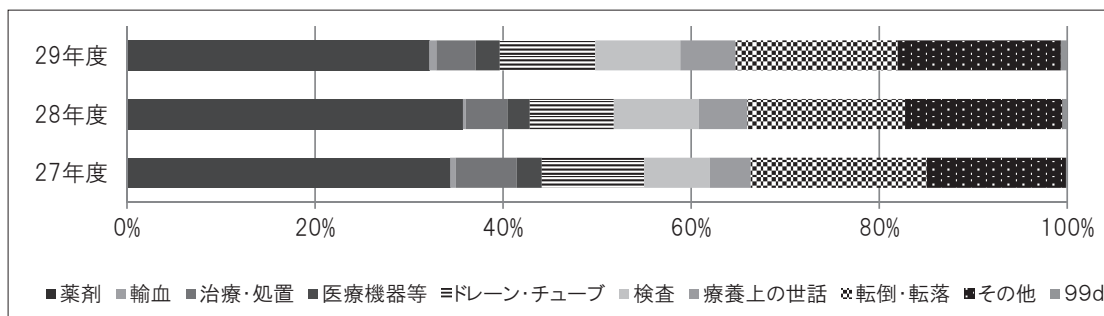


図2 分類別報告数年度毎の比較

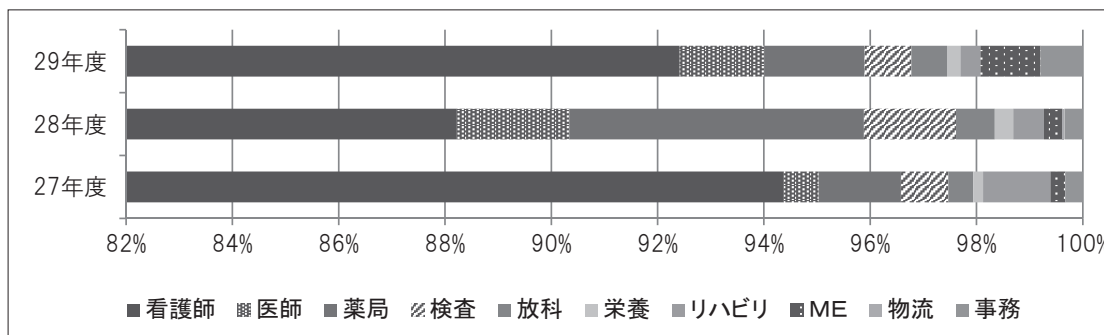


図3 職種別報告数年度毎の比較（※オカレンス報告含まず）

VI 2017年 荘内病院におけるがん登録の現況報告

当院は、平成22年10月に山形県がん診療連携指定病院に指定され、平成23年から山形県がん診療連携協議会がん登録部会に参加し、平成25年以後院内がん登録を国に報告している。平成26年は、山形県のがん登録は9,698件、当院の登録は848件で、山形県のがん症例の8.7%が当院から登録されていた。

2017年の当院におけるがん登録の現況を報告する。登録患者786件で前年比108%であった。

来院経路は約69%が紹介（他院／がん検診／健康診断）であった。発見経路は、自覚症状で受診して診断されたものが46%、他疾患経過観察中が30%、ドック・健診が23%であった。がん検診、人間ドック、健康診断による発見が、国立がんセンター発表の全国平均が20%以下に対し当院は23%とやや多い。また、当院で登録されたがん患者の約88%は当院で治療を行った。

来院経路別

(全症例)

来院経路	28年症例件数/(割合)
自主受診	102 (14.0%)
他施設紹介	485 (66.7%)
他疾患経過観察中	113 (15.5%)
その他	27 (3.7%)
不明	0 (0.0%)
合計	727 (100.0%)

来院経路	29年症例件数/(割合)
自主受診	110 (14.0%)
他施設紹介	545 (69.3%)
他疾患経過観察中	99 (12.6%)
その他	32 (4.1%)
不明	0 (0.0%)
合計	786 (100.0%)

発見経緯別

(全症例)

発見経緯	28年症例件数/(割合)
がん検診・検診等	180 (24.8%)
他疾患経過観察中	198 (27.2%)
剖検発見	0 (0.0%)
その他	339 (46.6%)
不明	10 (1.4%)
合計	727 (100.0%)

発見経緯	29年症例件数/(割合)
がん検診・検診等	184 (23.4%)
他疾患経過観察中	233 (29.6%)
剖検発見	0 (0.0%)
その他	360 (45.8%)
不明	9 (1.1%)
合計	786 (100.0%)

症例区分別

(全症例)

症例区分	28年症例件数/(割合)
診断のみ	66 (9.1%)
自施設診断・自施設治療開始	493 (67.8%)
自施設診断・自施設治療継続	0 (0.0%)
他施設診断・自施設治療開始	110 (15.1%)
他施設診断・自施設治療継続	10 (1.4%)
初回治療終了後	26 (3.6%)
その他	22 (3.0%)
合計	727 (100.0%)

症例区分	29年症例件数/(割合)
診断のみ	84 (10.7%)
自施設診断・自施設治療開始	530 (67.4%)
自施設診断・自施設治療継続	0 (0.0%)
他施設診断・自施設治療開始	123 (15.6%)
他施設診断・自施設治療継続	9 (1.1%)
初回治療終了後	29 (3.7%)
その他	11 (1.4%)
合計	786 (100.0%)

地域がん登録届出件数

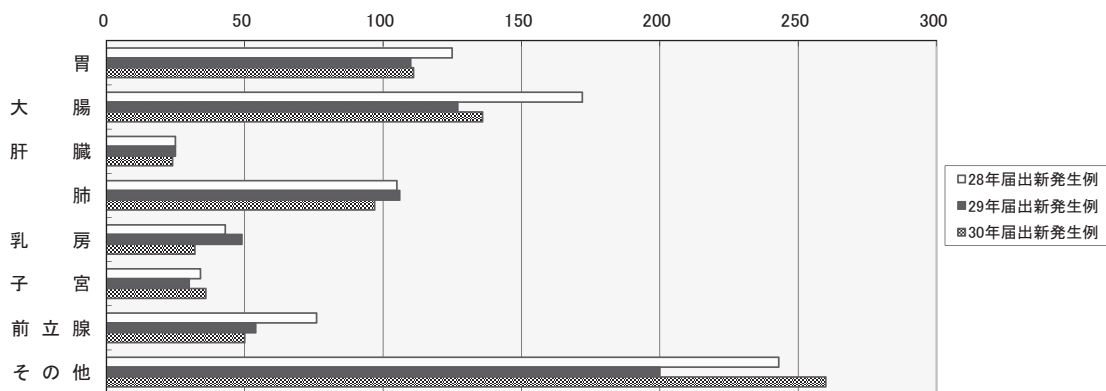
(全症例)

性別	28年届出	29年届出	30年届出
男	477	412	479
女	371	315	307
総数	848	727	786

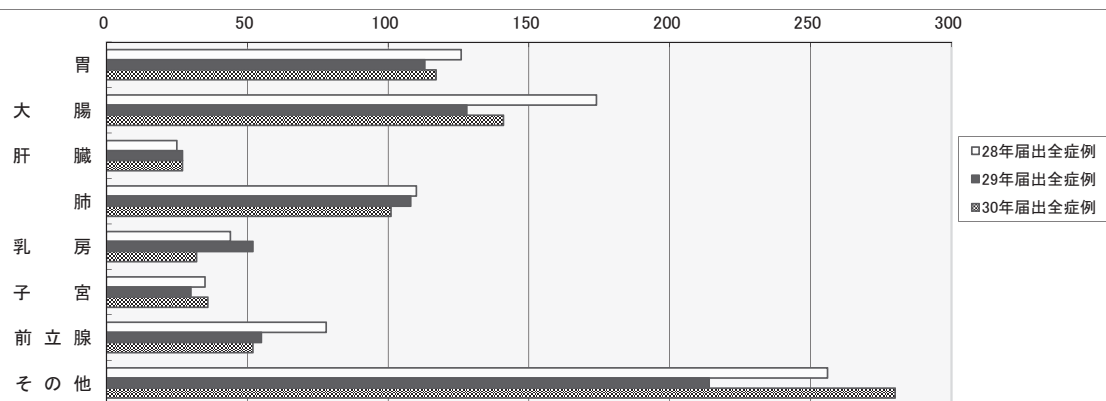
部位別届出件数

部位	28年届出新発症例	28年届出全症例	29年届出新発症例	29年届出全症例	30年届出新発症例	30年届出全症例
胃	125	126	110	113	111	117
大腸	172	174	127	128	136	141
肝臓	25	25	25	27	24	27
肺	105	110	106	108	97	101
乳房	43	44	49	52	32	32
子宮	34	35	30	30	36	36
前立腺	76	78	54	55	50	52
その他	243	256	200	214	260	280
総数	823	848	701	727	746	786

がん部位別新発症例届出件数



がん部位別全症例届出件数



性別別届出患者数

(全症例)

部 位	平成28年届出			平成29年届出			平成30年届出		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
C02-04 口唇・口腔	1	1	2	3	3	6	3	6	9
C07-08 大唾液腺	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C06-14 咽頭	1	0	1	0	0	0	3	1	4
C15 食道	16	2	18	7	4	11	24	2	26
C16 胃	81	45	126	72	41	113	82	35	117
C17 小腸	0	1	1	0	1	1	4	1	5
C18-19 結腸	62	74	136	58	35	93	64	57	121
C20 直腸	22	16	38	20	15	35	12	8	20
C21 肛門管	0	1	1	0	0	0	0	0	0
C22 肝・肝内胆管	13	12	25	16	11	27	21	6	27
C23 胆のう	6	5	11	3	7	10	5	5	10
C24 胆管	9	7	16	14	12	26	20	6	26
C25 膵臓	26	19	45	18	21	39	26	17	43
C30-31 鼻腔・副鼻腔	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C32 喉頭	1	0	1	2	0	2	1	0	1
C34 肺	73	37	110	75	33	108	78	23	101
C37 胸腺	1	0	1	1	1	2	0	0	0
C38・47-49 軟部組織	1	2	3	3	2	5	1	4	5
C40-41 骨	0	0	0	1	0	1	2	0	2
C42 造血系	15	9	24	10	8	18	14	6	20
C44 皮膚	7	11	18	4	5	9	3	7	10
C50 乳房	1	43	44	0	52	52	0	32	32
C51 外陰	/	1	1	/	0	0	/	1	1
C52 膣	/	0	0	/	0	0	/	0	0
C53 子宮頸部	/	27	27	/	18	18	/	29	29
C54 子宮内膜	/	8	8	/	12	12	/	7	7
C56 卵巣	/	11	11	/	2	2	/	11	11
C57 卵管	/	0	0	/	1	1	/	0	0
C60 陰茎	0	/	0	0	/	0	0	/	0
C61 前立腺	78	/	78	55	/	55	52	/	52
C62 精巣	1	/	1	1	/	1	0	/	0
C64-66 腎・尿路（膀胱を除く）	19	7	26	11	6	17	9	6	15
C67 膀胱	19	8	27	21	5	26	32	10	42
C70 髄膜	3	3	6	1	4	5	0	2	2
C71 脳	3	4	7	3	3	6	5	3	8
C72 脳神経系	2	1	3	1	1	2	0	0	0
C73-75 甲状腺・その他の内分泌腺	5	5	10	3	9	12	1	7	8
C77 リンパ節	9	7	16	5	2	7	13	9	22
C80 原発不明癌	2	4	6	4	1	5	4	6	10
合 計	477	371	848	412	315	727	479	307	786

10歳年齢階級別登録数

(新発症例)

部 位	0-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-	合 計
C02-06 口唇・口腔	0	0	0	0	3	2	3	2	10
C06-14 咽頭	0	0	0	0	1	1	0	1	3
C15 食道	0	0	0	0	7	6	8	1	22
C16 胃	0	0	1	9	28	37	32	4	111
C17 小腸	0	0	0	0	1	1	1	1	4
C18-19 結腸	0	0	4	8	24	33	42	6	117
C20 直腸	0	0	0	2	5	7	5	0	19
C22 肝・肝内胆管	0	0	0	0	6	6	12	0	24
C23 胆のう	0	0	0	0	2	3	1	4	10
C24 胆管	0	0	0	1	2	8	10	3	24
C25 膵臓	0	0	0	1	4	18	15	3	41
C32 喉頭	0	0	0	0	0	0	1	0	1
C34 肺	0	0	1	4	24	35	29	4	97
C38・47-49 軟部組織	0	0	0	0	1	0	3	1	5
C40-41 骨	1	0	0	0	0	0	0	0	1
C42 造血系	0	0	3	3	4	3	5	1	19
C44 皮膚	0	0	0	1	0	1	5	3	10
C50 乳房	0	1	4	2	9	6	9	1	32
C51 外陰	0	0	0	0	0	0	1	0	1
C53 子宮頸部	4	10	9	1	4	0	0	1	29
C54 子宮内膜	0	1	0	0	2	2	1	1	7
C56 卵巣	0	0	0	2	3	3	3	0	11
C61 前立腺	0	0	0	2	19	20	9	0	50
C64-66 腎・尿路(膀胱除く)	0	0	0	0	2	4	7	0	13
C67 膀胱	0	0	2	1	8	8	18	3	40
C70 髄膜	0	0	0	0	1	1	0	0	2
C71 脳	0	0	0	2	0	3	2	0	7
C73-75 甲状腺・その他の内分泌腺	1	0	1	0	1	0	3	1	7
C77 リンパ節	0	2	1	0	1	6	8	2	20
C80 原発不明癌	0	0	0	0	2	2	4	1	9
合 計	6	14	26	39	164	216	237	44	746

VII 荘内病院人間ドック・検診検討委員会報告

人間ドック・検診成績表

		受診者(A)	要精検者(B)	精検受診者中 回報書回収(C)	がん以外 その他疾患(D)	がん (E)		
		(一次検診 受診者数)	(要精検率) 要精検者/受診者 (B)/(A)	(精検受診率) 回収/要精検者 (C)/(B)	疾患/要精検者 (D)/(B)	(陽性反応適中度): (がん発見率) がん/要精検者: がん/受診者 (E)/(B) (E)/(A)		
H27ドック	大腸がん検診	1,882	140 7.44%	62 44.29%	36 25.71%	5 3.57%	0.27%	
	胃がん検診	1,861	52 2.79%	39 75.00%	17 32.69%	7 13.46%	0.38%	
	肺がん検診	1,884	66 3.50%	53 80.30%	28 42.42%	1 1.52%	0.05%	
	子宮がん検診	525	2 0.38%	2 100.00%	1 50.00%	1 50.00%	0.19%	
	乳がん検診	649	44 6.78%	34 77.27%	6 13.64%	0 0.00%	0.00%	
	甲状腺	649	5 0.77%	5 100.00%	1 20.00%	0 0.00%	0.00%	
	大腸がん検診	1,857	139 7.49%	95 68.35%	57 41.01%	2 1.44%	0.11%	
H28ドック	胃がん検診	1,828	68 3.72%	46 67.65%	27 39.71%	10 14.71%	0.55%	
	肺がん検診	1,858	48 2.58%	38 79.17%	23 47.92%	1 2.08%	0.05%	
	子宮がん検診	490	4 0.82%	4 100.00%	3 75.00%	0 0.00%	0.00%	
	乳がん検診	652	36 5.52%	30 83.33%	9 25.00%	2 5.56%	0.31%	
	甲状腺	652	1 0.15%	1 100.00%	0 0.00%	0 0.00%	0.00%	
	大腸がん検診	1,767	116 6.56%	77 66.38%	29 25.00%	1 0.86%	0.06%	
	胃がん検診	1,748	48 2.75%	30 62.50%	13 27.08%	4 8.33%	0.23%	
H29ドック	肺がん検診	1,774	50 2.82%	41 82.00%	24 48.00%	1 2.00%	0.06%	
	子宮がん検診	475	2 0.42%	1 50.00%	0 0.00%	0 0.00%	0.00%	
	乳がん検診	623	33 5.30%	26 78.79%	9 27.27%	2 6.06%	0.32%	
	甲状腺	623	7 1.12%	6 85.71%	1 14.29%	0 0.00%	0.00%	
	乳がん検診	203	16 7.88%	16 100.00%	2 12.50%	0 0.00%	0.00%	
	H27検診	甲状腺	203	1 0.49%	1 100.00%	0 0.00%	0 0.00%	0.00%
		乳がん検診	177	15 8.47%	14 93.33%	3 20.00%	0 0.00%	0.00%
H28検診	甲状腺	177	8 4.52%	7 87.50%	2 25.00%	0 0.00%	0.00%	
	乳がん検診	179	13 7.26%	12 92.31%	1 7.69%	2 15.38%	1.12%	
H29検診	甲状腺	179	6 3.35%	6 100.00%	2 33.33%	0 0.00%	0.00%	

VIII 死亡症例検討会

第117回：平成29年1月23日

症例1 75M A-1335

臨床診断 脳梗塞

症例提示・病理報告

臨床研修医 櫻井裕基 医師

指導医 病理科 内ヶ崎新也 医師

脳神経外科 佐藤和彦 医師

2016年 剖検記録要約

剖検番号	年齢	性別	臨床診断[科名]	病 理 診 断
1335	75歳	男性	脳梗塞併心筋梗塞 [脳外科]	心肥大と刺激伝導系異常（心重量445g）+脳梗塞（左被殻・淡蒼球）（脳重量1400g） 1.慢性膵炎(125g) 2.急性尿細管壊死(左260g, 右170g)
1336	67歳	男性	侵襲性肺炎球菌感染症の疑い[内科]	敗血症性ショックによる全身性出血傾向（腎糸球体の多発フィブリン血栓形成） 1. 肺うっ血水腫（左575g, 右550g） 2. 急性尿細管壊死（左200g, 右190g）
1337	57歳	男性	敗血症[内科]	巣状肺炎併肺うっ血水腫（左920g, 右1005g） 1. 急性脾炎(275g) 2. 心肥大(675g) 3. 前立腺癌化学療法後状態
1338	76歳	男性	間質性肺炎[内科]	間質性肺炎（左380g, 右410g） 1. 心肥大(495g) 2. うっ血腎(左185g, 右170g)
1339	71歳	男性	突然死[救急]	心筋梗塞（左室前壁：新・旧）（480g） 1. 諸臓器うっ血（両側肺, 肝臓など）
1340	1日	女性	羊水過少症[小児科]	両肺低形成 1. 両腎低形成
1341	69歳	男性	食道癌[内科]	食道癌（扁平上皮癌） 転移：なし 1. 肝萎縮（590g） 2. 腹水貯留(4000ml) 3. 全身性黄疸
1342	62歳	男性	心肺停止[救急]	刺激伝導系異常（心重量395g） 1. 諸臓器うっ血; 肝臓（1590g）, 腎臓（左200g, 右155g）

荘内病院年譜

2017年（平成29年）

2017年 年譜

1月1日 元日

病院機能評価（一般病院2、<3rdG：Ver.1.1>）認定

1月4日 仕事始め 院内職場激励巡視

鶴岡市永年勤続表彰（25年勤続）

齋藤光典	富樫 清	阿部和人	井上裕子	齋藤美子	伊藤淑子
今野志津子	本間美由紀	若松順子	五十嵐知子	齊藤百美	鈴木 郁
三浦 嘉	竹内智美	佐藤めぐみ	石川由紀	五十嵐君花	伊藤 泉
船見美和子	出村真一	小林直也			

鶴岡市名刺交換会

1月8日 緩和ケア研修会

～9日

1月13日 鶴岡地区医師会新年会

1月14日 鶴岡地区薬剤師会新年会

1月19日 鶴岡地区歯科医師会新年会

1月20日 がん診療連携協議会

1月21日 つるおか健康塾

1月30日 新潟大学関連病院長会議

2月8日 医師確保対策寄付金（USGより）贈呈式

2月25日 庄内プロジェクト活動報告会

2月27日 鶴工吹奏楽コンサート

3月 中期経営計画（新公立病院改革プラン）を策定

放射線治療装置（ライナック）を更新

3月1日 鶴岡准看護学院卒業式

3月4日 第41回荘内看護専門学校卒業式

3月5日 みらい健康調査推進セミナー

3月17日 庄内地域保健医療協議会

3月18日 つるおか健康塾

3月21日 鶴岡市休日夜間診療協議会総会

3月22日 湯田川リハビリテーション病院へ車両贈呈式

病院見学・説明会

3月24日 山形大学医学部卒業式

3月28日 蔵王協議会総会

3月31日 退職職員	看護師	若松順子	宅井さやか	山本はるか	牧 由美	渡部 幸
		伊藤智子	齊藤真紀子	成澤かほる	的場かおり	進藤ゆみ
		亀田順子	佐藤ひとみ	阿部裕子	石塚 幸	新井真理子
		菅澤 杏				

診療放射線技師 伊藤昭俊
薬剤師 國分広志

- 作業療法士 今野麻巳子
 言語聴覚士 佐藤理沙
 臨床工学技士 佐藤与仁 石塚 篤
 転出 栄養士1名、事務部7名
- 4月1日 医療安全管理部を設置
消化器病センターを設置
- 4月3日 辞令交付式 新規採用 研修医(管理型)1名、医師1名、看護師22名、薬剤師2名
作業療法士3名、言語聴覚士1名、診療放射線技師1名
再任用 4名
転入 栄養士1名、事務部6名
看護師院外派遣研修 昭和大学横浜市北部病院 1名
新潟市民病院 1名
静岡県立静岡がんセンター 1名
山形大学医学部附属病院 1名
- 4月5日 鶴岡准看護学院入学式
- 4月13日 第44回荘内看護専門学校入学式 21名入学
- 4月17日 新潟大学関連病院長会総会
- 5月10日 南庄内緩和ケア推進協議会総会
- 5月12日 ふれあい看護体験 市内高校生が参加
- 5月20日 つるおか健康塾
- 6月1日 ANAすずらん贈呈式
- 6月2日 自治体病院協議会定例総会(鶴岡市)
- 6月27日 鶴岡市立荘内病院創立記念式典 創立104周年
20年勤続感謝状贈呈
五十嵐龍二 加藤幸子 佐藤知子 伊藤智子 佐々木志保 丸山リカ
飯田 愛 青柳由紀子 渡會美紀 小林千穂 高橋奈美 富樫美峯子
石川ひとみ 大森洋子 富樫敦子 田中 庸 長澤浩一
- 6月28日 鶴岡市休日夜間診療協議会総会
- 7月1日 山形大学医学部コンサート
- 7月3日 火災総合訓練
- 7月6日 全国公立病院連盟東北支部総会(いわき市)
～7日
- 7月8日 日本医療マネジメント学会(仙台市)
- 7月11日 東北厚生局適時調査
- 7月15日 日本医療マネジメント学会山形県支部学術集会(鶴岡市マリカ)
特別講演講師 坂本すが先生
- 7月27日 鶴岡地区勤務医と医師会員懇談会
- 8月1日 第7回荘内病院オープンホスピタル(15名参加)
- 8月4日 看護部病院説明・見学会
- 8月9日 ジュニアオーケストラミニコンサート
- 8月19日 病院ボランティア赤川花火観覧
- 9月4日 庄内地域保健医療協議会
- 9月10日 荘内看護専門学校 看学祭

- 9月16日 つるおか健康塾
9月21日 山形県病院協議会定期総会
 永年勤続表彰（25年勤続）26名
9月23日 東北がんネットワーク会議（仙台市）
9月24日 鶴岡市防災訓練
9月27日 緩和ケアコンサート
9月29日 新潟大学医学部学士会 荘内支部総会
10月1日 鶴岡市新市制施行記念式典
10月5日 緩和ケア講演会
10月25日 鶴岡地区病院協議会
10月27日 山形県自治体病院協議会看護部長会（寒河江市）
 ～28日
10月28日 荘内病院地震総合訓練
10月29日 高校生セミナー
11月1日 荘内病院キャンサートリートメントボード開始（月1回予定）
11月10日 荘内看護専門学校 継灯式
11月12日 ドクター出前講座（道田町）
11月15日 鶴岡准看護学院 戴帽式
 鶴岡市議会厚生常任委員会来院
11月24日 五者懇談会
11月25日 緩和ケア市民公開講座（三川町）
11月26日 歯科医師会創立100周年祝賀会
 庄内医師集談会
12月7日 山形ADR講演会
 庄内地域保健医療協議会（庄内地区地域医療構想策定）
12月9日 ドクター出前講座（民田）
12月15日 院内ミニコンサート イルミネーション点灯
12月22日 富田勝氏の山形県特別功労賞受賞を祝う会

鶴岡市立荘内病院医学雑誌について

名 称	鶴岡市立荘内病院医学雑誌	編集委員 委員長	白幡康弘
略 名	鶴岡市立病院医誌	副委員長	高柳健史
欧文名称	The Medical Journal of Tsuruoka Municipal Shonai Hospital	委 員	古屋紀彦 和泉典子 武石越郎 草島宏平
欧文略称	Med.J.Shonai Hospital		菅原永里奈 遠藤広志
発 行 者	三科 武		鈴木 郁 佐藤 郁
発 行 所	鶴岡市泉町4番20号 鶴岡市立荘内病院		叶野明子 上林千夏 阿部奈美
		発行部数	450部
		発行回数	毎年1回

鶴岡市立荘内病院医学雑誌投稿規定 (第25巻より)

本誌の内容および投稿資格について

論文の構成と書き方

- 1 本誌に掲載する論文は、鶴岡市立荘内病院の職員及びその関係者の投稿による。
以前当院の職員であった場合の投稿については、当院で経験された症例であり、他誌への掲載がない場合のみ投稿を許可する。
- 2 本誌は、医学に関する症例研究、学術研究、綜説、症例報告、集談会記録、この他病院活動、病院統計、病院管理運営に関する記録も収録する。
- 3 原著、綜説は未発表のものに限る。
- 4 他雑誌に全文収載された論文については、著書名、標題名、収載雑誌名、巻、号、ページ、年を記録し、抄録を載せる。
- 5 学会・集会等において、これらの記録誌に抄録のみ収載されたものについては、講演原稿あるいはこれを改稿して論文の体裁を整えたものあるいは抄録を収録して、発表した学会・集会名、発表年月日を併記する。
なお、4、5については、各部門の業績として責任者が一括して(様式は、別に定める)図書室司書に提出する。
- 6 論文は査読を行い、採否、掲載順序は編集委員会が決定する。

- 7 原稿の形式は、標題、氏名(所属)、400字程度の要約、Key words(5個以内)、本文、文献、写真、図表とする。
- 8 原稿は、原則として20字×20行とし、邦文、横書き、平かな、当用漢字(専門用語は使用してよい)、現代かなづかいを用いる。
原稿用紙は、20字×20行であれば、市販の用紙でもかまわない。
ワープロを使用する場合は、20字×20行詰原稿とする。
- 9 本文の長さは、原著24枚、症例20枚程度を標準とする。(図表を除く)
- 10 論文には英文タイトルおよびローマ字による著者名を併記する。
- 11 外国語の固有名詞は、原語のまま用いる。ただし、日本語化しているものは片かなとする。
薬品名は、商品名を用いず、正式名を用いる。
- 12 度量衡は、C.G.S.単位とし、算用数字を用いる。ただし、専門的な分野については考慮する。

図・表・写真について

- 13 図表は、原稿本文とは別の用紙に黒インクで書き、表題や説明をつける。
- 14 写真等は、原則として白黒とし、挿入箇所は原稿用紙の欄外に朱書きする。
- 15 カラー写真は、原則として認めないが、編集委員会で認めたものについては、カラー印刷とする。

文献について

- 16 文献は、出現順に番号を文章の右肩に附し、本文の終わりにまとめて記載する。
外国雑誌は Index Medicus、邦文雑誌は医学中央雑誌収載誌目録による略語を使用する。著者は、初出の2名までとし、以下は邦文では他、欧文では et alと記載する。標題名は完全に記載する。

〔原著の場合〕

著者名：論文題名. 雑誌名 巻(号)：頁～頁, 西暦年号

例：

1) 邦文誌

宮田清典, 高田 治, 他：グルカゴンーインスリン療法にて減黄効果を得た胆汁うっ滞性黄疸の1例. 最新医学 44(3):632-638,1989

2) 欧文誌

McMahon BJ, Helminiak C, et al: Frequency of adverse reactions to hepatitis B vaccine in 43,618 persons. Am J Med 92:254-256,1992

〔著書(単行本)の場合〕

著者名：題名. 監修者名(編者名), 書名, 版, 頁～頁, 出版社, 出版地,

西暦年号

例：

1) 和書

内野治人, 他：前白血病. 中尾喜久監修, 白血病のすべて, 2版, p38-45, 南江堂, 東京,

1981

2) 洋書

Gardnar MB: Oncogenes and acute leukemia. Stass SA(ed), The Acute Leukemias, p327-359, Marcel Dekker, New York, 1987

その他

- 17 原稿申込は年中受け付けるものとするが、2月末日までに提出されたものは、最新号への掲載とする。原稿受付は編集委員会が行い、その受付代表を図書室司書とする。

- 18 校正は、原則として著者が行う。

- 19 別刷は、20部まで病院の負担で行う。それ以上は、実費を著者の負担とする。(校正時に別刷の部数を指定すること)

- 20 本誌に掲載された論文の著作権は、荘内病院に帰属するものとし、出版権・複製権・公衆送信権の利用について許諾するものとする。

(平成11年4月1日 改正)

(平成20年4月1日 改正)

(平成25年12月1日 改正)

(平成26年12月1日 改正)

【学術活動業績の書き方】

－他誌に論文を掲載した場合－

論文タイトル

鶴岡市立荘内病院所属科

著者名

掲載した雑誌名 巻(号)：頁～頁, 西暦

要 約 (必要な場合)

－学会に発表した場合－

論文タイトル

鶴岡市立荘内病院所属科

発表者

第○回

学会名 (発表した日付 西暦年 月 日)

抄 録 (必要な場合)

－院外で講演を行なった場合－

講演タイトル

鶴岡市立荘内病院所属科 講演者

講演会名 (講演会日 西暦年 月 日)

－院内での各種研修会を行なった場合－

各部署ごとにまとめて、前巻にならって提出して下さい。

上記の様式で書き、各部門の責任者がまとめてから提出してください。

荘内病院医学雑誌編集委員会要綱

(目 的)

第1条 この要綱は荘内病院医学雑誌を編集するために設置する編集委員会（以下「委員会」という）について必要な事項を定めることを目的とする。

(所 轄 事 項)

第2条 委員会は、病院が発行する医学雑誌の編集および関係機関への配布を所轄する。この医学雑誌はとりあえず年1回発行し、将来は複数回発行を目指すものとする。

(組 織)

第3条 委員会は委員長1名、副委員長1名および若干名の委員より構成される。

2 委員は病院職員のなかから院長が委嘱する。

3 委員長および副委員長は委員の互選により決定する。

4 委員の任期は2年とし、欠員が生じた場合の任期は、前任者の残任期間とする。任期終了後、再度委嘱されることを妨げない。

5 次期委員の推薦は、編集委員の任期終了前に、病院管理者と委員との合同会議で行なうものとし、被推薦者の同意を得るものとする。

(顧 問)

第4条 委員会の円滑な運営を図るため、次の顧問を置く。

- (1) 副院長
- (2) 診療部長
- (3) 事務部長
- (4) 看護部長
- (5) 教育研究研修委員長及び副委員長

(支 援 組 織)

第5条 委員会において困難な問題が生じ、他の

病院職員の支援を必要とするような場合は、医長会議および科長会議に諮るものとする。これらの機関はしかるべき援助をしなければならない。

(会 議)

第6条 委員長は必要に応じて委員会を召集し会議を主催する。

2 副委員長は委員長を補佐し、委員長が不在のときはその職務を代行する。

3 委員会は必要に応じ、上記以外の職員または知識経験者の出席を求めて意見を聞くことができる。

(投 稿 等)

第7条 職員は病院の使命を果たすために必要な研讃に努めるとともに、委員会の業務に協力するものとする。

2 投稿規定は別に定める。

(庶 務)

第8条 委員会の庶務は事務部において処理する。

付 則

この要綱は、1989年6月より適用する。

この要綱は、2001年10月1日に改定、施行する。

この要綱は、2003年7月1日に改定、施行する。

編 集 後 記

2019年は、天皇の皇位継承により平成最後の年となります。2018年12月の現時点で次の年号は、聞こえてきませんが、誰しもが期待を持つ心持ちと思います。2019年5月のゴールデンウィークは、様々に、日本人にとって新たな起点となるでしょう。しかし、地域医療の現状は厳しく、医師遍在の中、医師集約化・地域医療再編など声高だかに叫ばれますが、慎重に対応しないと、地域が見捨てられる医療の方向ともなってしまう可能性もあります。当院としては、しっかりと鶴岡市、南庄内の医療圏15万人の医療を担っていかねばなりません。そんな厳しい状況の中、学術論文を書き、しっかりと医学を考えるのも重要な事と考えます。今年も荘内病院医学雑誌発刊に向け、各部署の方が努力していただきました。鶴岡は殿様の町です。商売は下手でもしっかりと医学について考えていきたいと考えます。

今回は、日々地域医療・連携に大変な労力の中、努力していただいている地域連携室の特集をさせていただきました。私自身も当地域にて介護認定されている親を持つ身として、当地域の地域医療・介護に多大な貢献に感謝しております。今後ますます貢献が期待される部署にて、今後とも南庄内の医療、介護の充実のため、頑張ってもらいたいと思います。

また、日々の忙しい診療の中、寄稿していただいた方々、査読していただいた方々、多大な雑誌編集にご苦勞していただいた方々に、厚く御礼申し上げます。今後、更に本誌の発展に向け、努力していきたいと考えます。

平成30年12月1日

編集委員 白 幡 康 弘

鶴岡市立荘内病院医学雑誌

第 29 卷

2019年 3月5日印刷
2019年 3月22日発行
発行者 三 科 武
編集者 鶴岡市立荘内病院医学雑誌編集委員会
発行所 鶴岡市立荘内病院内
鶴岡市立荘内病院医学雑誌編集委員会
〒997 - 8515 鶴岡市泉町4番20号
電 話 0235 (26) 5111
F A X 0235 (26) 5110
URL = <http://www.shonai-hos.jp>
e-mail : tosyo@shonai-hos.jp

印刷人 黒 井 徳 夫
印刷所 J A 印 刷 山 形
〒997-0004
鶴岡市本田字八百地275番地
電 話 0235 (24) 0690
FAX 0235 (24) 0637